

Network Storage System

LAS-RAN シリーズ
LAS-MRN シリーズ
LHD-NAS シリーズ

ネットワーク ストレージ システム

ソフトウェア マニュアル

Logitec

目次

はじめに	4
ソフトウェアについて	4
本製品の使用環境に関する注意事項	7
シリーズ別対応機能	8
第1章 設定について	10
設定のステップ	11
ステップ1：付属ソフトウェアのインストール	12
Windows 環境の場合	12
Macintosh 環境の場合	15
ステップ2：IP アドレス・パスワード等の設定	16
IP アドレスの設定：Windows 環境の場合	16
IP アドレスの設定：Macintosh 環境の場合	19
ステップ3 高速環境設定	23
補足事項：設定がうまく行かない場合は	29
ステップ4：クライアントコンピュータからのアクセス	30
Windows Me, 2000 からのアクセス (SMB 共有)	30
Windows XP からのアクセス (SMB 共有)	31
Windows 98, NT 4.0 からのアクセス (SMB 共有)	32
MacOS からのアクセス (AppleTalk 共有)	33
Linux からのアクセス (NFS 共有)	34
第2章 NAS の詳しい設定 (ストレージマネージャ)	35
ストレージマネージャへのログイン	37
基本設定	38
システム管理者のパスワードの変更	38
サーバ名の変更	39
ネットワーク設定 (DNS サーバ、ドメイン (TCP/IP))	40
IP アドレスの設定 (LAN ポート1)	41
IP アドレスの設定 (LAN ポート2)	42
日付の設定	44
言語の設定	46
通知用メールアドレスの設定	47
詳細設定	49
ユーザーアカウントの作成	49
ユーザーアカウントの削除	52
ユーザーアカウントの変更	53
グループ設定	54
グループ設定：新規グループの作成	54
グループ設定：グループメンバーの追加と削除	56
グループ設定：グループの削除	58
グループ設定：グループ名の変更	59
グループ設定：補足事項	60

共有フォルダの作成	61
新規共有フォルダの作成	61
共有フォルダの削除	63
共有フォルダの変更	64
共有フォルダへのアクセス制限の設定方法	66
Windows/Macintosh クライアントからのアクセス制限	66
NFS のアクセス制限の設定	70
NFS のアクセス権限の変更	73
ワークグループの設定	75
Windows ドメインへの参加	76
UNIX ネットワークの設定	82
Apple ネットワークの設定	84
Novell Network の設定	85
インターネットネットワークの設定	86
ディスク割当の設定	87
セキュリティオプション	89
UPS 管理	91
SNMP 環境設定	95
工場出荷時への戻し方	98
シャットダウン / 再起動	100
ファイルブラウザ	101
システムの更新	101
サーバ情報の確認	102
ユーザーアカウントでストレージマネージャにアクセスする場合	103
第 3 章 バックアップツールの使用	107
NAS のデータおよび設定のバックアップ	108
バックアップのスケジュール化	113
NAS のバックアップデータを復元 (リストア)	117
クライアントパソコンのデータのバックアップとリストアについて ...	124
LogitecNAS Client Backup の使用環境	125
クライアントデータを NAS にバックアップ	126
コンピュータのファイルとフォルダをモニタする	130
バックアップされたファイルの拡張子について	130
変更されたデータのみバックアップ	131
ファイルにフィルタをかける	132
NAS から Windows クライアントにファイルを復元	133
タグ管理	135
プリファレンス	137

付録	139
付録 1 : RAID とは	139
付録 2 : トラブルシューティング	142
付録 3 : 電子メール通知一覧	156
付録 4 : 本製品のデフォルト値	161
付録 5 : 用語集	163
付録 6 : 設定制限表	171
付録 7 : LogitecNAS Backup バックアップ項目一覧	172
付録 8 : LogitecNAS Backup 復元 (リストア) 項目一覧	173

はじめに

本ソフトウェアマニュアルではロジテックネットワークストレージシステムの各種設定・制限事項などについてご説明します。

ソフトウェアについて

本製品は以下のソフトウェアを使用して設定を行います。

「Logitec NAS Assistant」

Logitec NAS Assistantは、システム管理者がIPアドレスの検索と設定のために使用します。

LAN上のWindowsまたはMacintoshクライアントにインストールし、本製品にログインして個人情報を変更することができます。

また、本製品の共有フォルダをネットワークドライブとして登録することもできます。(Windows版のみ)

対応 OS

Windows XP Home Edition/Professional

Windows Me

Windows 98 (Second Edition 含む)

Windows 2000 Professional SP1 以降

Windows NT 4.0 Workstation SP6 以降



Mac OS 9.0.4 ~ Mac OS 9.2.2 まで



Mac OS X 10.0.4 以降



この項目は次ページへ続きます。

「ストレージマネージャ」

Windows 版、Macintosh 版の Internet Explorer 上で動作し、本製品の管理・運用にかかわる設定を行います。管理者以外のユーザーも自分の登録情報を変更することができます。

「Logitec NAS Assistant」での設定が終わると自動的に起動します。このソフトウェアは本製品内に初めからインストールされており、Internet Explorer で本製品にアクセスすることにより起動します。

インターネットブラウザは Internet Explorer 5.0以降をご使用ください。また、現在 OS のセキュリティパッチと Internet Explorer のバージョンの組み合わせにより、ストレージマネージャが正常に表示されない場合があります。その場合は Internet Explorer を最新のバージョンのものにアップデートしてください。



「LogitecNAS Backup」

Windows 対応のバックアッププログラムです。システム管理者が使用し、データをバックアップできます。また、データを NAS サーバへ復元することもできます。

LogitecNAS Backup ツールでは以下の内容についてバックアップを行うことができます。

- ・システム情報のバックアップ
- ・ユーザーアカウントとグループのバックアップ
- ・ユーザーアカウントとグループ、データのバックアップ
- ・システム情報、ユーザーアカウントとグループのバックアップ

対応 OS

Windows XP Home Edition/Professional

Windows Me

Windows 98 (Second Edition 含む)

Windows 2000 Professional SP1 以降

Windows NT 4.0 Workstation SP6 以降



「LogitecNAS Client Backup」

LogitecNAS Client Backup ツールでは、クライアントパソコンのデータをフォルダ単位で NAS サーバにバックアップするためのツールです。

LogitecNAS Client Backup ツールでは以下の内容についてバックアップを行うことができます。

- ・ 指定したフォルダ内容のリアルタイムバックアップ
- ・ 指定したフォルダ内容の手動バックアップ
- ・ バックアップファイルの圧縮化
- ・ バックアップファイルのパスワード付きの暗号化
- ・ バックアップファイルの世代管理（最大 20 世代まで）

対応 OS

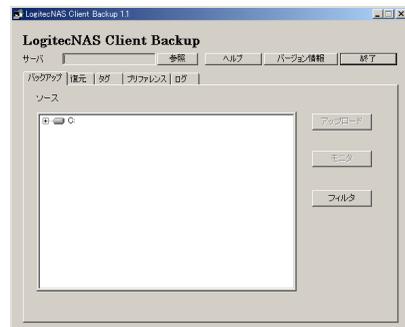
Windows XP Home Edition/Professional

Windows Me

Windows 98（Second Edition 含む）

Windows 2000 Professional SP1 以降

Windows NT 4.0 Workstation SP6 以降



本製品の使用環境に関する注意事項

全般

- ・対応 OS 外のクライアントパソコンでの使用は未サポートです。
- ・なるべく 100BASE-TX 以上の環境に接続してご利用ください。
- ・本製品を常時起動させる場合は、不意の停電などに備え、UPS などをご利用ください。

ファイル共有に関して

- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にインターネットや電話回線、ファイヤウォールを介する環境での使用は未サポートです。
- ・異なるOSの間でファイル共有をする場合はファイル名などの環境をOS制限の一番厳しい環境に合わせてご利用ください。
「付録6：設定制限表」を参照

管理画面（ストレージマネージャ）に関して

- ・対応 Web ブラウザ以外での操作は未サポートです。
- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にインターネットや電話回線、ファイヤウォールを介する環境での使用は未サポートです。
- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にWebを通過させないルータ等の中継機器を介する環境では使用できません。

添付ソフトウェアに関して

LogitecNAS Assistant / LogitecNAS Backup / LogitecNAS Client Backup

- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にルータなどのセグメントを越えるネットワークでは使用できません。

ロジテックフォルダミラーリングツール

- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にインターネットや電話回線、ファイヤウォールを介する環境での使用は未サポートです。

シリーズ別対応機能

本マニュアルは下の表で示されているLASシリーズおよびLHD-NASの設定方法についてご説明しております。ただし、機種によっては対応していない設定もございます。ご使用の機種の対応状況につきましては下の表でご確認ください。

ソフトウェア	シリーズ名			
	項目	LAS- RAN	LAS- MRN	LHD- NAS
LogitecNAS Assistant	NAS製品の検索			
LogitecNAS Backup	システム情報のバックアップ			
	ユーザアカウントとグループのバックアップ			
	ユーザアカウントとグループ、データのバックアップ			
	システム情報、ユーザアカウントとグループ、データのバックアップ			
LogitecNAS Client Backup	指定したフォルダ内容のリアルタイムバックアップ			
	指定したフォルダ内容の手動バックアップ			
	バックアップファイルの圧縮化			
	バックアップファイルのパスワード付きの暗号化			
	バックアップファイルの世代管理(最大20世代まで)			

= 対応

- = 未対応

シリーズ別対応機能

= 対応
- = 未対応

ソフトウェア	項目	シリーズ名	LAS-RAN	LAS-MRN	LHD-NAS
ストレージ マネージャ	システム管理者のパスワードの設定				
	サーバの基本設定				
	サーバの基本設定 (LANポート1)				
	サーバの基本設定 (LANポート2)				
	システムの日付と時刻の設定				
	NTPサーバ対応				
	言語の選択				
	通知あて先の入力				
	共有フォルダ設定				
	ユーザー アカウント設定				
	グループ設定				
	ディスク割当 (クォータ)の設定				
	セキュリティオプション				
	Windows ドメイン/ ワークグループ設定				
	UNIX ネットワーク 設定				
	Apple ネットワーク設定				
	Novell Network 設定				
	インターネットネットワーク				
	SNMP設定				
	UPS管理				
デフォルトを復元					
システム更新					
シャットダウン・レポート					

第1章 設定について

設定の前に...

設定を行う前に、以下の手順で本製品の接続を行ってください。

ハードウェアマニュアルを参照の上、装置が正しく接続されていることを確認してください。

電源コードを接続して本製品の電源をONにします。

注)コネクタの位置などは製品によって異なりますので、付属のハードウェアマニュアルをご参照ください。

設定のステップ

本製品を正しく使用するために、システムを管理する方が以下のステップで設定を行ってください。

ステップ1 付属ソフトウェアのインストール

本製品を設定するのに必要なソフトウェアをCD-ROMからインストールします。

1

ステップ2 IPアドレス・パスワード等の設定

インストールしたソフトウェア「LogitechNAS Assistant」を起動してシステム管理者のパソコンから本製品のネットワーク上のアドレスを設定し、管理者のパスワード等を登録します。

ステップ3 クライアントコンピュータからのアクセス方法

設定が行われアクセス可能となったNASへアクセスする方法を各OSごとに説明します。

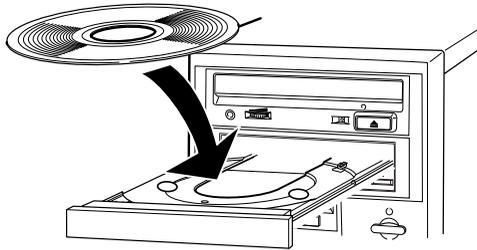
ステップ 1 付属ソフトウェアのインストール

(全シリーズ共通)

まずは本製品を設定するのに必要なソフトウェアを CD-ROM からインストールします。

Windows 環境の場合

「Logitec NAS サポートディスク」を CD-ROM ドライブにセットします。



セットアップランチャーが起動し以下の画面が表示されます。ご購入いただいた製品のシリーズ名のアイコンを選択し「セットアップの起動」ボタンをクリックしてください。



1. ご使用のシリーズ名のアイコンをクリックします
2. 「セットアップの起動 (E)」をクリックします

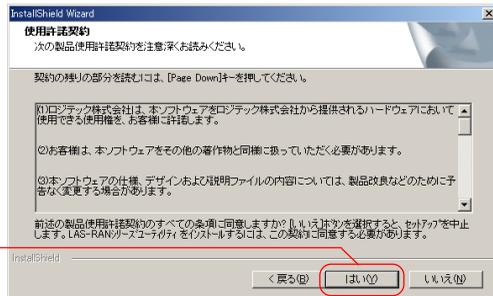
セットアップウィザードが起動します。「次へ」をクリックしてください。



「次へ」をクリック

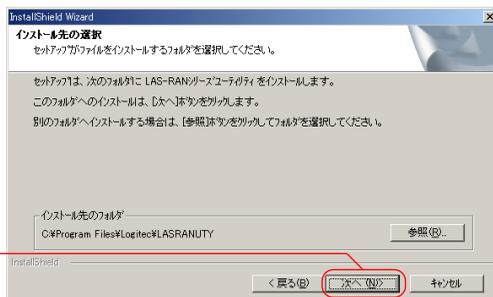
これ以降のウィザードで使用する画面はLAS-RANシリーズのものですが、手順は全てのシリーズで共通です。LAS-RANの部分をご使用のシリーズ名に読み替えてお進みください。

以下の画面が表示されます。使用許諾契約をよく読み、同意する場合は「はい」を押して次に進みます。



同意する場合は、
「はい」をクリック

インストール先のフォルダを指定するウィンドウが表示されます。特に問題がない場合はそのまま「次へ」をクリックします。



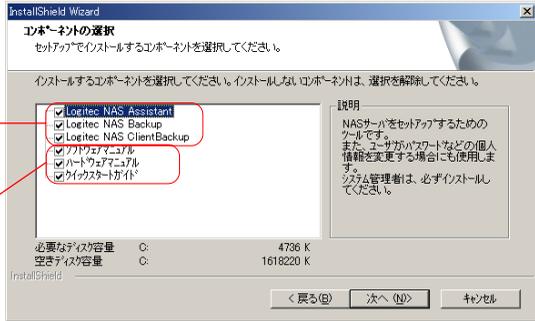
「次へ」をクリック

Windows 環境の場合

インストールするコンポーネントを選択するウィンドウが表示されます。左側のチェックボックスにチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックします。

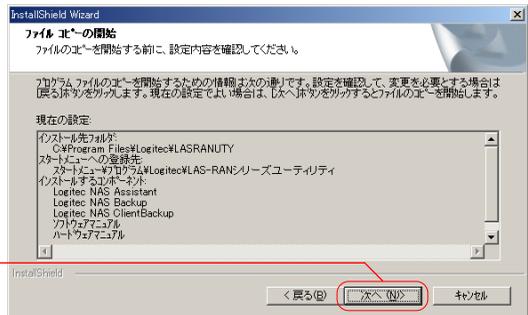
ソフトウェア類は
必ずインストール

マニュアル類は必要に
応じてインストール



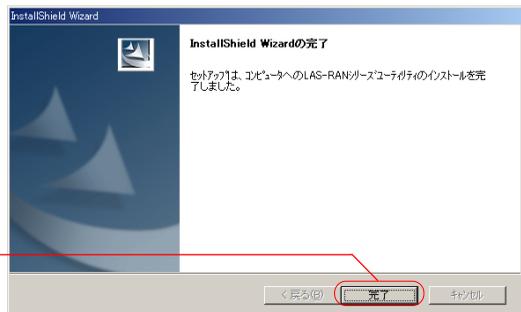
設定内容を確認するウィンドウが表示されます。内容を確認して「次へ」をクリックしてください。

「次へ」をクリック



必要なファイルがシステムに転送され、終了すると以下の画面が表示されます。「完了」ボタンをクリックしてください。

「完了」をクリック



以上でインストールは終了です。

Macintosh 環境の場合

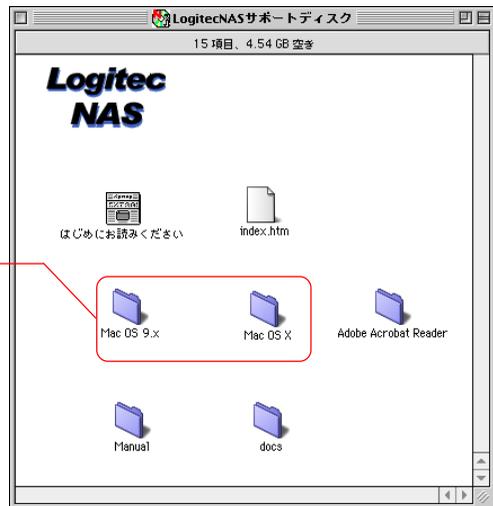
「Logitec NAS サポートディスク」を CD-ROM ドライブにセットします。次のアイコンがデスクトップにマウントされるので、ダブルクリックして開いてください。



LogitecNASサポートディスク

CD-ROM 内のフォルダの中で、ご使用のパソコンに搭載されている OS に合わせて [Mac OS 9.x] または [Mac OS X] フォルダをデスクトップ上にコピーします。

ご使用の OS に対応するフォルダをデスクトップ上にコピーします。



以上でインストールは終了です。

ステップ2 IPアドレス・パスワード等の設定

(全シリーズ共通)

ステップ2では以下の2つの設定を行います。

「IPアドレスの設定」

インストールしたソフトウェア「LogitecNAS Assistant」を起動してパソコンから本製品のネットワーク上のIPアドレスを設定します。

「高速環境設定」

自動的に「ストレージマネージャ」が起動し、「高速環境設定」画面に切り替わります。ここで管理者のパスワード等、基本的な設定を行います。

の設定はWindowsとMacintoshで異なります。該当するOSの部分をお読みいただき、「高速環境設定」へお進みください。

1

IPアドレスの設定：Windows環境の場合

[スタート] ボタンから [プログラム] (Windows XPの場合は「すべてのプログラム」) を選択し、[Logitec] - [*** シリーズユーティリティ] から、[Logitec NAS Assistant] を選択してください。

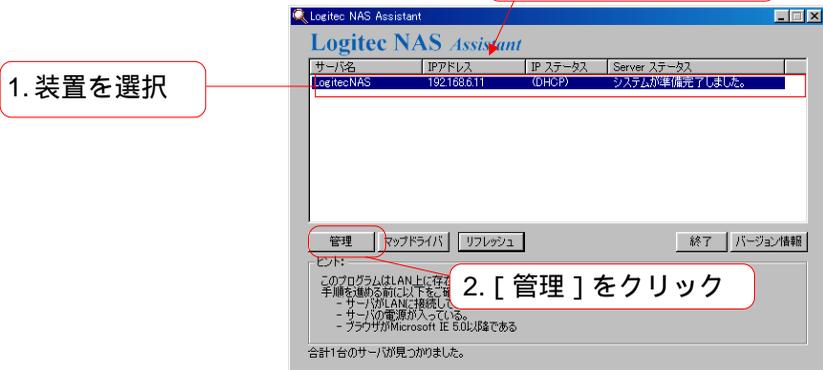
「*****」の部分には、製品のシリーズ名が入ります。



選択画面 (Windows 2000 の例)



IP ステータスを確認してください。



LAN上で動作している Logitec NAS シリーズが表示されます。設定する装置を選択して、[管理] ボタンをクリックします。

・この時、IPステータスの項目に(DHCP)と表示されている場合は、自動的にIPアドレスなどが設定されますのでステップ3「高速環境設定」へお進みください。

・IPステータスが(Unknown)と表示されている場合は、次の「IPステータスがUnknownの場合」を参照してください。

❗ サーバ名の欄にはシリーズに関わらず出荷時設定では「LogitecNAS」と表示されます。複数のLogitecNASシリーズを導入される場合、区別をつけるためにサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更はステップ3「高速環境設定」で行えます。

IP ステータスが (Unknown) の場合

LAN上にDHCPサーバがない場合などはIPステータスの欄に(Unknown)と表示されます。この時に [管理] ボタンを押すと次のようなネットワーク環境設定画面が表示されます。以下の手順で設定を行ってください。

1. 半角小文字で「password」と入力

2. [手動設定を行う] を選択

3. [候補] ボタンを押す、または必要な値を入力

4. [適用] ボタンをクリック

システム管理者のパスワードの項目は入力内容にかかわらず「*****」と表示されます。

[システム管理者パスワード] の欄に半角小文字で「password」と入力します。

[手動設定を行う] を選択します。

[候補] ボタンを押し、現在空いている IP アドレスを見つけ出すか、直接必要な値を入力してください。

[適用] ボタンを押してください。

デフォルトゲートウェイやドメイン名が入力されていないと確認のメッセージが表示されますが、特に必要がなければ、[OK] をクリックして先に進んでください。

[システム管理者パスワード] と [IP アドレス] [サブネットマスク] は必須項目ですので必ず入力してください。それ以外の項目が未入力の場合、[適用] ボタンを押した後にメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

入力する値はネットワークの形態や設定により大きく異なります。この値がわからない場合は、ネットワークを構築した方にご相談ください。

以上でIPアドレスの設定は終了です。ステップ3「高速環境設定」へお進みください。

⚠️ ご注意 :

すでに管理者のパスワードを変更している場合は、システム管理者パスワードの項目に現在のパスワードを入力してください。

IP アドレスの設定 : Macintosh 環境の場合

1. Mac OS X の場合

インストール時にコピーしたフォルダをダブルクリックして開き、[LogitecNAS Assistrant] をダブルクリックして、[LogitecNAS Assistant] を起動します。

IP 状況を確認してください。

1. この欄で、設定する装置を選択してください。

2. [管理] をクリック

LAN上で動作している Logitec NAS シリーズが表示されます。設定する装置を選択して、[管理] ボタンをクリックします。

・この時、IP 状況の項目に (DHCP) と表示されている場合は、自動的に IP アドレスなどが設定されますので「クイックセットアップ」へお進みください。

・IP 状況が (Unknown) と表示されている場合は、次の「IP 状況が Unknown の場合」を参照してください。

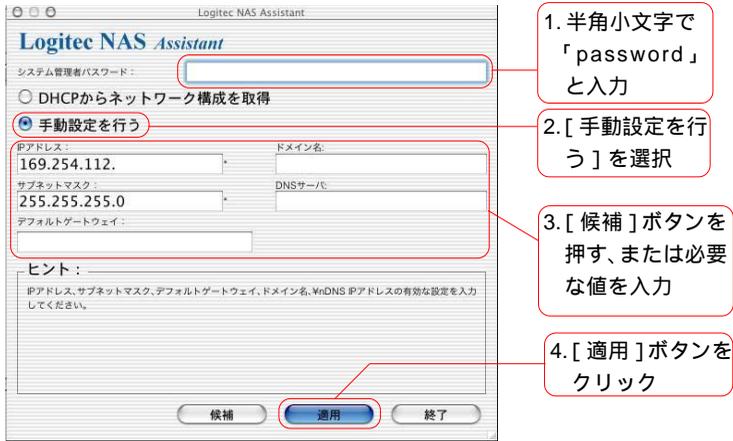
❗ サーバ名の欄には出荷時設定では「LogitecNAS」と表示されます。複数の LogitecNAS シリーズを導入される場合、必ずサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

ステップ2：IPアドレス・パスワード等の設定

IPアドレスの設定：Macintosh 環境の場合

IP 状況が Unknown の場合 (Mac OS X)

LAN上にDHCPサーバがない場合などはIPステータスの欄に(Unknown)と表示されます。この時に[管理]ボタンを押すと次のようなネットワーク環境設定画面が表示されます。以下の手順で設定を行ってください。



[システム管理者パスワード] の欄に半角小文字で「password」と入力します。

[手動設定を行う] を選択します。

[候補] ボタンを押し、現在空いているIPアドレスを見つけ出すか、直接必要な値を入力してください。

[適用] ボタンを押ししてください。

デフォルトゲートウェイやドメイン名が入力されていないと確認のメッセージが表示されますが、特に必要がなければ、[OK] をクリックして先に進んでください。

[システム管理者パスワード] と [IPアドレス] [サブネットマスク] は必須項目ですので必ず入力してください。それ以外の項目が未入力の場合、[適用] ボタンを押した後にメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

入力する値はネットワークの形態や設定により大きく異なります。この値がわからない場合は、ネットワークを構築した方にご相談ください。

以上でIPアドレスの設定は終了です。次の「クイックセットアップ」へお進みください。

! **ご注意：**

すでに管理者のパスワードを変更している場合は、システム管理者パスワードの項目に、現在のパスワードを入力してください。

ステップ2: IP アドレス・パスワード等の設定

IP アドレスの設定: Macintosh 環境の場合

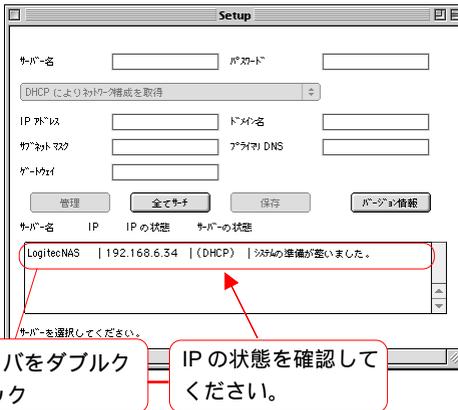
2. Mac OS 9.x の場合

インストール時にコピーしたフォルダをダブルクリックして開き、[LogitecNAS Assistant] をダブルクリックします。

表示される画面で IP の状態を確認してください。

画面の下の部分に LAN 上で動作している LogitecNAS シリーズが表示されます。設定する装置の [IP の状態] を確認してください。[IP の状態] により次のいずれかの手順で設定を行います。

[IP の状態] に (DHCP) と表示される場合



設定する装置をダブルクリックして選択します。

以上でストレージマネージャが起動します。次の「クイックセットアップ」へお進みください。

❗ サーバ名はシリーズに関わらず出荷時設定では「LogitecNAS」と設定されています。複数の LogitecNAS シリーズを導入される場合、必ずサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

ステップ 2 : IP アドレス・パスワード等の設定

IP アドレスの設定 : Macintosh 環境の場合

[IP の状態] に (Unknown) と表示される場合 (Mac OS 9.x)

1. この欄にサーバ名が表示されるので選択してください。

2. [管理] をクリック

3. 半角小文字で「password」と入力

4. [マニュアル構成を使用] を選択

5. 必要な値を入力

6. [保存] をクリック

7. 再度設定する装置をクリック

IP の状態を確認してください。

設定する装置を選択します。

[管理] ボタンをクリックします。

パスワードの欄に半角小文字で「password」と入力します。

[マニュアル構成を使用] を選択してください。

IP アドレス、サブネットマスク等の欄にネットワーク環境に応じた値を入力します。

[保存] ボタンをクリックします。

再度設定する装置をクリックします。

以上でストレージマネージャが起動します。次の「クイックセットアップ」へお進みください。

[システム管理者パスワード] と [IP アドレス] [サブネットマスク] は必須項目ですので必ず入力してください。

入力する値はネットワークの形態や設定により大きく異なります。この値がわからない場合は、そのネットワーク管理者にご相談ください。

❗ サーバ名はシリーズに関わらず出荷時設定では「LogitecNAS」と設定されています。複数のLogitecNASシリーズを導入される場合、区別をつけるためにサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

❗ ご注意 :

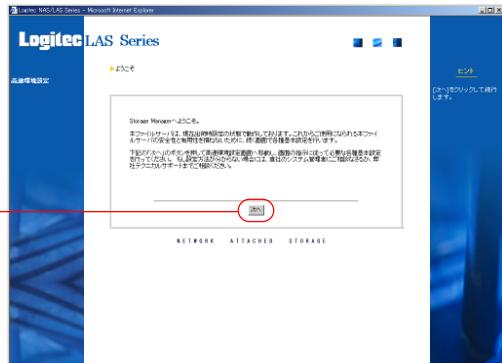
すでに管理者のパスワードを変更している場合は、現在のパスワードを入力してください。

ステップ 3 高速環境設定

高速環境設定は初回起動時や、本製品のシステム設定を出荷時状態に戻した時に自動的に起動します。すでに高速環境設定が済んでいる場合は、通常のストレージマネージャが起動します。通常のストレージマネージャの操作については第 2 章をご参照ください。

1. 「ストレージマネージャ」が起動し、以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

[次へ] を
クリック



2. システム管理者のパスワード設定画面が表示されます。セキュリティ上、パスワードは必ず初期状態から変更してください。パスワードには大文字小文字の区別があります。

1. 新しいパスワード
を入力（2 度）

システム管理者 (root) のパスワードが設定されて、ません。セキュリティを守るために、有効なパスワードを入力し、覚えておく必要があります。

パスワード: *

パスワードの確認: *

2. [次へ] をクリック

戻る [次へ]

⚠️ ご注意 :

管理者パスワードを忘れると、再度システムを設定し直すことができなくなります。決して忘れないように管理してください。忘れた場合、弊社でもサポートいたしかねます。

3. サーバ名・ドメイン名・DNS サーバを入力する画面が表示されます。

The screenshot shows a configuration window titled "サーバ名、ドメイン名、および DNS サーバを入力してください。" (Please enter server name, domain name, and DNS server). The fields are as follows:

- サーバ名 (Server Name):** A text box containing "LogitecNAS" with an asterisk, highlighted by a red box and labeled "1. サーバ名を入力".
- ドメイン名 (Domain Name):** A list of four empty text boxes, highlighted by a red box and labeled "2. ドメイン名を入力".
- DNSサーバIP (DNS Server IP):** A list of three text boxes. The first one contains "192.168.2.1" and is highlighted by a red box and labeled "3. DNS サーバの IP アドレスを入力".
- Buttons:** At the bottom right, there are two buttons: "戻る" (Back) and "次へ" (Next). The "次へ" button is highlighted by a red box and labeled "4. [次へ] をクリック".

複数のLogitecNAS製品を導入される場合、区別をつけるためにデフォルトのサーバ名 (LogitecNAS) を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しません。

ドメイン名、DNS サーバの IP アドレス

- ・DNSサーバのIPアドレスは必要に応じてその値を入力してください。ドメイン名は、特に入力する必要はありません。

未入力の場合、[次へ] ボタンを押した後にいくつかメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

- ・IPアドレスの設定で手動にて設定を行った場合や、DHCPサーバから情報を取得しているような場合は、同じ値が登録されています。

Point ポイント :

メールサーバとNTPサーバが同じドメインに存在する場合、ドメイン名欄にドメインを入力することでメールサーバ、NTPサーバの設定はホスト名を入力するだけでよくなります。

- 4.IPアドレスの設定画面が表示されます。特に問題がなければ次へ進みます。デフォルトゲートウェイが未入力の場合、いくつかメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力してください。

DHCP からネットワーク構成を取得
 手動設定を使用

IP アドレス *

サブネットマスク *

デフォルトゲートウェイ *

[次へ] をクリック

Point ポイント :

赤色の星印がついた項目は必須設定項目ですので必ず入力する必要がありますが、オレンジ色の星印がついた項目は推奨項目ですので、必ずしも入力しておく必要はありません。

5. システムの日付と時刻を設定することができます。

システムの日付と時刻を24時間形式で設定してください。

時刻: 11 : 31 : 04

日付: 2003 / 01 / 19

標準時間帯: (UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo

ネットワーク時間同期 (NTP) を有効にする周期: 毎日

プライマリタイムサーバー: _____

セカンダリタイムサーバー: _____

戻る [次へ]

標準時間帯について

通常問題なければ、(UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo
を選択してお使いください。

NTPサーバによる自動時刻合わせを行う場合は、ここで画面下側に表示される「ネットワーク時間同期(NTP)を有効にする周期」という項目で行います。

設定は以下のように行います。

1. 「ネットワーク時間同期(NTP)を有効にする」にチェックを入れます。
2. 周期を毎日、毎週、毎月から選びます。
3. NTPサーバのIPアドレスを入力します。
4. [次へ]ボタンを押します。

システムの日付と時刻を24時間形式で設定してください。

時刻: 11 : 31 : 04

日付: 2003 / 01 / 19

標準時間帯: (UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo

ネットワーク時間同期 (NTP) を有効にする周期: 毎日

プライマリタイムサーバー: _____

セカンダリタイムサーバー: _____

戻る [次へ]

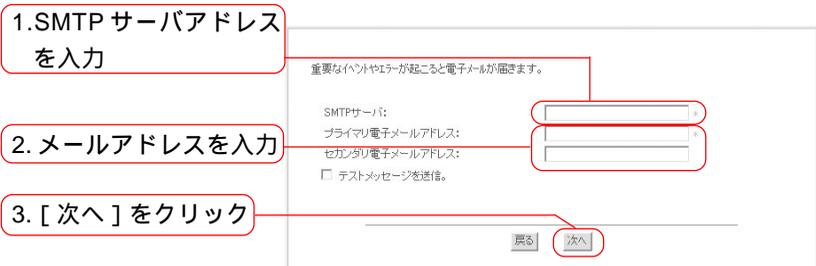
6. 使用する言語を選択する画面が表示されます。この設定は変更しないでください。



以下の設定でご使用ください。

表示言語 : Japanese
 電子メール通知言語 : Japanese
 コードページ : Code Page932-Japanese S JIS

7. 通知用のメールアドレスを設定することができます。



1. SMTP サーバのアドレスを入力します。アドレスを IP アドレスではなくホスト名 (例 : mail.abc.com) で入力する場合は手順 1 の画面で DNS サーバが登録されている必要があります。
SMTPサーバがご不明な場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。
2. 電子メールアドレスは 2 つのあて先を指定することができます。2 つのアドレスが設定されている場合は、それぞれのアドレスに同時にメールが配信されます。
・「テストメッセージを送信」のチェックボックスにチェックを入れると、設定が正しく行われたかを通知先のメールアドレスで確認することができます。
3. 通知用メールアドレスを設定しない場合、「次へ」ボタンを押した後にいくつかメッセージが表示されますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

8. 終了の画面が表示されます。



これで「高速環境設定」は終了です。[終了] ボタンを押すと設定が反映され、詳細設定を行う画面に切り替わります。詳細設定については「第 2 章」にてご説明いたします。

Point ポイント

[戻る] ボタンを押すと、前の画面に戻り設定を修正することができます。各項目で入力した設定内容は最後の [終了] ボタンを押すまで装置には反映されません。

「高速設定」完了後に修正したい項目がある場合は「第 2 章 NAS サーバの詳しい設定」の「基本設定」を参照して修正を行ってください。

高速環境設定が終了すると、NASの共有フォルダが使用できるようになります。特に詳細設定が必要ない場合は画面が切り替わった後にクローズボタンをクリックしてブラウザを閉じてください。ただし、この時点では、まだシステム構成やユーザ権限、ファイル共有などの詳細な設定は行われていません。重要なファイル等の保管や運用は詳細な設定を行った後にすることをお勧めします。

各クライアントコンピュータから共有フォルダへのアクセス方法は「ステップ 3： クライアントコンピュータからのアクセス」をご参照ください。

補足事項：設定がうまく行かない場合は...

以下の内容をもう一度確認してみてください。

本機の電源が入っており、LAN ケーブルが正しく接続されているかどうか。

NAS の IP アドレスが重複していないか。

手動で入力したネットワーク設定に間違いがないかどうか。

Microsoft Internet Explorer 5.0 以上をデフォルトブラウザとして使用しているかどうか。

使用しているクライアントコンピュータと、セットアップする NAS シリーズが同じサブネット上に存在しているかどうか。または、同じネットワークアドレス(同一セグメント)上に存在しているかどうか。

ご注意：異なるネットワークアドレス間での LogitecNAS Assistant ツールでの管理はできません。

パーソナルファイアウォールをインストールしているパソコンの場合、パーソナルファイアウォールの機能を停止してください。Java Script がブロックされていると使用できません。

ステップ 4： クライアントコンピュータからのアクセス

ここでは、アクセス可能となった本製品へのアクセス方法についてクライアント OS ごとにご説明いたします。

Windows Me , 2000 からのアクセス (SMB 共有)

「マイネットワーク」をダブルクリックし「マイネットワーク」のウィンドウを開きます。

[検索] をクリック

本製品の IP アドレスが
サーバ名を入力

[検索開始 (S)] をクリック



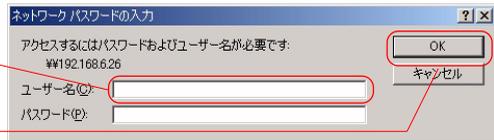
ツールバーの「検索」をクリックします。ウィンドウ左側に「コンピュータの検索」画面が表示されますので、「コンピュータ名(M)」の欄に本製品の IP アドレスが、サーバ名を入力し、「検索開始 (S)」をクリックします。

Windows Me の場合は見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると共有フォルダ (public1) が現れます。

Windows 2000 の場合は見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力画面になるので、特に設定していない場合は、ユーザ名に半角で guest と入力し、[OK] をクリックしてください。

1. 半角で guest と入力

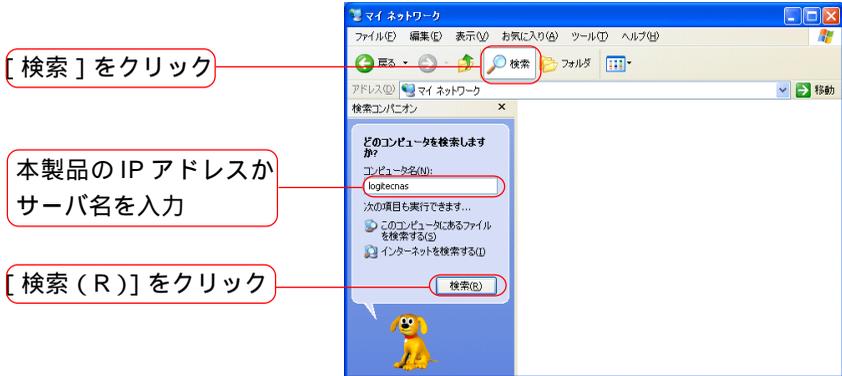
2. [OK] ボタンをクリック



Windows 2000でのユーザとパスワード入力画面

Windows XP からのアクセス (SMB 共有)

「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を選択後エクスプローラーバーより「マイネットワーク」をクリックして「マイネットワーク」のウィンドウを開きます。



ツールバーの「検索」をクリックします。ウィンドウ左側に「検索コンパニオン」の画面が表示されますので「コンピュータ名 (N)」の欄に本製品の IP アドレスか、サーバ名を入力し、「検索 (R)」をクリックします。

見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力画面になるので、特に設定していない場合はユーザ名に半角で guest と入力して [OK] ボタンをクリックしてください。



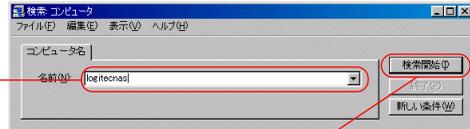
Windows XP でのユーザ名
とパスワード入力画面

Windows 98 , NT 4.0 からのアクセス (SMB 共有)

「スタート」ボタンをクリックし、「検索 (C)」を選択後、「ほかのコンピュータ」をクリックし、以下のウィンドウを表示させます。

本製品の IP アドレスか
サーバ名を入力

検索開始 (I) をクリック



「名前 (N)」の欄に本製品の IP アドレスか、サーバ名を入力します。

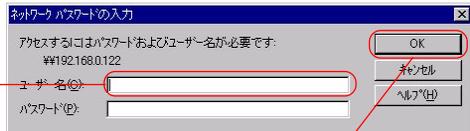
「検索開始 (I)」をクリックします。

Windows 98 の場合は、見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックします。すると共有フォルダ (Public1) が現れます。

Windows NT 4.0 の場合は見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力が面になるので、特に設定していない場合は、ユーザ名に半角で guest と入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。

1. 半角で guest と入力

2. [OK] ボタンをクリック



Windows NT 4.0 でのユーザ名とパスワード
入力画面

Point ポイント

本製品に登録したアカウント名と Windows のログイン名が一致しない場合、Windows XP、2000、NT4.0 では、共有フォルダのアクセス時にユーザ名とパスワードの入力が画面が現れ、そこで正しいユーザ名とパスワードを入力すれば、そのユーザ名でログインできますが、Windows Me、98 の場合はそのまま guest ユーザとしてログインすることになります。

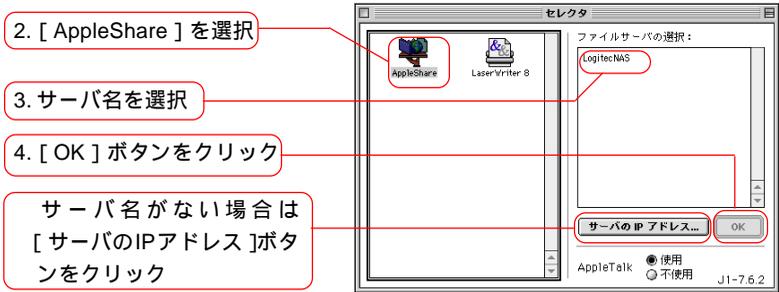
1 ファイルの上限容量など OS により仕様の異なる所があります。

「付録 6 : 設定制限表」を参照

MacOS からのアクセス (AppleTalk 共有)

Mac OS 9 の場合

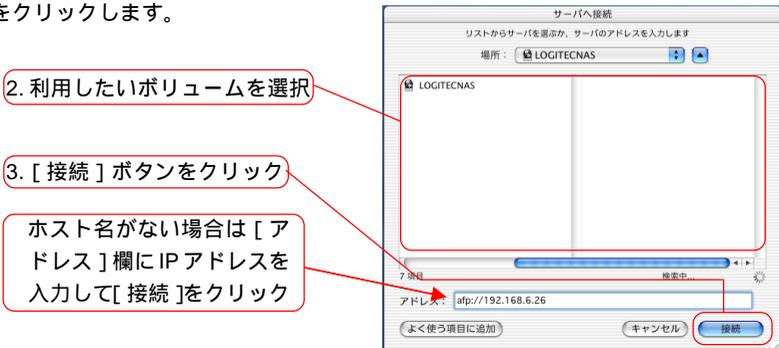
Apple メニューより [セレクタ] を選択します。
 [セレクタ] の画面が表示されますので [AppleShare] を選択してください。
 [ファイルサーバの選択] に現れたリストからサーバホスト名を選択します。
 [OK] ボタンをクリックします。
 目的のNASサーバ名が現れなければ、[サーバのIPアドレス] ボタンをクリックして、装置のIPアドレスを入力し、[接続] をクリックします。



ユーザー名とパスワードを求めてきますので、本製品にユーザー登録をしていない場合は [ゲスト] のラジオボタンをクリックし、[接続] をクリックします。

Mac OS X の場合

[移動] メニューより - [サーバへ接続] を選択します。
 共有ボリューム選択画面が現れますので利用したいボリュームを選択します。
 [接続] ボタンをクリックします。
 サーバホスト名が現れなければ、[アドレス] の欄にIPアドレスを入力し、[接続] をクリックします。



ユーザー名とパスワードを求めてきますので、本製品にユーザー登録をしていない場合は [ゲスト] のラジオボタンをクリックし、[接続] をクリックします。

Linux からのアクセス (NFS 共有)

Linux からのアクセスは NFS により行います。Linux クライアントから、mount コマンドによってマウントすることができます。この使い方の例を以下に示します。

```
mount -t nfs xxx.xxx.xxx.xxx:/volume1/public1 /mnt/nas
```

␣ は半角スペースです。

xxx.xxx.xxx.xxx には NAS の IP アドレスが入ります。

volume1 は共有フォルダが存在するボリューム名です。

public1 は共有フォルダ名を示します。

「/mnt/nas」はあらかじめ、mkdir コマンド等で作成しておく必要があります。

第 2 章 NAS の詳しい設定 (ストレージマネージャ)

第 2 章では、高速環境設定終了後のストレージマネージャにアクセスし、様々な管理する方法についてご説明します。

「ストレージマネージャへのログイン」
はじめにログイン方法についてご説明します。

「基本設定」
基本的な設定についてご説明します。これは、第 1 章の高速環境設定の内容とほぼ同じものです。ネットワークに関する設定を変更する場合や、ご使用の製品に LAN ポートが 2 つある場合などにご参照ください。

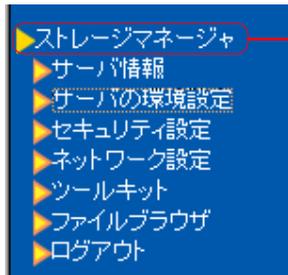
「詳細設定」
「詳細設定」ではユーザーアカウントの設定や、共有フォルダの設定等、詳細な機能の設定方法についてご説明します。

この欄に設定可能な項目が表示されます。(次ページのポイント参照)



ストレージマネージャ起動画面

Point ポイント



この項目をクリックすることによりその下のメニューの表示/非表示を切り替えることができます。

ストレージマネージャメニュー:ここから全ての設定を行います。

各項目を順番に設定する必要はありません。高速環境設定終了後は、ストレージマネージャのメニューがブラウザのウィンドウ左側に一覧表示されますので、その中から、設定したい項目を選んで設定を行ってください。(上図参照)

15分間何も操作しないと、自動的にストレージマネージャからログアウトします。次に設定を行うときは再度ログインする必要があります。

詳細設定の設定項目の中には、機種により未対応のものがあります。詳しくは「はじめに」の「シリーズ別対応機能」をご参照ください。

「ストレージマネージャ」画面上の各設定項目内では、赤色の星印がついた項目は必須設定項目です。橙色の星印がついた項目は推奨設定項目です。

ストレージマネージャへのログイン

高速環境設定を終え、そのまま設定を続けている場合は、ログインの必要はありません。「基本設定」「詳細設定」の中の必要なトピックへお進みください。(設定を中断後、再度アクセスする場合にログインが必要になります。)

高速環境設定を終え、ストレージマネージャを終了した場合、再び設定を行うためには再度ログインする必要があります。この場合、以下の2通りの方法があります。

1. インターネットエクスプローラで本製品のIPアドレスまたは、サーバ名を入力し、ストレージマネージャを起動します。
2. Logitech NAS Assistant ツールでサーバを見つけ、そのサーバの名前をダブルクリック、または「管理」ボタンをクリックしてストレージマネージャを起動します。

いずれの場合も以下の画面が表示されますので、[システム管理者 (root) としてログイン] を選択し、パスワードを入力してログインしてください。

1. [システム管理者としてログイン] を選択
2. パスワードを入力
3. [ログイン] をクリック

Logitech NAS/LAS Series Ver. 1.1.1
サーバ名: LogitechNAS

システム管理者 (root) としてログイン
 右のアカウントでログイン: []

パスワード: []

[ログイン]

Point ポイント

[右のアカウントでログイン]からは、ユーザアカウントが登録されている場合に、登録されたユーザのみがログインすることができます。

ユーザーとしてログインした場合、設定可能項目はユーザーの通知用メールアドレスの変更、ログインしたユーザーのパスワードの変更のみに制限されます。また、参照できる情報も、ユーザー個人のアカウント名、フルネーム、電子メールアドレス、パスワードのみとなります。詳しくは「ユーザーアカウントでストレージマネージャにアクセスする場合」をご参照ください。

ユーザーアカウントの作成は「詳細設定」の「ユーザーアカウントの作成」をご参照ください。

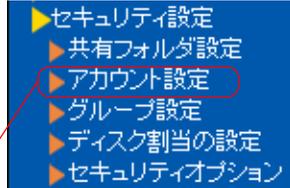
基本設定

システム管理者のパスワードの変更

(全シリーズ共通)

システム管理者のパスワードを変更する必要がある場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「アカウント設定」を選択します。



1. アカウント設定
を選択

2. [root] を選択

▶アカウント設定

3. パスワードを入力

4. [適用] ボタンを
クリック

The screenshot shows the 'アカウント設定' (Account Settings) form. On the left, a list of accounts has 'root' selected. The form fields are: アカウント名: root, フルネーム: System Administrator, 電子メール: (empty), パスワード: (masked with asterisks), パスワードの確認: (masked with asterisks), デフォルトグループ: users, and 割当: Volume1 0MB / 143 GB. At the bottom, the '適用' (Apply) button is circled in red.

アカウント設定画面より、管理者用アカウント[root]を選択します。

パスワードの入力及び、確認のためのパスワードを入力します。
[適用] ボタンを押します。

⚠️ ご注意

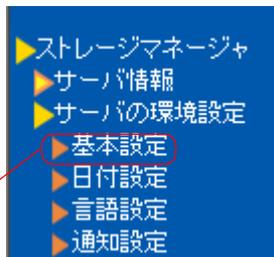
管理者パスワードを忘れると、再度システムを設定し直すことができなくなります。決して忘れないように管理してください。忘れた場合、弊社でもサポートをいたしかねます。

サーバ名の変更

(全シリーズ共通)

以下の手順でサーバ名の変更を行うことができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] [基本設定] を選択します。



1. [基本設定] を選択

▶ 基本設定

2. [全般] タブが選択されていることを確認

全般 LANポート 1 LANポート 2

サーバ名、ドメイン名、および DNS サーバを入力してください。

サーバ名 [RA160N] *

ドメイン名

1.

2.

3.

4.

DNSサーバ:

1. [192.168.2.1] *

2.

3.

[適用] [取消]

3. サーバ名を入力

4. [適用] ボタンをクリック

基本設定画面の[全般]タブが選択されていることを確認してください。

[サーバ名] の欄に新しいサーバ名を入力します。

入力が終わったら [適用] ボタンを押します。

ドメイン名やDNSサーバを登録していない場合、メッセージが出る場合がありますが、[OK] をクリックしてそのまま進めてください。これでサーバ名は変更されました。

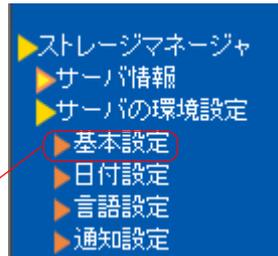
複数のNASを導入される場合、サーバ名の重複を避けるため、デフォルトのサーバ名 (LogitecNAS) を変更してください。サーバ名が重複した場合、正しく動作しない場合があります。

ネットワーク設定(DNSサーバ、ドメイン(TCP/IP))

(全シリーズ共通)

以下の手順でドメイン名、DNSサーバの設定を行うことができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの情報] [サーバの環境設定] [基本設定] を選択します。



1. [基本設定] を選択

2. 「ドメイン名」「DNSサーバ」を入力

3. [適用] ボタンをクリック

基本設定画面より、[ドメイン名][DNSサーバ]を入力します。
DNSサーバのIPアドレスは必要に応じてその値を入力してください。
ドメイン名は特に入力する必要はありません。
入力が終わったら [適用] ボタンを押します。

Point ポイント：

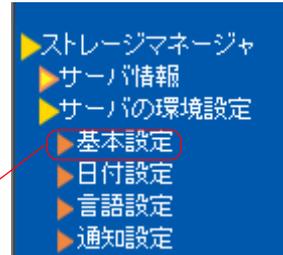
メールサーバとNTPサーバが同じドメインに存在する場合、ドメイン名欄にドメインを入力することでメールサーバ、NTPサーバの設定はホスト名を入力するだけでよくなります。

IPアドレスの設定 (LANポート1)

(全シリーズ共通)

IPアドレスを変更する必要がある場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定]-[基本設定]を選択します。



1. [基本設定] を選択

2. [LANポート1]の
タブを選択

3. 必要な値を入力

4. [適用] ボタンを
クリック

基本設定画面より、[LANポート1]のタブを選択します。

上記の画面が表示されたら、IPアドレス、サブネットマスクの値を入力してください。また、必要に応じてデフォルトゲートウェイの値を入力してください。

入力が終わったら [適用] ボタンを押します。

Point ポイント

IPアドレスをDHCPサーバから取得する場合は [DHCPからネットワーク構成を取得] を選択して [適用] ボタンを押します。直接入力する場合は、[手動設定を使用] を選択して、各項目に直接値を入力します。

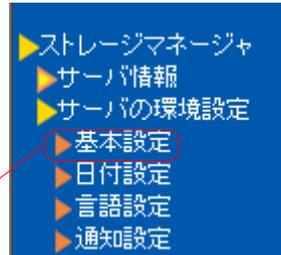
手動設定の場合、IPアドレス、サブネットマスクは必須入力項目です。

IPアドレスの設定 (LANポート2)

(LAS-RANシリーズ)

製品に2つLANポートがある場合 [サーバの環境設定] - [基本設定] のページに自動的に「LANポート2」タブが表示され、セットアップができるようになります。

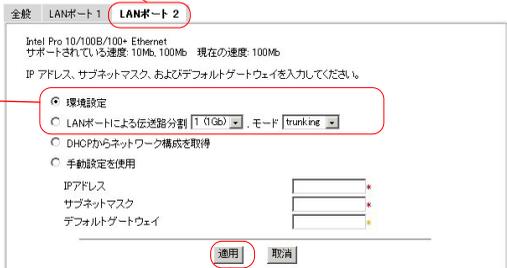
ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] - [基本設定] を選択します。



1. [基本設定] を選択

2. [LANポート2] のタブを選択

基本設定



3. 環境に従い必要な設定を行います。

4. [適用] ボタンをクリック

基本設定画面より、[LANポート2] のタブを選択します。

ネットワークの環境に従い、以下の設定を行います。

LANポート2を使用しない場合は [環境設定] を選択します。

LANポート2を使用する場合は、[LANポートによる伝送路分割] を選択し、モードを fail-over に設定します (次ページ参照)

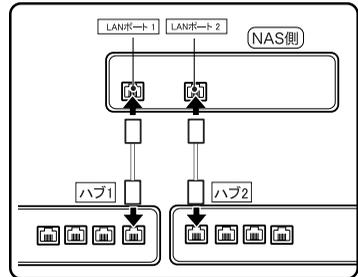
設定が終わったら [適用] ボタンを押します。

本製品のLANポート2は、フェイルオーバーでの動作以外は未サポートです。[DHCPからネットワーク構成を取得] や、[手動設定を使用] を選択しないでください。

IPアドレスの設定 (LANポート2)

fail-over (フェイルオーバー) の設定について

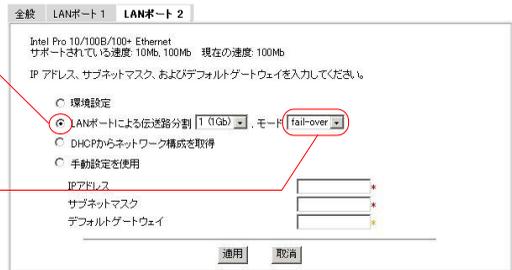
フェイルオーバー機能とは、2つのLANポートをクラスタ化し、どちらか1つのLAN回線が何らかの障害で通信ができなくなった場合、もう1つのLANポートへ通信を自動的に切り替える機能です。設定は「モード」横のドロップダウンリストから行います。



LANポート1とLANポート2を別々のハブに接続します。

基本設定

1. この部分を選択し、
2. このドロップダウンリストから「fail-over」を選択



接続方法についてはハードウェアマニュアルをご参照ください。

! ご注意：

本製品は、turunking (トランキング) 機能はサポートしていません。

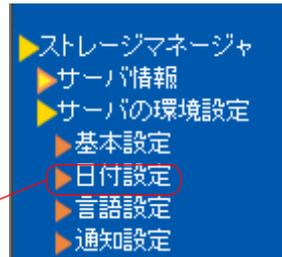
日付の設定

(全シリーズ共通)

システムの日付と時刻を24時間形式で設定します。

手動設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定]-[日付設定]を選択します。



1. [日付設定] を選択

2. [時刻] [日付] [標準時間帯] を選択

システムの日付と時刻を24時間形式で設定してください。

時刻: [11] : [34] : [30]

日付: [2003] / [01] / [19]

標準時間帯: [UTC+09:00] Tokyo, Osaka, Sapporo

ネットワーク時間同期 (NTP) を有効にする。周期 [毎日]

プライマリタイムサーバー: _____

セカンダリタイムサーバー: _____

[適用] [取消]

3. [適用] ボタンをクリック

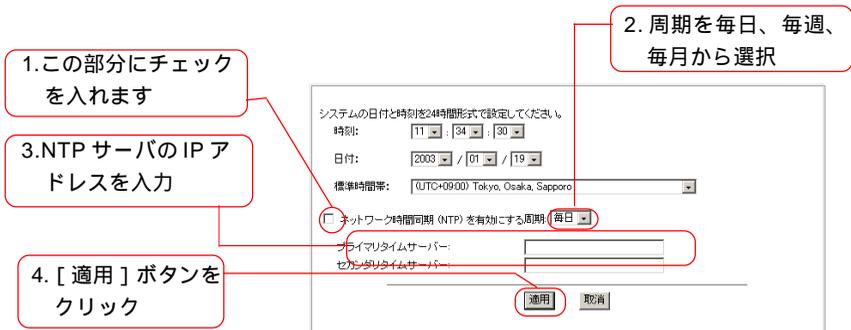
日付設定の画面より、[時刻] [日付] [標準時間帯] を選択します。選択が終わったら [適用] ボタンをクリックします。ネットワーク上にあるタイムサーバと同期を取り、製品内部の時計を合わせることができます。設定については次ページの「NTPサーバによる時刻の自動設定」をご参照ください。

標準時間帯について
通常問題なければ、(UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo
を選択してお使いください。

NTPサーバによる時刻の自動設定

ネットワーク時間同期(NTP)を設定し、ネットワーク上にあるタイムサーバと同期を取り製品内部の時計を合わせる場合、設定は以下のように行います。

1. 「ネットワーク時間同期(NTP)を有効にする」にチェックを入れます。
2. 周期を毎日、毎週、毎月から選びます。
3. NTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
4. [適用]ボタンを押します。

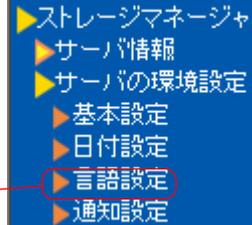


言語の設定

(全シリーズ共通)

言語 (コードページ) を設定します。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定]-[言語設定] を選択します。



1. [言語設定] を選択

▶ 言語設定

2. 言語を選択

Storage Managerに使用する言語を選択してください。

表示言語: Japanese

電子メール通知言語: Japanese

Windowsターミナルのシステム言語を入力してください。

コードページ: Code Page 932 - Japanese SJIS

適用 取消

3. [適用] ボタンをクリック

言語設定の画面より、[表示言語]、[電子メール通知言語]、[コードページ] を選択します。
 選択が終わったら [適用] ボタンをクリックします。

通常は以下の設定でご使用ください。

表示言語: Japanese

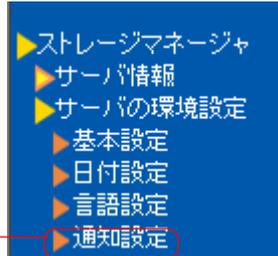
電子メール通知言語: Japanese

コードページ: Code Page932-Japanese SJIS

通知用メールアドレスの設定

本製品はシステムに何らかのイベントやエラーなどが発生した場合に、その内容を電子メールであらかじめ設定されたアドレスへ通知します。通知先は以下の手順で設定します。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定]-[通知設定]を選択します。



1. [通知設定]を選択

▶通知設定

2. SMTPサーバアドレス、
メールアドレスを入力

重要なイベントやエラーが起これると電子メールが届きます。

SMTPサーバ:
プライマリ電子メールアドレス:
セカンダリ電子メールアドレス:
 テストメッセージを送信。

3. [適用] ボタンを
クリック

[適用]

[取消]

SMTPサーバアドレス・メールアドレスを入力します。
[適用] ボタンを押します。

メールアドレス設定時のポイントは次ページをご参照ください。

Point ポイント

SMTPサーバのアドレスをIPアドレスではなくホスト名（例：mail.abc.com）で入力する場合はストレージマネージャの「サーバの環境設定」-「基本設定」-「全般」の画面でDNSサーバが登録されている必要があります。

電子メールアドレスは2つのあて先を設定することができます。2つのアドレスが設定されている場合は、それぞれのアドレスに同時にメールが配信されます。

「テストメッセージを送信」のチェックボックスにチェックを入れると、「適用」ボタンで確定後に、設定が正しく行われたか通知先のメールアドレスで確認することができます。

詳細設定

ユーザーアカウントの作成

(全シリーズ共通)

Windows、Macintosh クライアントから本製品にアクセスするユーザーのアカウントを作成します。これらのクライアントからは、アカウント名とパスワードを入力することによりNAS に登録ユーザとしてアクセスすることができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[セキュリティ設定] - [アカウント設定] を選択します。

- ▶ セキュリティ設定
- ▶ 共有フォルダ設定
- ▶ **アカウント設定**
- ▶ グループ設定
- ▶ ディスク割当の設定
- ▶ セキュリティオプション

1. アカウント設定
を選択

▶ アカウント設定

2. [作成] ボタンを
をクリック

アカウント設定画面で [作成] ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。

ユーザーアカウントの作成

▶新規アカウントの設定

3. 以下の項目を入力
 [アカウント名]
 [フルネーム]
 [電子メール]
 [パスワード](2 度)

4. デフォルトグループを選択

5. 割当を設定

6. [OK]を押して設定を終了させるか、[次へ]を押してさらに新しいアカウントを登録します。

新規アカウントの設定画面に切り替わるので、ここで [アカウント名] [フルネーム] [電子メール] [パスワード] を入力します。各項目の内容については次ページをご参照ください。

作成したアカウントにホームフォルダ(管理者とそのユーザのアカウント以外はアクセスできないフォルダ)を割り当てるかどうかを選択します。

- ・割り当てる場合には [デフォルトグループ] で [users] を選択します。(割り当てを行うと、そのアカウントでNASサーバにアクセスすると、[home] というフォルダが表示され、使用可能となります。)
- ・割り当てない場合には [guests] を選択します。

作成したアカウントにディスク割当(そのアカウントでディスクに保存できるデータの総容量)を行います。

[OK] を押すと設定終了です。([次へ] を押した場合は、続けて新しいユーザアカウントを追加することができます。)

これで新規アカウントが登録されます。デフォルトグループで [users] を選択した場合、アカウント名と同じフォルダが作成されます。

Point ポイント：

前頁で入力する各項目については以下をご参照ください。

アカウント名

- ・ユーザーがパソコンへログインする際のユーザー名を入力します。

フルネーム

- ・アカウント名に対するコメントを入力できます。特に入力する必要はありません。

電子メール

- ・ユーザーの電子メールアドレスを入力すると、そのアドレスへNASに関する設定の変更情報などが送信されます。ユーザーに送信される情報は、「通知用メールアドレスの設定」で設定されたシステム管理者のメールアドレスに送信される情報とは異なります。詳しくは「付録3：電子メール通知一覧」をご参照ください。

パスワード

- ・ユーザーがパソコンへログインする際のパスワードを入力してください。

! アカウント名、パスワード設定時のご注意：

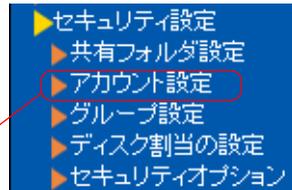
Windows Me, 98のクライアント環境からNASにアクセスする場合、ここで作成するアカウント名、パスワードを、ネットワークにログインする際に使用するログイン名、パスワードと同じ設定にしてください。Windows Me, 98では、ログイン名とアカウント情報が異なると登録したユーザとしてNASにアクセスできません。

ユーザーアカウントの削除

(全シリーズ共通)

一度登録したユーザーアカウントの削除は、以下の手順で行います。ただし、はじめから登録されている [root] と [guest] は削除することはできません。

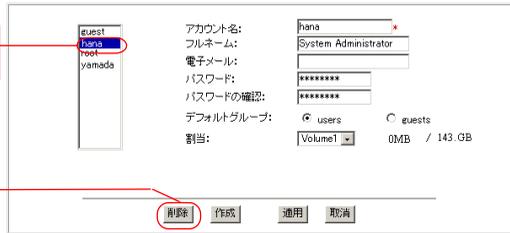
ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[セキュリティ設定] - [アカウント設定] を選択します。



1. アカウント設定
を選択

▶ アカウント設定

2. 削除するアカウント
を選択



3. [削除] ボタンを
クリック

アカウント設定画面で削除したいアカウントを選択します。
[削除] ボタンを押します。

「このアカウントを削除しますか」というメッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックすると削除が実行されます。

4. [OK] ボタンをク
リック



! ご注意 :

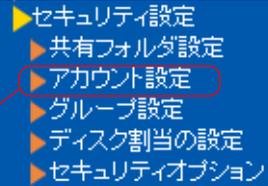
デフォルトグループが users のアカウントを削除するとそのアカウントのホームフォルダおよびホームフォルダ内のデータも同時に削除されてしまいますので十分ご注意ください。

ユーザーアカウントの変更

(全シリーズ共通)

一度登録したユーザーアカウントの設定内容の変更は、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[セキュリティ設定]-[アカウント設定]を選択します。



1. アカウント設定
を選択

▶アカウント設定

2. 変更するアカウント
を選択

3. 変更したい項目に、
新しい内容を入力

4. [適用] ボタンを
クリック

アカウント名: hana
フルネーム: System Administrator
電子メール:
パスワード: *****
パスワードの確認: *****
デフォルトグループ: users guests
割当: Volume1 0MB / 143 GB

削除 作成 適用 取消

アカウント設定画面で変更したいアカウントを選択します。
変更したい項目に新しい内容を入力します。
[適用] ボタンを押します。

⚠️ ご注意 :

デフォルトグループを users から guests に変更すると、そのアカウントのホームフォルダおよびホームフォルダ内のデータも同時に削除されてしまいますので十分ご注意ください。

📖 参考 :

はじめから登録されている [root] と [guest] のアカウント名・デフォルトグループの変更はできません。
[グループ設定] で admins(管理グループ)に加えられたユーザーはデフォルトグループを guests にすることはできません。

グループ設定

(全シリーズ共通)

本製品では登録されたアカウントをグループに分けて管理することができます。グループ分けをすることにより、アクセス権の設定の管理を楽にすることができます。

グループ設定：新規グループの作成

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。

- ▶ セキュリティ設定
- ▶ 共有フォルダ設定
- ▶ アカウント設定
- ▶ **グループ設定**
- ▶ ディスク割当の設定
- ▶ セキュリティオプション

1. グループ設定を選択

2. [ユーザグループ] タブが選択されていることを確認

▶グループ設定

ユーザグループ

グループメンバー

admins guests users	グループ名: admins	メンバー: root
<input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="作成"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="取消"/>		

3. [作成] ボタンをクリック

グループ設定画面に切り替わるので[ユーザグループ] タブが選択されていることを確認してください。

[作成] ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。

4. [グループ名]を入力

▶新規グループ設定

5. アカウントを選択して、
[追加 >>] ボタンをクリック

6. [OK] ボタンをクリック

[新規グループ設定]画面が表示されます。[グループ名]を入力してください。

次に、[メンバー以外:]の欄から、そのグループに所属させたいアカウント名を選択し、[追加 >>] ボタンを押します。

Point ポイント:

アカウントを選択する際にShiftキーやCtrlキーを押しながら選択すると、一度に複数のアカウントを選択できます。

間違えて追加してしまったアカウントを削除するには、[メンバー:]の欄から、間違ったアカウントを選択し、[<<削除] ボタンを押します。

設定が終わったら、[OK] ボタンを押します。

これで、新しいグループが登録されます。グループ設定画面に戻ると、新しいグループが登録されています。

▶グループ設定

新しいグループが登録されています。

グループ設定：グループメンバーの追加と削除

(全シリーズ共通)

一度作成したグループに新たにメンバーを加えたり登録されているメンバーを削除する場合は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。

- ▶ セキュリティ設定
- ▶ 共有フォルダ設定
- ▶ アカウント設定
- ▶ **グループ設定**
- ▶ ディスク割当の設定
- ▶ セキュリティオプション

1. グループ設定を選択

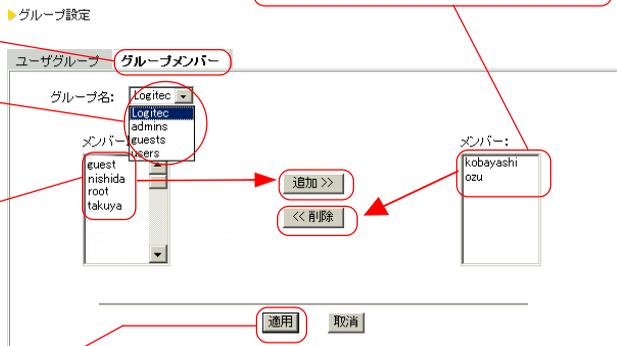
2. [グループメンバー] タブを選択

3. 設定するグループ名を選択

4. 追加するアカウントを選択して、[追加 >>] ボタンをクリック

5. 削除するアカウントを選択して、[<< 削除] ボタンをクリック

6. [適用] ボタンをクリック



グループ設定画面で [グループメンバー] タブを選択します。

設定するグループ名を選択します。

選択したグループにメンバーを追加させたい場合は、左側の [メンバー以外:] の欄からアカウントを選択し、[追加 >>] ボタンを押します。

選択したグループから登録されているメンバーを削除したい場合は右側の [メンバー:] の欄からアカウント選択し、[<< 削除] ボタンを押します。

設定が終了したら [適用] ボタンを押します。

次ページの注意事項もご参照ください。

**注意：**

usersグループに登録されているアカウントをグループメンバーから削除する場合、削除されたアカウントは自動的に guests グループへ編入されます。その場合、そのアカウントがもっていたホームフォルダおよびホームフォルダ内のデータは削除されますのでご注意ください。

また、guestに登録されているアカウントを削除すると、そのアカウントは自動的にusersグループへ編入され、自動的にホームフォルダが作成されます。

全てのアカウントは必ず、users , guestsのどちらかのグループに属しています。従って作成したグループからアカウントを削除しても、そのアカウントは users または guests のどちらかのグループに登録されています。アカウント自体を完全に削除するには「ユーザーアカウントの削除」の項をご参照ください。

本製品にあらかじめ登録されているアカウント (root, guest) は移動・削除することはできません。

adminsグループに登録する際は、事前にusersグループに登録する必要があります。従ってグループにadminsを選択したときにメンバー以外の欄に表示されるアカウントはusersグループに登録されているアカウントだけです。

グループ設定：グループの削除

(全シリーズ共通)

作成したグループを削除する場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。

- ▶ セキュリティ設定
- ▶ 共有フォルダ設定
- ▶ アカウント設定
- ▶ **グループ設定**
- ▶ ディスク割当の設定
- ▶ セキュリティオプション

1. グループ設定を選択

2. [ユーザーグループ] タブが選択されていることを確認

▶ グループ設定

ユーザーグループ グループメンバー

3. 削除するグループを選択

<ul style="list-style-type: none"> Loeitec admins guests users 	グループ名: <input type="text" value="Loeitec"/>
	メンバー: <input type="text" value="kobayashi"/>
<input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="作成"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="取消"/>	

4. [削除] ボタンをクリック

グループ設定画面に切り替わるので[ユーザーグループ]タブが選択されていることを確認してください。

削除するグループを選択します。

[削除] ボタンを押します。

 参考：

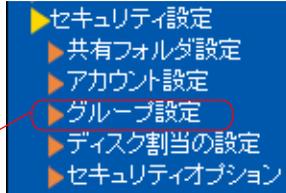
あらかじめ登録されているグループ(admins , users , guests)を削除することはできません。

グループ設定：グループ名の変更

(全シリーズ共通)

作成したグループのグループ名を変更する場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。



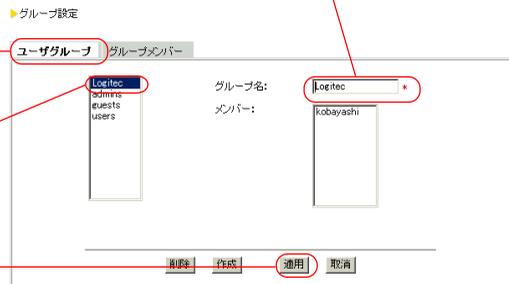
1. グループ設定を選択

2. [ユーザーグループ] タブが選択されていることを確認

3. 変更するグループを選択

5. [適用] ボタンをクリック

4. テキストボックスに新しい名前を入力



グループ設定画面に切り替わるので[ユーザーグループ]タブが選択されていることを確認してください。

名前を変更するグループを選択します。

右側の[グループ名]のテキストボックスに新しい名前を入力します。

[適用] ボタンを押します。

参考：

あらかじめ登録されているグループ (admins, users, guests) のグループ名を変更することはできません。

グループ設定：補足事項

(全シリーズ共通)

デフォルトのグループについて

本製品には、あらかじめadmins, users, guestsという3つのグループが存在しています。これらのグループは削除・変更することができます。それぞれのグループの機能は以下の通りです。

- | | |
|--------|---|
| admins | 本システムの設定を行うグループです。デフォルトではrootのみが登録されていますが、usersグループに登録されているアカウントをここに登録することができます。登録されたユーザーはadminsとusersの両方に登録されます。デフォルトではrootがこのメンバーとして登録されています。 |
| users | このグループに属するアカウントは全てそのアカウント専用のホームフォルダを持ちます。デフォルトではrootがこのメンバーとして登録されています。ただし、rootアカウントにはhomeフォルダは作成されません。 |
| guests | このグループに属するアカウントは専用のホームフォルダを持ちません。デフォルトではguestがこのメンバーとして登録されています。 |

作成する全てのアカウントはusersまたはguestsに登録されます。usersに登録されているアカウントからのみadminsグループへ加えることができます。

共有フォルダの作成

(全シリーズ共通)

本製品では、共有フォルダを作成し、その共有フォルダにアクセス制限をかけることによって特定のグループやアカウントからしかアクセスできないように設定することができます。ここではまず、共有フォルダの作成・削除・フォルダ設定の変更等、基本的な事項についてご説明します。

作成した共有フォルダに様々な制限を加える方法についてはこの後の「共有フォルダへのアクセス制限の設定方法」をご参照ください。

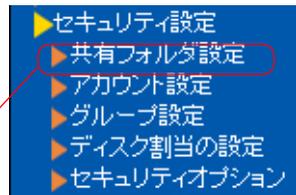
新規共有フォルダの作成

(全シリーズ共通)

新しい共有フォルダの作成は以下の手順で行います。

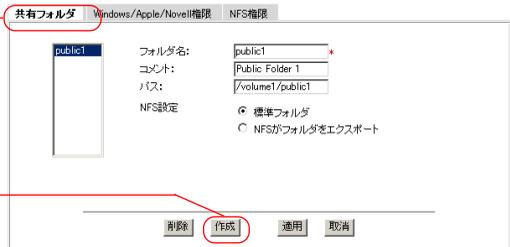
ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。

1. 共有フォルダ設定を選択



2. [共有フォルダ]タブが選択されていることを確認

共有フォルダ設定



3. [作成] ボタンをクリック

共有フォルダ設定画面で[共有フォルダ]タグが選択されていることを確認します。

[作成] ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。

▶ 新規共有フォルダ設定

4. フォルダ名を入力

5. 必要に応じて設定を行います。

6. [OK] ボタンまたは[次へ] ボタンをクリック

新規共有フォルダ設定画面が表示されます。フォルダ名を入力してください。

必要に応じて [コメント] [フォルダの保存場所] [NFS 設定] を行います。(設定については以下の「ポイント」をご参照ください。)

設定が終わったら [OK] ボタンを押して設定を終了するか、[次へ] ボタンを押して次の新規共有フォルダを作成します。

Point ポイント：

共有フォルダの保存場所は本製品では変更できません。

[NFS 設定] で [標準フォルダ] 選択した場合、そのフォルダはネットワーク内に存在する Windows, Macintosh, Linux 環境の全てのユーザーからアクセスが可能になります。

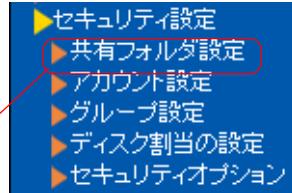
[NFS がフォルダをエクスポート] を選択した場合、作成したフォルダは Linux ユーザー以外アクセスできませんのでご注意ください。

共有フォルダの削除

(全シリーズ共通)

共有フォルダの削除は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。

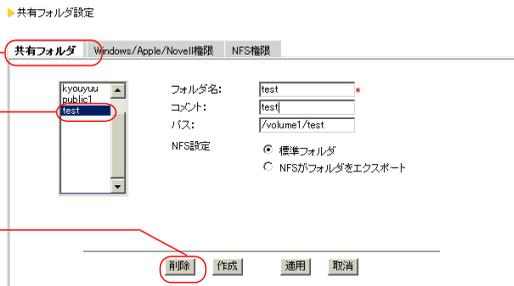


1. 共有フォルダ設定を選択

2. [共有フォルダ]タブが選択されていることを確認

3. 削除するフォルダを選択

4. [削除]ボタンをクリック



共有フォルダ設定画面で[共有フォルダ]タグが選択されていることを確認します。

削除するフォルダを選択します。

[削除]ボタンを押します。

[選択された共有フォルダを削除してよろしいですか?]というメッセージが表示されます。ここで[OK]ボタンを押すと、選択した共有フォルダと共有フォルダ内に保存されたデータが削除されます。

5. [OK]ボタンをクリック



注意：

共有フォルダを削除すると、その中のデータも削除されますのでご注意ください。

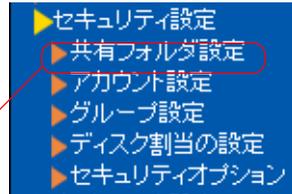
システムにはじめから登録されている [public1] という共有フォルダは削除できません。

共有フォルダの変更

(全シリーズ共通)

共有フォルダの名前や設定は以下の手順で変更することができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。



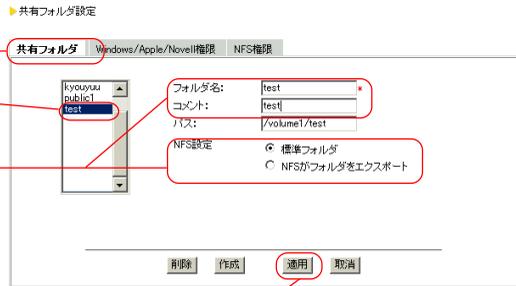
1. 共有フォルダ設定を選択

2. [共有フォルダ] タブが選択されていることを確認

3. 変更を行うフォルダを選択

4. 変更したい内容を入力

5. [適用] ボタンをクリック



共有フォルダ設定画面で [共有フォルダ] タグが選択されていることを確認します。

変更を行うフォルダを選択します。

必要に応じて [フォルダ名] [コメント] [NFS設定] を変更します。OS によるフォルダ名の制限や、NFS 設定についてご注意の上変更を行ってください。

変更後 [適用] ボタンを押すと変更内容が反映されます。

次ページもご参照ください。

! ご注意：

[パス]は編集できません。フォルダごとに自動的に正しいパスが設定されています。手動で入力しないでください。

📖 参考：

システムにはじめから登録されている[public1]という共有フォルダの名前は変更できません。また、削除することもできません。

共有フォルダへのアクセス制限の設定方法

(全シリーズ共通)

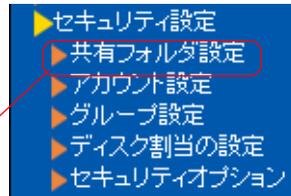
ここでは作成した共有フォルダにアクセス制限を加える方法についてご説明します。作成した共有フォルダに全てのアカウントからのアクセスを許可する場合はここでの設定は必要ありません。

Windows/Macintosh クライアントからのアクセス制限

Windows/Macintosh クライアントからのアクセス制限を設定する場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。

1. 共有フォルダ設定を選択



2. [Windows/Apple/Novell] タブが選択されていることを確認

3. アクセス制限をかけたい共有フォルダ名を選択



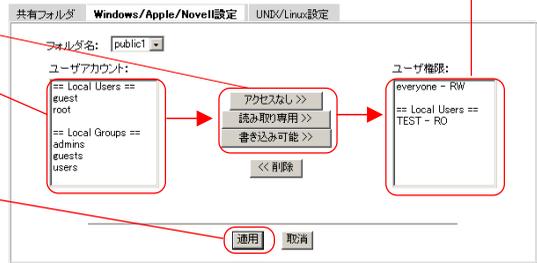
共有フォルダ設定画面より、Windows/Apple/Novell権限タグを選択します。

「フォルダ名：」の項目よりアクセス制限をかけたい共有フォルダ名を選択します。

この項目は次ページへ続きます。

4. アカウントまたはグループを選択し、中央のボタンで権限を設定します。

5. [適用] ボタンをクリック



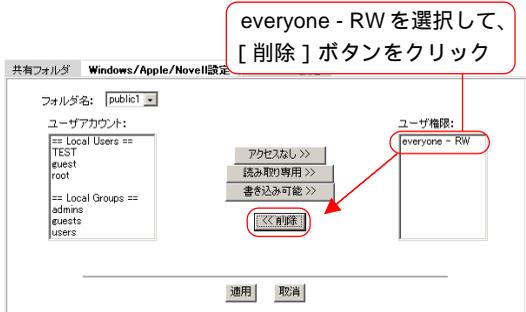
権限が登録されます。

[ユーザーアカウント列]のユーザーまたはグループをマウスで選択し[アクセスなし][読み取り専用]または[書き込み可能]をクリックします。選択したアカウントに権限が設定されます。

[適用] ボタンを押します。

参考：

共有フォルダは、デフォルトでは全てのユーザーに書き込み権限が与えられています。個別にアカウントの権限を設定する場合は、はじめにこの権限を削除します。ユーザー権限の欄から[everyone-RW]を選択し、[<< 削除] ボタンを押してください。



everyone - RW を選択して、
[削除] ボタンをクリック

Point ポイント：

一度登録したユーザーを削除する場合、[ユーザー権限]の欄で削除するユーザーを選択し、[削除] ボタンを押します。

一度登録したユーザーの権限を変更する場合にも、[ユーザー権限]の欄でユーザーを選択し[アクセスなし][読み取り専用]または[書き込み可能]の各ボタンを押せば権限の修正をすることができます。

次ページのポイントもご参照ください。

Point ポイント :

画面右側に表示されるユーザー権限欄に表示される記号は以下の意味を持ちます。

[アカウント名 -RW]

・そのアカウントは読み書き可能です。

[アカウント名 -RO]

・そのアカウントは読取専用です。

[アカウント名 -NA]

・そのアカウントはアクセスできません。

ユーザー権限:

```
== Local Users ==  
TEST - RO  
  
== Local Groups ==  
admins -RW
```

また、アカウント名everyoneは全てのアカウントを意味します。

右上の図を例に取ると、ここで設定された共有フォルダは、adminsグループは書き込み可能、ユーザーのTESTは読み取りだけ可能、それ以外のユーザーはアクセスできない、ということになります。このように、設定は特定のアカウントが特定の権限を持つようにして、それ以外のアカウントと区別するようにします。

ユーザー権限に登録したアクセス内容は矛盾のないようにしてください。

本製品に登録されていないユーザーはguestアカウントとして設定します。

次ページの参考もご参照ください。

 参考：

グループ単位でのアクセスの制限方法

ある特定のグループに [読み取り専用] [書き込み可能] に設定し、そのグループ内でさらに権限を分けることもできます。ただしこの場合制限があり、グループを書き込み可能に設定するとそのグループに属す個別のアカウントを [アクセスなし] には設定できませんが [読み取り専用] には設定できません。これはこのシステムの仕様です。

グループを読み取り専用を設定した場合、そのグループに属するアカウントを、 [書き込み可能] [アクセスなし] どちらでも個別に設定できます。

グループにアクセスなしの設定をすると、そのグループに属するアカウントは全てアクセスなしに固定され、個別の設定ができません。

個別に制限を加える場合

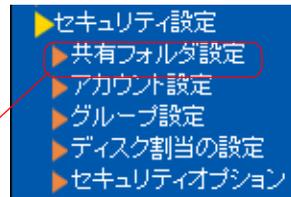
個別に権限を設定する場合は、グループとアカウントが重複したり、矛盾しない限り、制限範囲内での設定が可能です。

NFSのアクセス制限の設定

(全シリーズ共通)

NFS共有はWindowsやMacintoshとの共有と違い、ユーザー名でクライアントを区別するのではなく、ホスト名/サブネットで区別します。デフォルトではすべてのホストに対して読み書き許可の設定になっていますが、権限をかけるホストを追加することによりクライアント毎のアクセス権を設定することができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」、「共有フォルダ設定」を選択します。



1. 共有フォルダ設定を選択

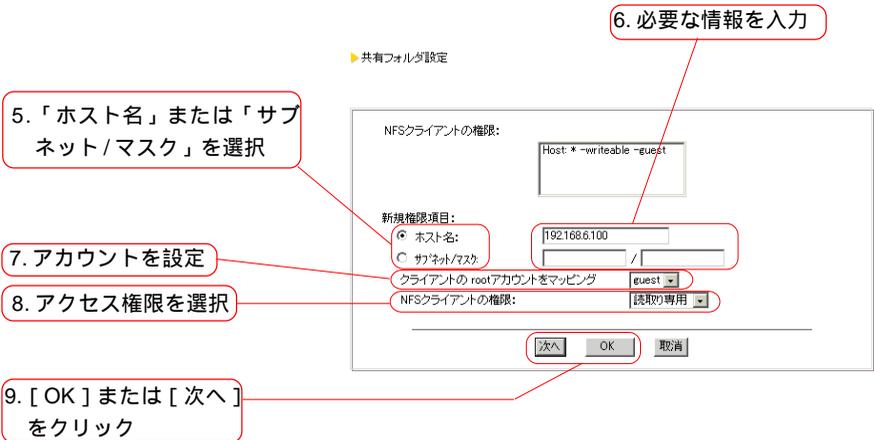
2. [NFS権限] タブが選択されていることを確認

3. 設定するフォルダを選択

4. [作成] ボタンをクリック



共有フォルダ設定画面より「NFS権限」タブを選択します。
設定する共有フォルダを選択します。
「作成」ボタンを押します。



NFS クライアント設定画面に切り替わります。

ホスト名でクライアントを区別するか、サブネットで区別するかをラジオボタンで選択します。

権限をかけるクライアントの情報を、ホスト名を選択した場合はホスト名に、サブネット/マスクを選択した場合はサブネット/マスクに情報を入力します。ホスト名の欄は IP アドレスもしくはホスト名(フルドメイン)で入力します。ホスト名(フルドメイン)で入力する場合は本製品に DNS サーバの登録(「ネットワーク設定 (DNS サーバ、ドメイン (TCP/IP))」参照)が必要です。ホスト名に「*」と入力すればすべてのホストを指すことになります。クライアントの root アカウントをマッピングさせるユーザアカウントを設定します。

NFS クライアントの権限でアクセス権限を選択します

「OK」ボタンを押して設定を確定します。続けてクライアントを設定する場合は「次へ」を押します。

root アカウントのマッピングについて

クライアントから NFS でデータを NAS に書き込んだ際はパーミッションが 755 になります。

root アカウントのマッピングを使用することにより、ファイルのオーナーがマッピングしたユーザになります。

- ・アカウントのグループは NAS 上の設定が引き継がれます。
- ・NAS 上の各アカウントに上位下位の区分けはありません (NFS で使用する場合)。
- ・root アカウントをマッピングしないと、全てのユーザが読み書きできてしまいます (パーミッション 777)。

Point ポイント：パーミッション777とは・・・

Linuxではファイル/フォルダ毎にアクセス権が設定されており、それを2進数3桁で表します。アクセス権の詳細は以下の通りになります

owner	groups	etc
r w x	r w x	r w x

owner = ファイルを作成した人(オーナー)
 groups= オーナーと同じグループの人
 etc = それ以外の人
 r = 読み込み可能
 w = 書き込み可能
 x = 実行可能

となり、対応している権限に1、対応していない権限に0が立ちます。この数字を3桁の2進数の数字にして表記します。例えば755のアクセス権と云うのは・・・

owner	groups	etc
r w x	r w x	r w x
1 1 1	1 0 1	1 0 1
7	5	5

となります。このファイルはオーナーは読み/書き/実行が可能で、オーナーと同じグループの人と、それ以外の人には読み込みと実行のみが可能だということになります。

パーミッション777とは全てのユーザが読み書き実行が自由ということです。

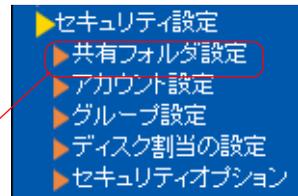
NFSのアクセス権限の変更

(全シリーズ共通)

このオプションはLinuxで共有フォルダのアクセス権限を設定するのに使います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。

1. 共有フォルダ設定を選択



2. [NFS 権限] タブが選択されていることを確認

3. 設定するフォルダを選択

4. 設定項目を選択

5. [適用] ボタンをクリック



6. 設定内容が反映されます

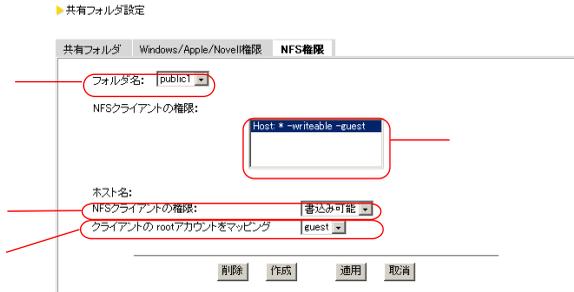
共有フォルダ設定画面より、[NFS 権限] タブを選択します。フォルダ名のプルダウンメニュー列から設定したい共有フォルダを選択します。

下の欄の [NFS クライアントの権限][クライアントの root アカウントをマッピング] を設定します。

設定後、[適用] ボタンを押します。

画面中央に設定した内容が反映されます。

画面の見方



フォルダ名

ここで NFS 権限で共有設定を行う共有フォルダを選択します。

NFS クライアントの権限

共有モードを選択します。「読取り専用」や「書き込み可能」の設定が可能です。

クライアントの root アカウントをマッピング

NFS クライアントが root でローカルログインしている場合、NAS にログインしたときにどのユーザーアカウントでログインさせるか選択します。

共有状態

ここに ~ までの設定結果が表示されます。

「Host : *」と表示されるのは、そのフォルダがすべてのホストによって共有されていることを表します。[作成] ボタンを押すと新しいホスト名とサブネットを設定することができます。

例

形式 : サブネット / サブネットマスク
192.168.1.0 / 255.255.255.0


ご注意 :

Windows と Linux で同一の資源を共有する場合は、フォルダ名、ファイル名に半角英数字をご使用ください。

ワークグループの設定

(全シリーズ共通)

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ネットワーク設定」-「Windows ドメイン」を選択します。



1.Windows ドメインを選択

2.Windows ネットワークを有効にするをチェック

Windowsドメイン

3. ワークグループ名を入力

4. [適用] ボタンをクリック

Windowsドメイン画面にて、[Windows ネットワークを有効にする] にチェックを入れます。

[ワークグループ] 欄にワークグループ名を入力します。

[適用] ボタンを押します。

参考：

デフォルトでは、[ワークグループ] の欄に WORKGROUP と入力されています。

Windows ドメインへの参加

(全シリーズ共通)

本製品は、Windows 2000 / NT 4.0 ドメインを参照することができます。ドメインに参加するとドメインコントローラに登録されているユーザ、グループに対して本製品のアクセス権を設定することができます。

クライアントから本製品にアクセスしようとする、アカウントとパスワードの情報がドメインサーバに転送された後、検証され、結果が合格であれば、アクセスが許可されます。

2

ドメインコントローラへのNASの登録

本製品をWindowsドメインに参加させるには、まずドメインコントローラに本製品を登録しなくてはなりません。

- Windows2000 Server の場合(ActiveDirectory)

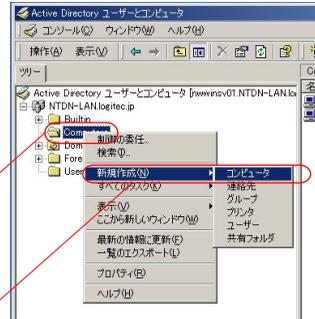
「スタート」ボタンから
「プログラム」「管理ツール」
「ActiveDirectory ユーザと
コンピュータ」を選択ま
す。



「ActiveDirectory ユーザとコンピ
ュータ」ウィンドウが表示されますので、
ウィンドウの左側のツリーの中の
「Computers」を右クリックし、「新規
作成」-「コンピュータ」を選択します。

1. [Computers] を右クリック

- 2.[新規作成] - [コンピュータ]
を選択



1. サーバ名を入力

2. この項目をチェック

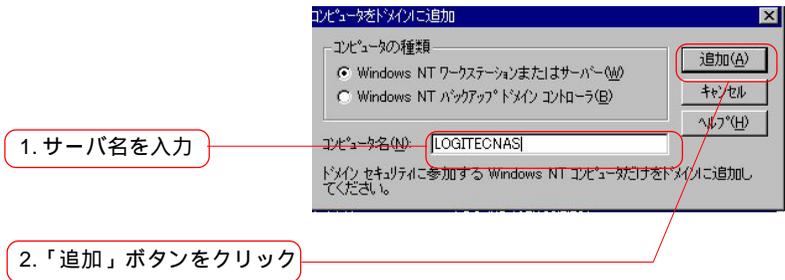


「新しいオブジェクト」ウィンドウが表示されます。「コンピュータ名」の欄に本製品のサーバ名を入力し、「Windows2000 以前のコンピュータにこのアカウントの使用を許可」をチェックし、「OK」を押します。これでドメインコントローラへの登録は完了です。

ActiveDirectory は互換モードで動作させてください。

・ WindowsNT4.0Server の場合

「スタート」ボタンから「プログラム」-「管理ツール(共通)」-「サーバマネージャ」を選択します。開いたウィンドウのメニューバーから「コンピュータ」をクリックし、「ドメインに追加」を選択します。開いたウィンドウの「コンピュータの種類」の「Windows NT ワークステーションまたはサーバ」を選択し、コンピュータ名の欄に本製品のサーバ名を入力して、「追加」ボタンをクリックします。これでドメインコントローラへの登録は完了です。



Windows ドメインへのアクセス

設定方法

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ネットワーク設定」-「Windows ドメイン」を選択します。



1.Windows ドメインを選択

2. ドメインを選択し、ドメイン名を入力

3.Windows ドメインサーバ名称、WINSサーバアドレスを入力

4.[適用]ボタンをクリック

Windows ドメイン画面にて、[ドメイン]を選択し、ドメイン名を入力します。

[NT PDC ホスト名]にWindows ドメインサーバ名称を入力し、
[WINS サーバ]にWINS サーバアドレスを入力します。

[適用]ボタンを押します。

本製品とドメインコントローラに類似するアカウント、グループが存在する場合は情報の結合を促すメッセージが表示されますので「結合」を押します。

これでWindows ドメインへのアクセスが完了し、Windows ドメインに参加できました。

注意：

ユーザー登録可能数を越えるアカウントを登録しているドメインサーバへのアクセスはできません。この場合はドメインサーバのアカウント数を減らさないと、本製品をWindows ドメインへ参加させることはできません。

Windows ドメインアカウントへホームフォルダを追加

デフォルトでは、Windowsのドメインアカウントにはホームフォルダがありません。この種のアカウントにホームフォルダを設定したい場合は、左側のアカウントからそのまま選択し、「ローカルに追加」をクリックします。



選択したアカウントがローカルアカウントの一覧に表示されます。デフォルトではguestsグループの一部としてアカウントが表示されます。そのアカウントのパスワードを設定しておき、アカウントを guests グループから users グループへ移動します。

Windows のドメインアカウントごとにディスク割当を設定するか、または「セキュリティオプション」で新しいアカウントのデフォルト値を選択します。

次ページのポイントもご参照ください。

Point ポイント：

1. Windowsと本NASサーバとではパスワードの形式が異なるため、「NTドメインアカウントタブ」のアカウント情報を「ローカルアカウント」へ追加すると、Windows PDCユーザーのパスワードをそのままローカルマシンに重複させることができなくなります。そうしたアカウントのパスワードは「ローカルアカウント」タブに手動で追加する必要があります。したがって、PDCに設定されているのと同じパスワードを設定するようにしてください。
2. アカウント/グループ名は最長20文字まで表示されます。アカウント情報をWindowsのドメインに追加すると、Windows PDCで20文字を超えるアカウント/グループ名はNASサーバに重複されなくなります。警告メッセージが1つ表示され、重複したすべてのアカウントを知らせます。

UNIX ネットワークの設定

(全シリーズ共通)

このオプションでは、サーバをNISドメインの一部にするかどうかを選択します。次の手順で選択を行ってください。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ネットワーク設定」-「Unix ネットワーク」を選択します。

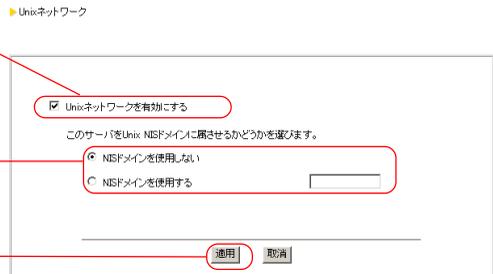


1. Unix ネットワークを選択

2. Unix ネットワークを有効にするをチェック

3. NISドメインの一部に設定するかどうかを選択し、設定する場合はドメイン名またはドメインサーバのIPアドレスを入力

4. [適用] ボタンをクリック



Unix ネットワーク画面にて、[Unix ネットワークを有効にする] にチェックを入れます。

NIS ドメインの一部に設定しない場合は [NIS ドメインを使用しない] を選択します。

NIS ドメインの一部にする場合は [NIS ドメインを使用する] を選択し、ドメイン名またはドメインサーバのIPアドレスを入力します。

[適用] ボタンを押します。

NISドメインに加えると、「セキュリティ設定」-「アカウント設定」に「UNIX NIS アカウント」という新しいタブが現れます。またすべての利用可能なユーザーアカウントがNISサーバ上に表示されます。

次ページの注意事項もご参照ください。

 注意：

本NASサーバがNISドメインに参加している場合に、もしNISサーバが使用不可になった場合、本NASサーバの起動に長時間かかる場合があります。

本NASサーバを再起動/電源投入する際には、NISサーバが使用可能であることをご確認ください。

Apple ネットワークの設定

(全シリーズ共通)

このオプションでは、Macintosh クライアントが AppleTalk および TCP/IP を使用している場合に関して、本 NAS サーバへアクセスする方法を設定します。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ネットワーク設定] - [Apple Networking] を選択します。



1. Apple Networking を
選択

▶ Apple Networking

2. 通信プロトコルを選択します。
Apple Talk を選んだ場合はサブ
ネットと Apple Talk ゾーンを必
要に応じて選択してください。

AppleTalkプロトコルでApple Networking接続を有効にします。
次のサブネットでも有効: [1]
AppleTalkゾーン: [<使用できるゾーンがありません>]
 TCP/IP プロトコルでApple Networking接続を有効にします。

3. [適用] ボタンをクリック

適用

取消

Apple Networking 画面より通信プロトコルを「AppleTalk プロトコル」「TCP/IP プロトコル」から選択します。両方を選ぶことも可能です。

AppleTalk を選択した場合、サブネットと AppleTalk ゾーンを必要に応じて選択します。

[適用] ボタンを押します。

Novell Network の設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ネットワーク設定] - [Novell Networking] を選択すると、下のような設定画面が表示されます。



▶ Novell Networking

Novell Networkingを有効にする

フレームタイプ: Ethernet II 8022
 802.3 SNAP

内部ネットワーク番号: 自動 [A000039] (16 進数)
 外部ネットワーク番号: デフォルト [101] (16 進数)

⚠ 注意 :

この設定は、現在サポートされておりません。設定を変更しないでください。

インターネットネットワークの設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ネットワーク設定] - [インターネットネットワーク] を選択すると、下のような設定画面が表示されます。



! 注意 :

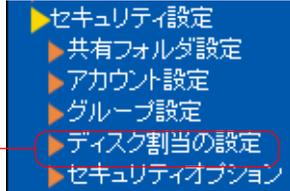
この設定は、現在サポートされておりません。設定を変更しないでください。

ディスク割当の設定

(全シリーズ共通)

ディスク割当の設定では、ユーザーごとに使用可能な最大ディスク容量を設定することができます。設定は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「ディスク割当の設定」を選択します。



1. ディスク割当の設定を選択

▶ディスク割当の設定

2. 設定するユーザー名を選択

3. 現在[使用されている/ディスク割当]を選択

4. 新しいディスク割当のラジオボタンにチェック()を入れ、テキストボックスに割当る容量を入力

5. [設定 >>] をクリック

6. [適用] ボタンをクリック

The screenshot shows the 'ディスク割当の設定' (Disk Allocation Settings) interface. It includes a dropdown menu for 'ユーザー名' (User Name) with 'guest' selected. Below it, there are two sections: '現在[使用されている/ディスク割当] (MB)' (Current [Used/Disk Allocation] (MB)) showing 'Volume1:10/2977*' and '新しいディスク割当の設定' (New Disk Allocation Settings) with a radio button selected, a text input field containing '100', and a '設定 >>' (Settings >>) button. To the right, there is another '新しいディスク割当 (MB)' (New Disk Allocation (MB)) section with a vertical slider. At the bottom, there are '適用' (Apply) and '取消' (Cancel) buttons. Red callout boxes with numbers 1 through 6 point to these specific elements.

この部分に設定内容が反映されます

ユーザー名のプルダウンメニューから設定したいユーザー名を選択します。左側の現在[使用されている/ディスク割当]を選択します。

新しいディスク割当のラジオボタンにチェック()を入れ、テキストボックスに割り当てる容量を入力します。([無制限]に設定する場合はチェックを入れるだけで構いません。)

[設定 >>] ボタンをクリックします。新しいディスク割当の欄に設定内容が反映されます。

[適用] ボタンをクリックします。

Point ポイント：

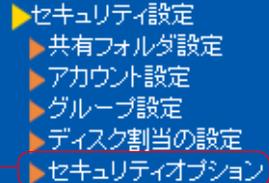
もし設定を間違った場合には、[適用]ボタンを押す前に[<<取消]をクリックしてください。

guestユーザーのデフォルト設定値は無制限です。また新規登録したユーザーのデフォルト値も無制限です。

セキュリティオプション

セキュリティオプションでは、今後新たに作成される共有フォルダと、ユーザーアカウントのデフォルト値の設定を行います。設定は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「セキュリティオプション」を選択します。



1. セキュリティオプションを選択

2

▶ セキュリティオプション

2. 新規フォルダおよび新規アカウントのデフォルト値を設定

 The screenshot shows the 'セキュリティオプション' (Security Options) configuration page. It has two main sections:

- 新たに作成したフォルダのデフォルト設定** (Default settings for newly created folders):
 - everyone以下の特権: 書込み可能 読取り専用 アクセスなし
 - NFSエクスポート設定: 書込み可能 読取り専用 アクセスなし
- 新たに作成したアカウントのデフォルト設定** (Default settings for newly created accounts):
 - デフォルトグループ: users guests
 - デフォルトディスク割当: 100 MB 無制限

 At the bottom, there are two buttons: [適用] (Apply) and [取消] (Cancel).

3. [適用] ボタンをクリック

[新たに作成したフォルダのデフォルト設定] および「新たに作成したアカウントのデフォルト設定」を行います。設定内容については次ページのポイントをご参照ください。
設定後 [適用] ボタンを押します。

設定内容については次ページのポイントをご参照ください。

Point ポイント

・[新たに作成したフォルダのデフォルト設定] は以下の様に行います。

1. everyone に以下の権限： 書込み可能 読取り専用
アクセスなし

新規に作成されるフォルダに対して、Windows、Macintosh の各ユーザーがデフォルトで書込み許可(「書込み可能」)か、書込み禁止(「読取り専用」)とするか、アクセス不可(「アクセスなし」)とするかを設定します。

2. NFS エクスポート設定： 書込み可能 読取り専用
アクセスなし

新規に作成されるフォルダの NFS でのアクセス権限に関してのデフォルト値を、書込み許可(「書込み可能」)か、書込み保護(「読取り専用」)とするか、アクセス不可(「アクセスなし」)とするかを設定します。

・[新たに作成したアカウントのデフォルト設定] は以下の様に行います。

1. デフォルトグループ： users guests

新規ユーザーを、デフォルトでどのグループに属させるかを設定します。また新規ユーザーに、ユーザー名と同じホームフォルダを持たせたい場合には「users」を選び、ホームフォルダを持たせたくない場合には「guests」を選びます。

2. デフォルト割当： _____MB 無制限

この設定により、新たにユーザーに設定する記憶領域の最大値を制限することができます。また無制限に設定することもできます。

UPS 管理

(LAS-RANシリーズ)

UPS 管理は制御方法により設定が異なります。次にご説明する手順より、該当する管理方法をご参照ください。

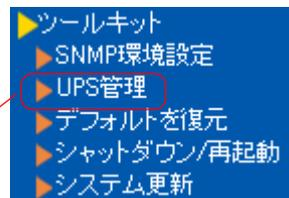
シリアルポートでUPSを制御

本製品の電源コードをUPSに接続します。

本製品のシリアルポートとUPSのシリアルポートを接続します。

UPS、本製品を移動後、ストレージマネージャで[ツールキット]-[UPS管理]を選択します。

3. UPS 管理を選択



2

UPS管理

5. 各タイミングを入力

4. シリアルポートでUPSを制御を選択

6. [適用] ボタンをクリック

UPS管理画面で[シリアルポートでUPSを制御]を選択します。

[UPS全般設定]で[打診インターバル]と[シャットダウン迄のディレイ]のタイミングを入力します。

[適用] ボタンを押します。

Point ポイント：

打診インターバル

UPS に対しての問い合わせの間隔を意味します。

シャットダウン迄のディレイ

UPSがバッテリー駆動に移行したことを確認してから、NASをシャットダウンするまでの遅延時間を意味します。

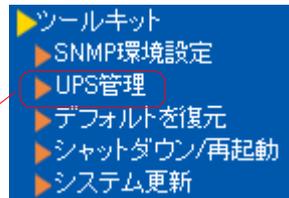
SNMPでUPSを制御

SNMPとはTCP/IPネットワークにおいて、ネットワークに接続された通信機器を監視・制御するためのプロトコルです。このプロトコルを利用してUPSの制御を行うには以下の手順で設定を行います。

本製品の電源コードをUPSに接続します。

UPSをネットワークに接続します。

ストレージマネージャで [ツールキット] [UPS管理] を選択します。



3. UPS管理を選択

▶ UPS管理

4. SNMPでUPSを制御を選択

5. [UPS IP アドレス]
[UPS community]
[UPS enterprise OID]
を入力

6. 「バッテリーステータスOID」,
「標準ステータス」を入力

UPS管理画面で [SNMPでUPSを制御。以下の設定を使用] を選択します。

[UPS IP アドレス] と [UPS community] [UPS enterprise OID] を入力します。()

「バッテリーステータスOID」, 「標準ステータス」を入力します。()

これらの値について分からない場合、この項目の最後の「各項目の説明」をご参照ください。

▶ UPS event trap管理

7. [event OID の始点]
[event OID の終点]
を入力

8. [trap pair を追加]
ボタンをクリック

9. [閉じる] ボタンを
クリック

「UPS event trap OID pairs」の登録

SNMP 機能を搭載したUPS には通常trap 機能が装備されています。trap 機能は予定した検査信号を待たずにUPS ステータスの異常を検出するのに使用します。

UPS 管理画面で [trap を編集] をクリックして、UPS のevent trap OID を追加または削除します。

[event OID の始点] に「臨界イベントトラップOID」を入力し、[event OID の終点] に [トラップOID] を表す情報を入力します。

入力後 [trap pair を追加] ボタンを押します。

「閉じる」ボタンを押すと、UPS管理画面に戻るので [適用] ボタンをクリックします。

次の「各項目の説明」もご参照ください。

UPS管理

各項目の説明

[UPS IP アドレス] と [UPS community]

SNMP 機能搭載 UPS に IP アドレスが設定されます。その IP アドレスをそれぞれの列に入力します。UPS ターミナルの SNMP ユーザーインターフェイスにそれぞれの Community が登録されます。

それぞれ1つかそれ以上のホスト名と IP アドレスが表示されます。表示されたホストは UPS から情報を読み取ることができ、その内容を確認できます。SNMP から UPS を制御したいときは、一覧表示された Community のどれか1つに本製品を登録し、その Community の名前を [UPS community] 入力欄に入力します。

[UPS enterprise OID]

この設定は UPS の MIB ファイルに保存されています。UPS が SNMP アクセスをサポートされている場合は、そのメーカーが MIB ファイルを用意しているはずですが、必要な場合はメーカーのウェブサイトからダウンロードします。ファイルに「一般企業番号」が記載されているはずですが、APC 社の「Private Enterprise Number」は 318 です。したがって、このフィールドの値が 1.3.6.1.4.1.318 となります。ここで 1.3.6.1.4.1 は静的な値であり、変更してはいけません。HP OpenView などの SNMP プログラムで MIB ファイルを参照し、「Private Enterprise Number」を検索することもできます。

[バッテリーステータス OID]

この設定は MIB ファイルに保存されている「バッテリーステータスOID」に該当します。APC 社の UPS の値は 1.3.6.1.4.1.318.1.1.1.2.1.1 です。この値を入力するか、または APC 製品を使用する場合は短縮形の 1.1.1.2.1.1 を入力します。

[標準ステータス]

MIB ファイルから取得する「バッテリーステータスOID」(上記参照) はステータスの番号を表します。たとえば、2 は「標準」、1 と 3 はそれぞれ「不明」と「放電」を表します。上記の項目 4 と 5 の値を入力した場合は、上記で選択した間隔で UPS が検査されます。バッテリーステータスの異常が認められると、入力された遅延時間が経過した後でコンピュータがシャットダウンします。

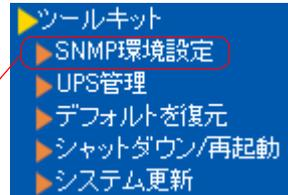
SNMP 環境設定

(LAS-RAN シリーズ)

SNMP アクセスを許可する

ストレージマネージャで[ツールキット] - [SNMP 環境設定] を選択します。

1. SNMP 環境設定を選択



2. [SNMP アクセスを許可] をチェック

3. [システムの保存場所] に本製品の場所を入力

4. [適用] ボタンをクリック

▶ SNMP環境設定

 The 'SNMP環境設定' (SNMP Environment Settings) configuration page. It features a checkbox for 'SNMPアクセスを許可' (Allow SNMP Access) which is checked. Below it is a text field for 'システムの保存場所' (System Storage Location) containing 'Unknown'. Underneath is a text area for 'アクセス権限' (Access Permissions) containing the text: 'public 192.168.1.0/255.255.255.0 -readonly private local:HOST -wr:feable'. At the bottom are buttons for '前戻' (Back), '作成' (Create), '適用' (Apply), and '取消' (Cancel). The '適用' button is highlighted with a red box.

SNMP 環境設定の画面が表示されます。ここで、[SNMP アクセスを許可] のチェックボックスにチェックを入れます。
[システムの保存場所] に本製品の場所を入力します。
[適用] ボタンを押します。

 参考：

[アクセス権限] 横のテキストボックスには、以下の3つの内容が登録されます。

本製品の属する Community。これはシステム管理者が選択します。
その Community のホストまたはサブネット。

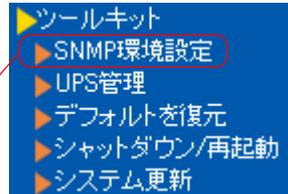
SNMP 経由でのコミュニティのホストまたはサブネットのアクセス権限です。

この項目は次ページへ続きます。

SNMP アクセス権限を追加する

ストレージマネージャで[ツールキット]-[SNMP 環境設定] を選択します。

1.SNMP 環境設定を
選択



SNMP環境設定

2.[作成] ボタンをクリック



SNMP 環境設定の画面で、[作成] ボタンを押します。

SNMP環境設定

3.Community 名、およびその Community に属するホストとサブネットを選択

4.[読取り専用] または、[書込み可能] に設定

5.[OK] または、[次へ] ボタンをクリック



SNMP 環境設定の新しいダイアログが現われます。[新規アクセス権限] の欄に、Community 名、およびその Community に属するホストとサブネットを入力します。

[SNMP アクセス権限] を、[読取り専用] または [書込み可能] に設定します。(次ページのポイント参照)

[OK] ボタンを押すと設定内容が反映されます。[次へ] ボタンを押して、別のアクセス権限を追加することもできます。

この項目は次ページへ続きます。

SNMP アクセス権限の削除

SNMP アクセス権限を削除するには、[アクセス権限] からオプションを選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、[削除] をクリックします。

SNMP アクセス権限の修正

既存のアクセス権限を修正するには、[アクセス権限] からオプションを選択、削除し、新しいアクセス権限を追加します。

Point ポイント：SNMPのアクセス権限について

「読み取り専用」とは、Community のホストに SNMP による情報の読み取りだけを許可することを表します。

「書き込み可能」とは、Community のホストに一部の読み取り書き込みフィールドの修正を許可することを表します。OK をクリックして確定するか、または[次へ] で別のアクセス権限を追加します。

 参考：

SNMP (Simple Network Management Protocol) とは、TCP / IP ネットワークにおいて、ルータやパソコン、端末など、ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。

SNMP アクセス権限を設定しておけば、SNMP 機能搭載 UPS がこのプロトコルを利用して本製品を監視し不意の電源切断に備えるという設定ができるようになります。

 参考：「Community 名」とは

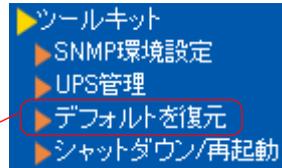
SNMP で管理しているグループの名前です。

工場出荷時への戻し方

(全シリーズ共通)

本製品では、どの設定についても出荷時の初期値に復元したり、システムに設定されているすべてのユーザー設定やデータを削除することができます。

ストレージマネージャで[ツールキット][デフォルトを復元]を選択します。

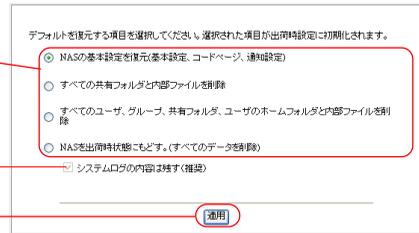


1. デフォルトを復元を選択

▶ デフォルトを復元

2. 復元レベルを選択

「システムログの内容は残す」のチェックボックスを外すことでログを消去することができます。



3. [適用] ボタンをクリック

用途に合わせて復元レベルを選択します。(復元レベルは次ページを参考にしてください。)

「適用」ボタンを押します。

❗ ご注意：

- ・ネットワーク設定をクリアした場合、ネットワークにDHCPサーバがない環境では終了画面(ログイン画面)が表示されません。30分ほど()してからブラウザを閉じLogitec NAS Assistantで再度検出し、IPアドレスが????.????.????.????となっていることを確認してください。

ネットワークにDHCPサーバがある場合は、30分()ほどすると自動的に高速環境設定の設定画面に戻ります。

NASに保存されているデータの容量により時間は変動します。

- ・完全に終了するまでは電源を切らないようにしてください。ハードディスクへのアクセスランプが消灯している場合は、初期化が終了しています。
- ・選択したすべての設定が初期値と置き換わるか、または削除されます。このオプションをご使用の際は十分ご注意ください。詳しくは次ページの表をご覧ください。

工場出荷時への戻し方

	サーバーの環境設定を復元	すべての共有フォルダと各内部ファイルを削除	すべてのユーザー、グループ、共有フォルダ、ユーザーのホームフォルダと内部ファイルを削除	出荷時に戻す
ネットワーク設定	システム管理者パスワード			password
	IPアドレス/サブネットマスク	DHCPより取得		DHCPより取得
	ドメイン名	DHCPより取得		DHCPより取得
	DNSサーバ	DHCPより取得		DHCPより取得
	デフォルトゲートウェイ	DHCPより取得		DHCPより取得
	サーバ名			LogitecNAS
	時刻			
	タイムゾーン	UTC+9:00 Tokyo...		UTC+9:00 Tokyo...
	通知メールSMTPサーバ	未設定		未設定
	通知メールアドレス	未設定		未設定
	ワークグループ			WORKGROUP WORKGROUP
	ドメイン(Windows)		未設定 (ドメイン/NT PDCホスト名)	未設定 (ドメイン/NT PDCホスト名)
	WINSサーバ			
ログ	システムログ			1
	StorageManagerログ			1
	接続ログ			1
共有権限	アカウント		削除 2	削除 2
	グループ		削除 3	削除 3
	Public1内のデータ	削除 4	削除 4	削除 4
	共有フォルダ/内部データ	削除 4	削除 4	削除 4
	homeフォルダ/内部データ		削除	削除
	ディスク割り当ての設定		出荷時状態に戻る	出荷時状態に戻る
	セキュリティオプション値	出荷時状態に戻る		出荷時状態に戻る

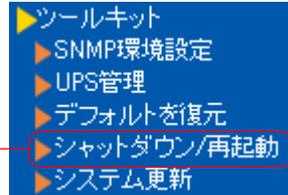
- 1 チェックボックスにより削除可能。
- 2 root、guestは消えません。
- 3 admins、users、guestsは消えません。
- 4 public1 フォルダ自体は消えません。
NASの設定内容は変化しません。

シャットダウン/再起動

(全シリーズ共通)

以下の手順で本製品をシャットダウンまたはリブートします。

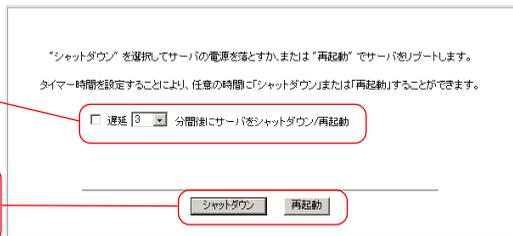
ストレージマネージャで[ツールキット]-[シャットダウン/再起動]を選択します。



1. シャットダウン/
再起動を選択

▶ シャットダウン/再起動

2. 遅延オプションを設定



3. [シャットダウン] または
[再起動] ボタンをクリック

必要に応じて、シャットダウン/再起動の画面で、遅延オプションを設定します。

[シャットダウン] または [再起動] ボタンを押します。



ご注意：

正常なシャットダウンを行わずに電源を切断した場合、データが破損する可能性があります。

正常なシャットダウン手順以外での電源OFFは絶対に行わないでください。

データの破損を防ぐために、正しくシャットダウンするまで電源を切らないようにしてください。

機種により自動的に電源がOFFされないものもあります。詳しくはハードウェアマニュアルをご参照ください。

サーバの設置場所を移動する時などには、本製品の電源ランプが消灯（サーバの動作が完全に停止）してから行ってください。

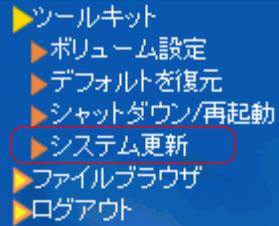


参考：

LAS-RANシリーズでは本製品の電源スイッチを使用してシャットダウンすることもできます。詳しくはハードウェアマニュアルをご参照ください。

システムの更新

本製品のシステムの更新を行います。更新方法については更新ファイルに添付のマニュアルにてご確認ください。



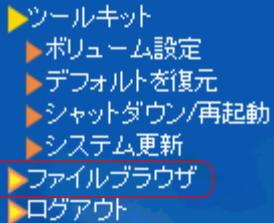
2

ファイルブラウザ

共有フォルダに保存されたファイルを確認できます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより「ファイルブラウザ」を選択します。

1. ファイルブラウザ
を選択



別ウインドウが開き、共有フォルダとその中のファイルが確認できます。また、ファイル名をクリックすることによりファイルをダウンロードすることが可能です。

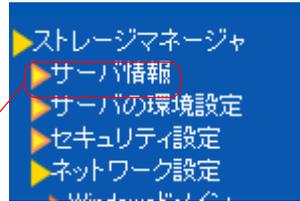
管理者にアクセス権限のないフォルダとhomeフォルダは表示されません。

サーバ情報の確認

現在の本製品の情報を知ることができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより「サーバ情報」を選択します。

1. サーバ情報を選択



各タブを選択すると画面内に以下の情報が表示されます。

「全般」タブ

本製品のシステムのバージョンや本製品ネットワークのMACアドレスが確認できます。

「環境設定」タブ

本製品に登録されたネットワーク情報が確認できます。

「ステータス」タブ

本製品のディスク装置の状態が確認できます。詳細はブラウザ右側のヒントを参照ください。

「システムログ」タブ

本製品の動作履歴を確認できます。サポート時に弊社テクニカルサポートよりお問い合わせする場合がございます。

「About」タブ

本製品の著作権 / 商標に関する表記です。

ユーザーアカウントでストレージマネージャにアクセスする場合

Logitec NASシリーズは、管理者以外のユーザもストレージマネージャにアクセスすることができます。各ユーザーアカウントでログインした場合、以下の情報の確認と変更が可能です。

個人情報の確認

- ・アカウント名
- ・フルネーム
- ・電子メール
- ・割当

個人情報の設定

- ・電子メールアドレスの変更
- ・パスワードの変更

いずれの場合も、ログインしたユーザーの個人情報のみとなります。

ログイン

ユーザーアカウントでログインするには、以下の2通りの方法があります。

1. インターネットエクスプローラで本製品のIPアドレスまたは、サーバ名を入力し、ストレージマネージャを起動します。
2. Logitec NAS Assistant ツールでサーバを見つけ、そのサーバの名前をダブルクリック、または「管理」ボタンをクリックしてストレージマネージャを起動します。

いずれの場合も以下の画面が表示されますので、[右のアカウントでログイン] を選択し、ログインするユーザーのアカウント名を入力して、パスワード欄にユーザーのパスワードを入力して[ログイン] ボタンをクリックしてください。

▶ストレージマネージャにログイン

1. [右のアカウントでログイン] を選択
2. アカウント名を入力
3. パスワードを入力
4. [ログイン] ボタンをクリック

個人情報の確認

ユーザーアカウントでログインすると以下の画面が表示されます。

▶個人情報

アカウント名:	Logitec
フルネーム:	(空白)
電子メール:	(空白)
デフォルトグループ:	users
割当:	<input type="text" value="Volume1"/> 0.09GB 使用中: 0.00MB
使用中:	0%

ここでは管理者が設定した、以下の個人情報を確認することができます。

・アカウント名

NASサーバへログインする際のアカウント名が表示されます。ユーザーアカウントでログインした場合、アカウント名は変更できません。

・フルネーム

アカウントのコメント(通常は、ユーザのフルネームが入力されます)。ユーザーアカウントでログインした場合、フルネームは変更できません。

・電子メール

ユーザの通知用電子メールアドレスが表示されます。このアドレスへはNASに関する設定の変更情報などが送信されます。ユーザーに送信される情報は、「通知用メールアドレスの設定」で設定されたシステム管理者のメールアドレスに送信される情報とは異なります。詳しくは「付録3：電子メール通知一覧」をご参照ください。電子メールアドレスは、ユーザーアカウントでログインした場合も変更可能です。詳しくは次ページの「個人情報の設定」をご参照ください。

・割当

管理者から割当てられた容量と現在使用中の容量が表示されます。ユーザーアカウントでログインした場合、割当は変更できません。

個人情報の設定

ストレージマネージャにユーザーアカウントでログインし、そのアカウントのパスワード、および電子メールアドレスを変更したい場合は、以下をご参照ください。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「個人設定」を選択してください。

1. [個人設定] を選択



▶個人設定

2. 電子メールアドレスを変更したい場合は、ここに

3. パスワードを変更したい場合は、ここに

4. [適用] ボタンをクリック

アカウント名:	Logitec2
フルネーム:	(空白)
電子メール:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="password"/>
パスワードの確認:	<input type="password"/>
デフォルトグループ:	users
割当:	Volume1 0.09GB
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="取消"/>	

上の個人設定画面が表示されますので、電子メールアドレスを変更したい場合には、[電子メール] の欄に入力します。

パスワードを変更したい場合は [パスワード] 欄に入力し、[パスワードの確認] 欄にもう一度入力します。

設定後[適用]ボタンをクリックしてください。設定内容が反映されます。

ログアウト

ユーザーがストレージマネージャからログアウトしたい場合は、ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ログアウト]を選択してください。

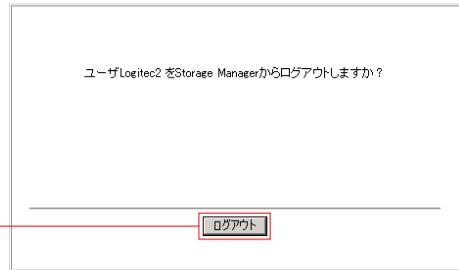
[ログアウト]を選択



右の画面が表示されますので、[ログアウト] ボタンをクリックしてください。

▶ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリック



その他

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ファイルブラウザ] を選択すると、ログインしたユーザーの home フォルダおよび、共有フォルダとその中のファイルが確認できます。また、ファイル名をクリックすることにより、ファイルをダウンロードすることが可能です。ログインしたアカウントにアクセス権限のないフォルダは表示されません。

[ファイルブラウザ] を選択



第3章 バックアップツールの使用

(Windows のみ)

本章ではデータのバックアップ方法についてご説明いたします。本製品では付属のバックアップツールを使用して次の設定を行うことができます。

NAS サーバ上のデータおよび設定のバックアップ

「LogitecNAS Backup」を使用

NAS サーバ上のデータバックアップのスケジュール化

「LogitecNAS Backup」を使用

バックアップデータを NAS サーバ上にリストア

「LogitecNAS Backup」を使用

クライアントコンピュータ上のデータをNASサーバ上にバックアップ

「LogitecNAS Client Backup を使用」

NAS サーバ上のバックアップデータをクライアントコンピュータ上にリストア

「LogitecNAS Client Backup を使用」

ここでは、それぞれの手順について順番にご説明します。

 **ご注意：**

バックアップツールはWindows クライアントでしか使用できません。

NAS のデータおよび設定のバックアップ

[スタート] ボタンから [プログラム] を選択し、[Logitech] - [*** シリーズユーティリティ] から、[LogitechNAS Backup] を選択してください。

「*****」の部分には、製品のシリーズ名が入ります。



選択画面 (Windows 2000 の例)

2.NAS サーバを選択

3.[バックアップ]ボタンをクリック



LogitechNAS Backup が起動しますのでNASサーバを選択します。複数表示されている場合は、バックアップを行なう装置を選択してください。

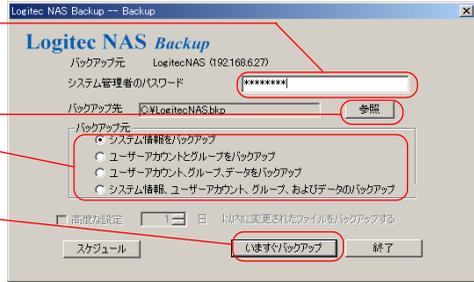
[バックアップ]ボタンをクリックしてバックアップウィンドウを開きます。

4. パスワードを入力

5. 保存先を選択

6. データの種類を選択

7.[今すぐバックアップ]ボタンをクリック



[システム管理者パスワード]を入力します。

バックアップファイル(*.bkp)を保存する場所を「参照」をクリックして選びます(保存場所は初期設定では、Cドライブのルートディレクトリになっています)。

バックアップするデータの種類を選びます。(データの種類については次ページのポイントをご参照ください。)

一番初めは[高度な設定]を行わずに、「システム情報、ユーザーアカウント、グループおよびデータのバックアップ」を選択し、[今すぐバックアップ]ボタンを押してください。

[今すぐバックアップ]を押すと、バックアップが始まります。バックアップが完了したら、[OK]をクリックするとバックアップ結果が表示されます。

Point ポイント:「高度な設定」(増分バックアップ)について

通常のバックアップでは、すべてのファイルがバックアップ対象になり、バックアップされますが高度な設定を選択することにより、設定した日付以前、または作成されたファイルのみバックアップされます。そのため、バックアップ時間の短縮やバックアップ先の記憶領域を節約することができます。

なお、高度な設定は

- ・「ユーザーアカウント、グループ及びデータのバックアップ」
- ・「システム情報、ユーザーアカウント、グループおよびデータのバックアップ」

を選択したときのみ、選択することが可能です。

作業が開始されますとシステムの分析を行い、データのバックアップが開始されます。

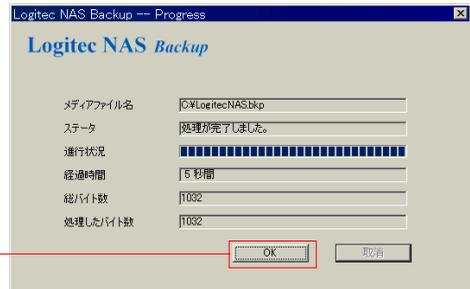
バックアップが完了しますと、右のようなウィンドウが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

「OK」をクリック



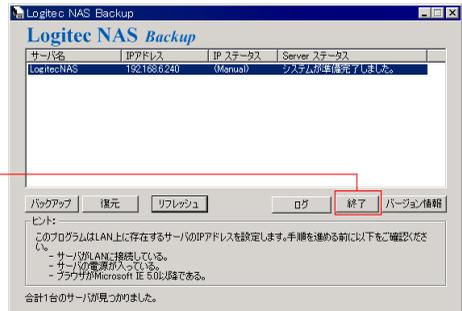
バックアップ結果が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

「OK」をクリック



「Logitec NAS BackUp -- BackUp」のウィンドウが表示されますので、「終了」ボタンをクリックしてください。

「終了」をクリック



Point ポイント

NASサーバのバックアップ以下の4種類から選ぶことができます。一番初めは[高度な設定]を行わずに、「システム情報、ユーザーアカウント、グループおよびデータのバックアップ」を選択し、[今すぐバックアップ]ボタンを押してください。

1. システム情報：
データ、言語、通知設定などをバックアップ/リストアできます。
2. ユーザーアカウントとグループ：
すべてのユーザーアカウントとユーザーグループの設定などをバックアップ/リストアできます。
3. ユーザーアカウント、グループ、データ：
ユーザーアカウント、ユーザーグループ、すべての共有フォルダに保存されているデータ、ユーザーのhomeフォルダに保存されているデータなどをバックアップ/リストアできます。
4. システム情報、ユーザーアカウント、グループ、データ
上記1項と3項の内容をバックアップ/リストアできます。

ヒント

上記2～4を選択してバックアップを行う場合、データのバックアップ中にNASサーバがWindowsドメインに属している場合は、Windowsのドメイン情報(ドメイン名、PDC名、PDCに持つアカウント)も同時にバックアップすることができます。

各種類を選択してのバックアップされる項目は、「付録7 LogitecNAS Backup 項目一覧」をご参照ください。

ポップアップウィンドウに表示されるメッセージについて

エラーが発生した場合は以下のエラーメッセージが表示されます。

「指定されたドライブにはバックアップファイルを保存するだけの空き容量がありません」

- ・バックアップ先には、空き容量が十分あるドライブを選択してください。
- ・バックアップ先の空き容量はNASサーバが使用している容量以上の空き領域が必要です。
- ・Windows XP、2000で使用する場合、バックアップ先のドライブがNTFS形式でフォーマットされている必要があります。FAT32形式でフォーマットされている場合はNTFS形式でフォーマットしなおしてください。

「無効なパスワードです」

- ・システム管理者用の正しいパスワードを再度入力してください。入力の際は大文字小文字にご注意ください。

 **ご注意：**

バックアップ先には空き容量が十分（NAS サーバの使用量以上）にあるローカルディスクを選択してください。

OSやアプリケーションにより、扱える1つのファイルサイズに制限があります。

FAT32形式でフォーマットされたWindowsシステムでLogitec NAS Backupを実行し、このクライアントのハードディスクドライブなどへNASサーバ上のファイルをバックアップする場合などには、バックアップファイルが自動的に複数の4GBサイズのファイルに分割され、各ファイルの拡張子が".bkp"、".001"、".002"、順などになります。また、これらのファイルは同じディレクトリに保存する様にしてください。その後、NASサーバ上にデータを復元（リストア）するときは、".bkp"ファイルを指定すればその他の関連ファイルも自動的にリストアされます。分割されたファイルを1つずつ手動でリストアする必要はありません。

 **参考：増分バックアップの例**

1月5日に、以下の条件で増分をバックアップする方法を説明します。

- 1月1日 フルバックアップ
- 1月3日 フルバックアップ
- 1月5日 増分バックアップ

上の例ではバックアップが行なわれていない日は1月4日と1月5日の2日間となります。1月5日に増分バックアップを行なう場合、この2日間の増分データをバックアップすれば1月5日までのデータはそろうので、「高度な設定」では「2」と入力します。

バックアップのスケジュール化

LogitecNAS Backup では日、月、週、特定の期日などの単位でバックアップのスケジュール化を設定することができます。設定はWindows のタスクに登録されます。

❗ ご注意：

スケジュールバックアップはWindows のタスク機能を使用します。Windowsのタスク機能を使うためには、管理者権限でWindowsパソコンにログインする必要があります。

LogitecNAS Backup を起動し、「バックアップ」ボタンをクリックしてバックアップウィンドウを開いてください。

「システム管理者(root) パスワード」を入力してください。

「参照」をクリックしてバックアップファイル(*.bkp)の保存先を指定します。

バックアップ元からバックアップするデータの種類を選択します。

ここまでの内容については前の「NASのデータのバックアップ」の手順 ~ をご参照ください。

[スケジュール] ボタンを押します。

5.[スケジュール]ボタンをクリック



次のような画面が表示されますので、「新規」ボタンをクリックします。

なお、既に他のスケジュールが設定されている場合には、画面が表示されない事もあります。表示されない場合には、次の手順に進んでください。

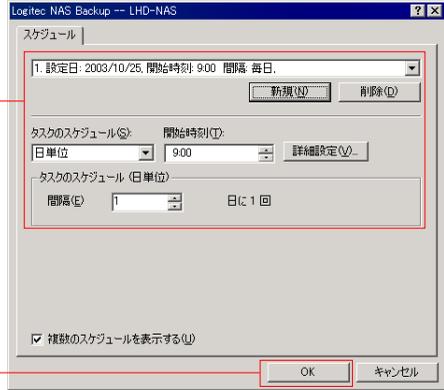
6.「新規」ボタンをクリック



バックアップのスケジュール化

次のような画面が表示されるので、必要に応じて設定を行い、「OK」ボタンをクリックしてください。

1. この部分で設定を行ない、



2. 「OK」ボタンをクリック

Point ポイント

- ・バックアップ中でもクライアントPCからアクセスは行う事が可能ですが、アクセスが少ない時間帯に設定していただくことをお勧め致します。
- ・夜間などにバックアップ作業を行う場合には、バックアップを行うコンピュータや、NAS サーバまでの通信経路が正常に動作している事（ハブなど電源がOFFにならない事）を予めご確認ください。

設定が完了すると、以下の画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックしてください。

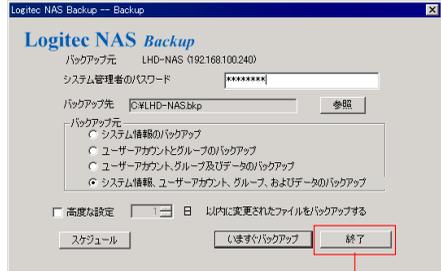
設定はWindowsのタスクに登録されるため、特に画面には表示されません。

「OK」ボタンをクリック



バックアップのスケジュール化

以下の画面が表示されたら、「終了」ボタンをクリックしてください。



「終了」をクリック

以上で設定は終了です。これで、設定した時刻にバックアップが実行されるようになります。

! バックアップ時の注意点：

LogitecNAS BackUpでは、各ユーザーのクォータ設定の内容をバックアップいたしません。クォータ設定の内容につきましては、お手数でもユーザー様ご自身で値を控えてください。

Point ポイント：スケジュールの種類

「日単位」

このオプションを選ぶと下の欄で「間隔」を設定することができるようになります。たとえば3日に1回バックアップを行う場合は「間隔」横のテキストボックスに「3」と入力します。

「週単位」

このオプションを選ぶと下の欄で「間隔」と曜日を設定することができるようになります。たとえば週に1回月曜日にバックアップをする場合は「間隔」横のテキストボックスに「1」と入力し、「月」のチェックボックスにチェックを入れます

「月単位」

このオプションを選ぶと下の欄で「実行日」または「間隔」と「実行する月の選択」をすることができます。はじめに「実行日」か「間隔」のいずれかを選択します。特定の日付（毎月25日等）設定する場合は「実行日」を、第1週の火曜日にバックアップを行うというような設定をする場合は「間隔」を選びそれぞれ設定します。「実行する月の選択」ではバックアップを行う月を選択することができます。

「1回のみ」

このオプションでは特定の日を指定してバックアップを行うことができます。

スケジュールの変更方法

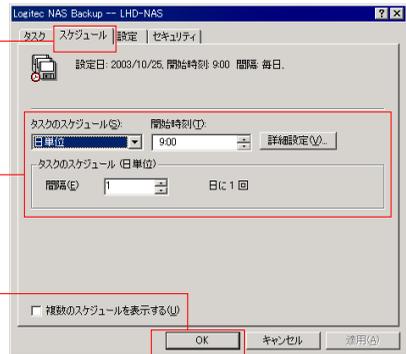
設定を行なったスケジュールを変更する場合には、ご使用のクライアントパソコンの「コントロールパネル」を開き「タスク」アイコンをダブルクリックし、タスクの一覧より、「LogitecNAS Backup」をダブルクリックします。

LogitecNAS Backupの設定画面が起動するので、「スケジュール」タブをクリックして設定を変更します。設定の変更が終わったら「OK」ボタンをクリックしてください。

1. 「スケジュール」タブをクリック

2. 設定を変更

3. 「OK」をクリック



正常に終了したかは、ログファイルを参照してください。

ログに表示されるエラーメッセージについて

ログファイルは LogitecNAS Backup を起動して、起動画面内の「ログ」ボタンを押すことにより参照できます。

「指定されたドライブにはバックアップファイルを保存するだけの空き容量がありません」

- ・バックアップ先には、空き容量が十分あるドライブを選択してください。
- ・バックアップ先の空き容量はNASサーバが使用している容量以上の空き領域が必要です。
- ・Windows XP、2000 で使用する場合、バックアップ先のドライブが NTFS 形式でフォーマットされている必要があります。FAT32 形式でフォーマットされている場合は NTFS 形式でフォーマットしなおしてください。

「無効なパスワードです」

- ・システム管理者用の正しいパスワードを再度入力してください。入力の際は 大文字小文字にご注意ください。

NASのバックアップデータを復元（リストア）

バックアップデータをNAS上に（復元）リストアする場合は、以下の手順をご参照ください。

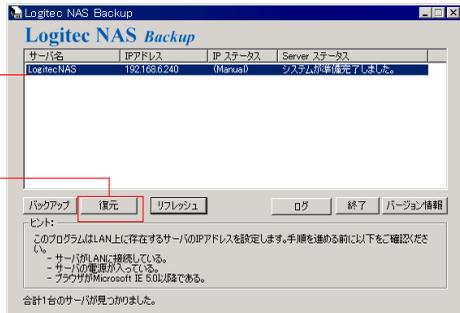
📢 ご注意：

- ・必ず、工場出荷時状態に戻し、高速環境設定にてNASのIPアドレスの設定を行ってから復元（リストア）を行ってください。その他の設定に関してはデータを復元（リストア）することにより設定（復元）されますので、設定する必要はありません。
- ・復元（リストア）中はクライアントパソコンからアクセスできませんのでご注意ください。
- ・クォータ設定の情報は「無制限」としてリストアされますので、必要に応じて再設定を行なってください。

復元（リストア）手順

1. 復元（リストア）を行なうNASサーバを選択

2. 「復元」ボタンをクリック



LogitecNAS Backup を起動し、一覧より、復元（リストア）を行なうNASサーバを選択します。

[復元] ボタンをクリックします。

NASのバックアップデータを復元(リストア)

3. パスワードを入力
4. ファイルを指定
5. リストア時のファイル
処理方法を選択
6. [適用] ボタンをクリック



[システム管理者パスワード] (工場出荷状態のパスワードまたは、高速環境設定時に設定したパスワード) を入力してください。

[復元元] の横にある [参照] ボタンを押して、復元 (リストア) するファイルの正しいパスを指定します (デフォルトでは、バックアップファイルの保存先は C ドライブのルートディレクトリに「LogitecNAS.bkp」として保存されています)。



[サーバに保存済みのデータを復元する場合には] の欄より、復元 (リストア) 時のファイルの処理方法について選択します。

フルバックアップしたバックアップファイルを復元 (リストア) する際は、「サーバ上のデータを置き換えてください。」を選択します。増分バックアップをとっている場合は、この後の「増分ファイルの復元 (リストア) のポイント」をご参照ください。

サーバ上のデータを置き換えてください。

この項目を選択した場合は、サーバ内に同じ名前のファイルがあった時に無条件でバックアップファイル内のデータを上書きします。
スキップして続行

この項目を選択した場合、サーバ内に同じ名前のファイルがあったときは、復元 (リストア) 時にそのファイルは上書きしません。同じ名前のファイルが存在しない場合は、バックアップファイルからサーバ上にコピーして行きます。

設定が終わったら [適用] ボタンをクリックしてください。

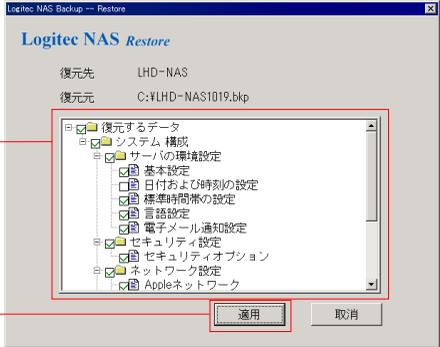
NASのバックアップデータを復元(リストア)

右のメッセージが表示されますので「OK」ボタンをクリックしてください。



[OK] をクリック

8. 復元(リストア)する項目をチェックし、しない項目からはチェックを外します
 詳細は「付録8 LogitecNAS Backup 復元(リストア)項目一覧」をご参照ください。



9. [適用] ボタンをクリックします

復元(リストア)するデータを選択する画面が表示されますので、復元(リストア)する項目はチェックし、復元(リストア)しない項目のチェックは外します。

[適用] ボタンをクリックします。

復元(リストア)中は右の画面が表示されます。



復元(リストア)作業が完了すると右の画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



作業内容が表示されますので、内容を確認したら「OK」ボタンをクリックしてください。



以上で復元(リストア)は完了です。

3

Point フルバックアップファイルの復元(リストア)のポイント

復元(リストア)を行う際には、NASを工場出荷時状態に戻す必要があります。

必ず、工場出荷時状態に戻し、高速環境設定にてNASの基本的な設定を行ってから復元(リストア)を行ってください。

ここでは、以下のバックアップファイルを取ってあるものとして説明します。

- 1月1日 フルバックアップ
- 1月2日 フルバックアップ
- 1月3日 フルバックアップ
- 1月4日 フルバックアップ
- 1月5日 フルバックアップ

・1月3日の状態に戻したい場合

- 1.NASを工場出荷時状態に戻します。
2. 高速環境設定を行い、NASの基本的な設定を行います。
- 3.1月3日のバックアップファイルを上書きモードにて復元(リストア)を行う。

・最新の情報(1月5日)に戻したい場合

- 1.NASを工場出荷時状態に戻します。
2. 高速環境設定を行い、NASの基本的な設定を行います。
- 3.1月5日のバックアップファイルを上書きモードにて復元(リストア)を行う。

Point 増分ファイルの復元(リストア)のポイント

復元(リストア)を行う際には、NASを工場出荷時状態に戻す必要があります。

必ず、工場出荷時状態に戻し、高速環境設定にてNASの基本的な設定を行ってから復元(リストア)を行ってください。

ここでは、以下のバックアップファイルを取ってあるものとして説明します。

- 1月1日 フルバックアップ
- 1月2日 変更があった1日分のバックアップファイル
- 1月3日 変更があった1日分のバックアップファイル
- 1月4日 変更があった1日分のバックアップファイル
- 1月5日 変更があった1日分のバックアップファイル

・1月3日の状態に戻したい場合

- 1.NASを工場出荷時状態に戻します。
2. 高速環境設定を行い、NASの基本的な設定を行います。
- 3.1月3日のバックアップファイルを上書きモードにて復元を行う。
- 4.1月2日のバックアップファイルをスキップモードで復元を行う。
- 5.1月1日のフルバックアップファイルをスキップモードで復元を行う。

・最新の情報(1月5日)に戻したい場合

- 1.NASを工場出荷時状態に戻します。
2. 高速環境設定を行い、NASの基本的な設定を行います。
- 3.1月5日のバックアップファイルを上書きモードにて復元を行う。
- 4.1月4日のバックアップファイルをスキップモードにて復元を行う。
- 5.1月3日のバックアップファイルをスキップモードにて復元を行う。
- 6.1月2日のバックアップファイルをスキップモードで復元を行う。
- 7.1月1日のフルバックアップファイルをスキップモードで復元を行う。

 **ご注意：**

1. データを本製品に復元(リストア)するときは、本製品に十分な記憶領域があることをご確認ください。記憶領域が足りないと復元(リストア)に失敗します。
2. データのバックアップ/復元(リストア)ではテンポラリファイルが生成されます。したがって、空き記憶領域が20MBに満たないとバックアップ/リストアを実行できません。

本製品へのデータバックアップ/復元(リストア)が失敗すると、電子メールが到着します。エラーコードによってデータバックアップ/復元(リストア)の失敗内容がわかります。ストレージマネージャの「システムログ」タブで、ログファイルに記録されているエラーコードを検索することもできます。電子メールで通知されるエラーコードの説明を次ページに記します。

バックアップ/復元(リストア)失敗時にエラーメッセージを確認したい場合は、あらかじめ通知用メールアドレスの設定を行なっておく必要があります)

電子メールで通知されるエラーメッセージ

エラーコード 1

意味：システムエラーが起きました。

対策：お使いのクライアントコンピュータを再起動してもう一度お試しください。
ネットワークケーブル、ハブの接続を確認してもう一度お試しください。

エラーコード 2

意味：指定されたWindowsドメインに統合できません。

データリストア中です。

対策：ストレージマネージャを起動し、「ネットワーク設定」内の「Windowsドメイン」より再度Windowsドメインの参加手順に沿って作業を行ってください。

エラーコード 3

意味：データ復元中にすでに本製品が、別のWindowsドメインに追加されていました。

対策：バックアップファイルに記録されているWindowsドメイン情報と現在使用しているNASサーバに登録されているWindows情報が異なります。ドメイン情報を確認してください。
確認後、ストレージマネージャを起動し、「ネットワーク設定」内の「Windowsドメイン」より再度Windowsドメインの参加手順に沿って作業を行ってください。

エラーコード 4

意味：本製品の記憶領域がデータのリストアを行うには不十分です、ファイル復元を中止しました。

対策：空き容量を確認してください。

このエラーが発生すると、元のWindowsドメインへの再結合が失敗します。「NASのバックアップデータを復元(リストア)」の手順にて、「Windowsネットワーク」のチェックを外して復元(リストア)を行なった後に、再度「Windowsドメインへの参加」をご参照の上、設定を行なってください。

クライアントパソコンのデータのバックアップとリストアについて (LogitecNAS Client Backup)

LogitecNAS Client Backup はクライアントパソコンのデータを NAS へバックアップするためのツールです。LogitecNAS Client Backup には、次の機能があります。

1. Windows クライアントのファイルフォルダをモニタし、変更が加えられるとその内容を自動的にバックアップ(自動モニタリング/自動バックアップ機能)
2. ファイルのパスワード保護によるセキュリティ強化。
3. バックアップファイルの圧縮によりサーバの記憶容量を節約。
4. バージョン管理を可能にし、最大 20 バージョンをサーバに記録。
5. タグ管理を可能にし、最も代表的なバージョンにタグを付け、最大 20 個のタグを保存。
6. 必要なときにファイルをサーバからクライアントコンピュータに復元し、ファイルのバックアップ、管理、保護を容易にする。

⚠️ ご注意：

- ・モニタ機能にてバックアップを行えるのは、LogitecNAS Client Backup がインストールされているコンピュータ上のローカルディスク内のフォルダおよびファイルのみです。
そのため、ネットワークドライブやその他の外部記憶装置をモニタすることはできません。
- ・モニタ機能にてバックアップを行う場合、ルートディレクトリ(\)に保存されているファイルは指定する事ができません。
モニタ機能の対象はルートディレクトリ下のサブフォルダーのみです。
- ・モニタ機能を使用する場合には、LogitecNAS Client Backup がシステムに常駐する必要があります。
- ・Windows が使用しているシステムファイルなどは、アップロードやモニタ機能で NAS へバックアップすることができません。

LogitecNAS Client Backup の使用環境

使用条件

- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にルータなどのセグメントを越えるネットワークでは使用できません。
- ・バックアップを行うクライアントとNASサーバは同一セグメント上である必要があります。
- ・ハードディスク上にアプリケーションのインストール用領域として5MBの空き容量が必要
- ・対応 オペレーティングシステム：
Windows Me/98
Windows XP/2000/NT 4.0
- ・画面の最適解像度：800x600 以上



ご注意：

- ・Windowsなどのシステムが使用しているファイルはバックアップすることができません。
- ・システムファイルを含んだファイルをバックアップする場合、タグ管理を行うことができません。

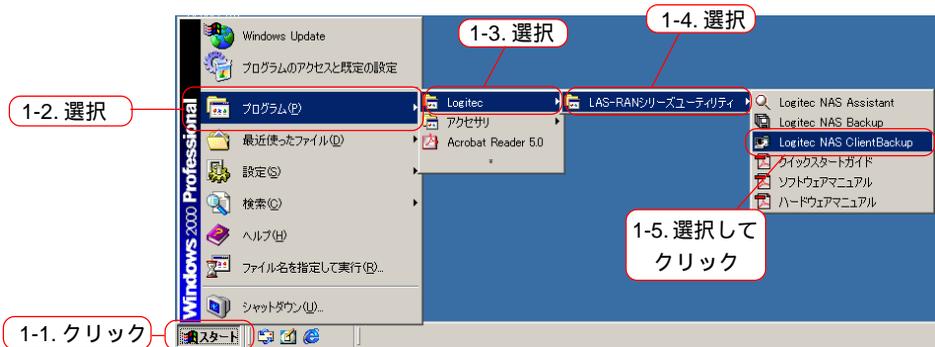
クライアントデータを NAS にバックアップ

初めて使用する - 全体をバックアップ

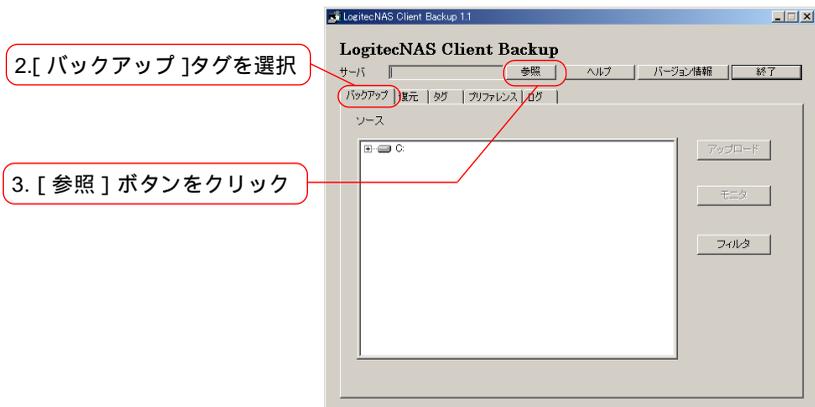
LogitecNAS Client Backup をはじめて実行するときは、コンピュータのフォルダ内のすべてのファイルをNASにバックアップすることで、その後に行われるファイル修正や作成をモニタできるようにしておく必要があります。

[スタート] ボタンから [プログラム] を選択し、[Logitec] - [*** ** シリーズユーティリティ] から、[LogitecNAS ClientBackup] を選択してください。

「*****」の部分には、製品のシリーズ名が入ります。

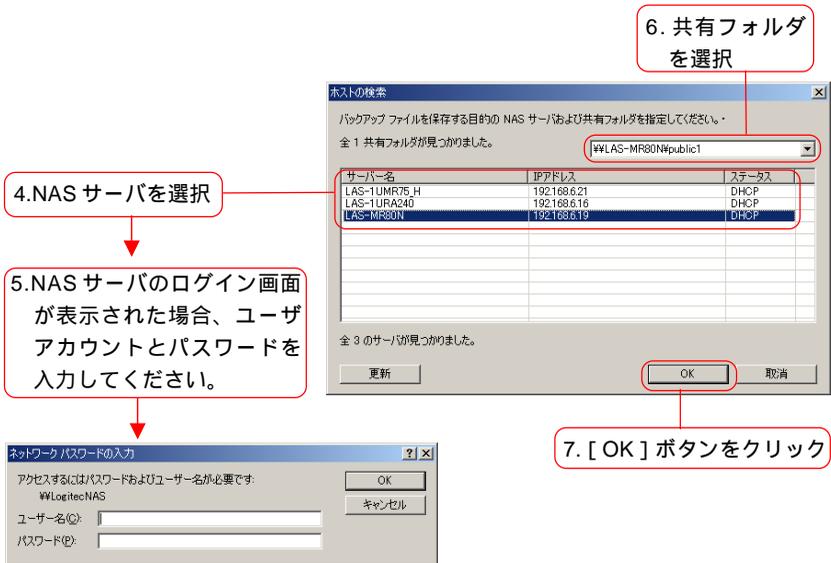


選択画面 (Windows 2000 の例)



[LogitecNAS Client Backup] を起動し、[バックアップ] タグを開きます。[サーバ] 入力欄で、[バックアップファイル] の保存先を選択します。[参照] ボタンをクリックしてください。

クライアントデータをNASにバックアップ



[ホストの検索]画面が表示されますので、NASサーバを選択します。
 NASサーバのログイン画面が表示された場合、ユーザアカウントとパスワードを入力します。
 バックアップファイルを保存する共有フォルダを選択します。
 選択したら、[OK]をクリックします。

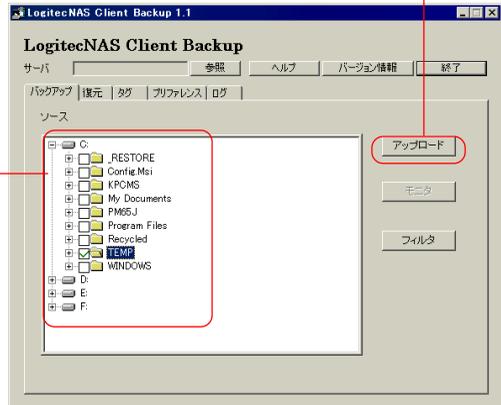
Point ポイント：

- ・「Public1」などの共有フォルダにバックアップ先に指定しておく、他のクライアントパソコンから不用意に削除されてしまったり、内容を参照されたり、修正されてしまう事もありますので、セキュリティも兼ねて、バックアップ先はHomeフォルダを選択することを推奨します。
- ・なお、Homeフォルダを使用する場合には事前にNASへアカウント登録をする必要があります。

クライアントデータをNASにバックアップ

9. [アップロード] ボタンをクリック

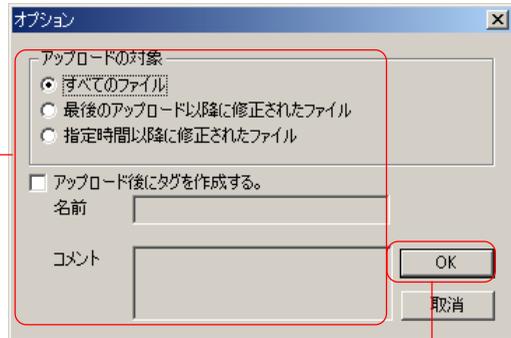
8. フォルダを選択し、チェックボックスにチェック「レ」マークをつけます



起動画面に戻ります。バックアップ/モニタしたいフォルダをツリー構造から選択し、左側のチェックボックスにチェック「レ」マークをつけます。

[アップロード] ボタンをクリックします。

10. 各設定を行います



11. [OK] ボタンをクリックします

[オプション] のダイアログボックスが表示されます。次ページのポイントを参照して必要な設定を行ってください。

設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。選択したフォルダ内のファイルが指定したNASサーバにバックアップされます。

Point ポイント：

LogitecNAS Client Backup でバックアップするのは今回がはじめての場合、[アップロードの対象] で [すべてのファイル] を選択します。

復元時のバックアップファイルを容易に確認できるようにしたい場合は、[アップロード後にタグを作成する] を選択します。アップロード完了後、このバックアップにタグがつけられますので、すぐに確認でき、その後の復元を容易に行えます。(下の「参考」をご参照ください。)

参考

LogitecNAS Client Backup では最大 20 個のタグを作成できます。タグを作成するのは、どの時点でのバックアップであるかを記録しておくためです。たとえば、プログラムのバージョン 1.0 が完成しており、バージョン 2.0 のプログラミングに取り掛かる場合、バージョン 1.0 のバックアップには特別な意味がありません。バージョン 1.0 のすべてのプログラムが完成しているので、バージョン 2.0 ではそれぞれの時点におけるファイルを表すタグを作成していきます。バージョン 2.0 の修正中にトラブルが発生したら、バージョン 1.0 のすべてのプログラムを自分のコンピュータに復元して修正を続けることができます。

バックアップされたファイルの拡張子について

LogitecNAS Client Backup でバックアップしたファイルにつく代表的な拡張子は以下になります。

- v00 バージョン番号
- z00 圧縮してコピー
- y00 暗号化してコピー
- x00 圧縮してコピー + 暗号化コピー
- t00 バックアップファイルにタグをつける
- u00 圧縮してコピー + タグ

コンピュータのファイルとフォルダをモニタする

初回のバックアップが終わると、それぞれのコンピュータのファイルフォルダをモニタできるようになります。フォルダ内のファイルに変更が加えられると、その内容がNASサーバに保存されます。

コンピュータに保存されているファイルフォルダをモニタしたい場合は、[LogitecNAS Client Backup] を起動し、そのコンピュータとバックアップ先サーバのファイルフォルダを選択して、[モニタ] ボタンをクリックします。LogitecNAS Client Backup がタスクトレイに常駐し、モニタを開始します。

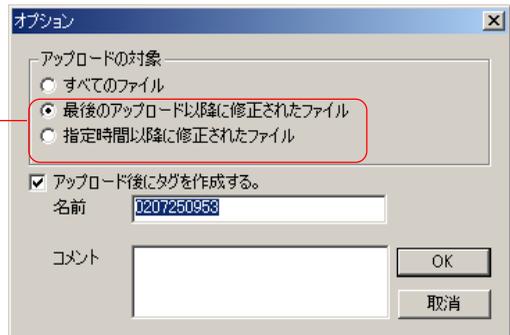
変更されたデータのみバックアップ

保存されているファイルが大きく、頻繁に変更が加えられる場合、変更の都度サーバに自動的にバックアップするとネットワークトラフィックが高くなることがあります。NASサーバの性能を低下させないため、初回のバックアップ終了後は、変更されたファイルのみNASサーバへ手動でアップロードする事も可能です。

または、初回のバックアップが終わった時点で、ファイルが変更されるまで（ネットワークを切り離しておくなどの理由により）モニタリングを開始したくない場合は、変更されたファイルをサーバにバックアップしておいてからモニタするようにします。

変更されたファイルをバックアップするには、コンピュータとバックアップ先サーバのファイルフォルダを選択し、右側の [アップロード] ボタンをクリックし、[最後のアップロード以降に修正されたファイル] を選択して直前のアップロード以降に変更されたファイルをバックアップするか、または[指定時間以降に修正されたファイル] を選択して指定時間以降に変更されたファイルをバックアップします。

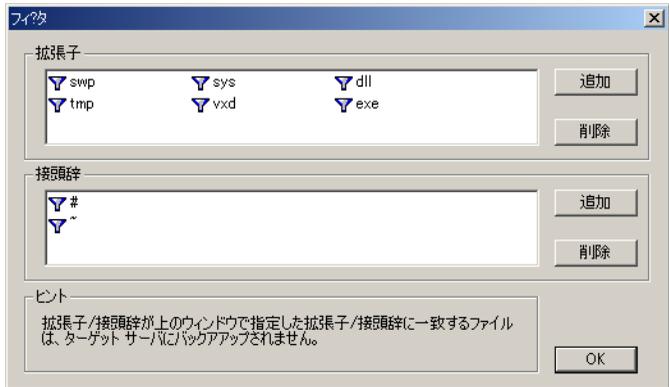
どちらかを選択



ファイルにフィルタをかける

特定のファイル群をバックアップしないようにできます(例: Windows のクライアントが作成する .tmp ファイルや一時ファイル)。

バックアップしないファイルをファイルタイプを基準にして設定するには、[バックアップ] タグを選択してから、右側の [フィルタ] をクリックし、[フィルタ] 画面からバックアップしたくないファイルの拡張子を追加 / 削除することで、その拡張子 / 接頭辞が付いたファイルをバックアップしないようにできます。



Point ポイント

接頭辞

ファイル名の先頭の文字です。

例

ファイル名: ~TEST.TXT

この場合 ~ が接頭辞になります。

拡張子

ファイル名の末尾の文字です。

例

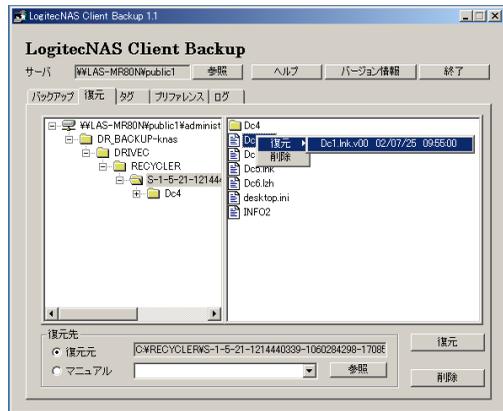
ファイル名: ~TEST.TXT

この場合 .TXT が拡張子になります。

デフォルトでは接頭辞が #、~、拡張子が .swp、.sys、.dll、.tmp、.vxd、.exe のファイルに関してはバックアップ対象外となっています。

NAS から Windows クライアントにファイルを復元

[復元] タブを選択します。NAS サーバに保存されているバックアップファイルのディレクトリが左側に表示されます。デフォルト設定では、Windows のクライアントファイルが NAS サーバのディレクトリ “ Account_Name¥DR_BACKUP-client computer name¥DRIVEC ” にアップロードされます。ディレクトリごとにすべてのサブディレクトリ/ファイルが右側に表示されます。



復元するファイルの保存先(コンピュータのパス) をページの一番下の復元先から選択します。復元するデータが復元元と復元先とで同じ場合には、「復元元」のラジオボタンを「ON ()」にしてください。別な場所に復元する場合には「マニュアル」のラジオボタンを「ON ()」にしてください。

ひとつずつのフォルダやファイル単位で復元するには、右側からファイルまたはファイルフォルダを選択し、マウスを右クリックし、参照機能の [復元] をクリックします。

また指定したフォルダ全体を復元するには右側からフォルダを選択し、ウィンドウの一番下にある [復元] ボタンをクリックします。

Point ポイント :

ファイルを個別に復元する場合は、バージョンまたはタグを復元基準にすることができます。複数のファイルまたはフォルダを復元する場合（ファイルのバージョンがそれぞれ異なる場合）は、[現在のバージョン]またはタグのみ選択できます。

クライアントパソコンのOSを再インストールし、バックアップからフォルダ構成ごとパソコンへ戻したい場合には、“Account_Name¥DR_BACKUP-client computer name¥DRIVEC”を開き画面右側よりリストアするフォルダを右クリックにて保存します。

タグ管理

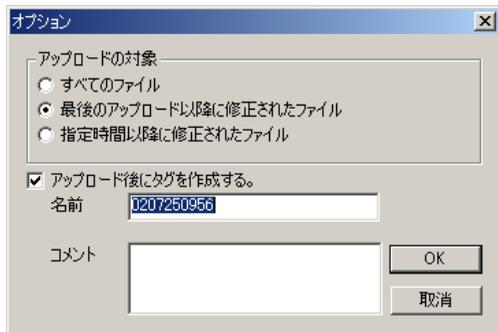
Logitech NAS Client Backup では最大 20 個のタグを作成できます。タグを作成するのは、どの時点でのバックアップであるかを記録しておくためです。

タグを作成したら、削除しない限り、タグが付いたファイルが削除されることはありません。

タグが作成された日時がタグの名前のデフォルトになります。たとえば、“111072228”であれば、そのタグが2001年11月7日午後10時28分に作成されたという意味です。タグ名は任意の名称をつけることができます。

タグのつくり方には次の2通りがあります。

1. ファイルのアップロード後に付ける



ファイルのアップロード後にタグを作成する場合は、[バックアップ] パネルで作成します。

タグの作成時に、NAS サーバのバックアップディレクトリに保存されている最新版のファイルが保存されます。次の2つの例で作成方法を説明します。

例 1

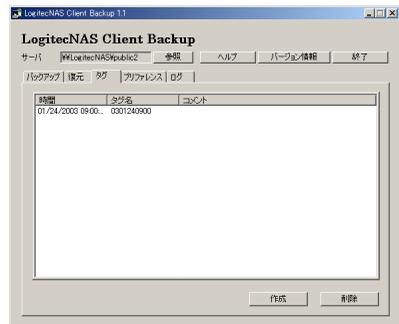
[すべてのファイル] をアップロードする際に、[アップロード後にタグを作成する] を選択し、[OK] をクリックすると、NAS サーバにアップロードされたすべてのファイルのタグがアップロード後に作成されます。

この項目は次ページへ続きます。

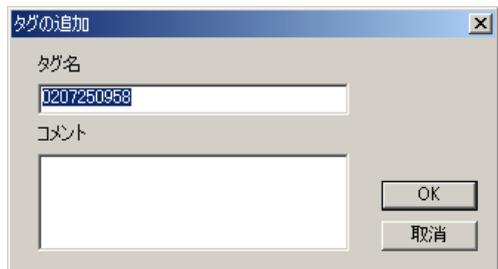
例 2

[最後のアップロード後に修正されたファイル]または[指定時間以降にアップロードされたファイル]をアップロードする場合は、[アップロード後にタグを作成する]を選択し、[OK]をクリックします。すると、アップロードされた(最新版の)すべてのファイルのタグが作成されます。また、(変更が加えられていなかったために)アップロードされなかったものでも、すでにNAS上に存在していた最新バージョンのファイルも同時に、新たにタグが作成されます。

2. [タグ]パネルで新しいタグを作成する。



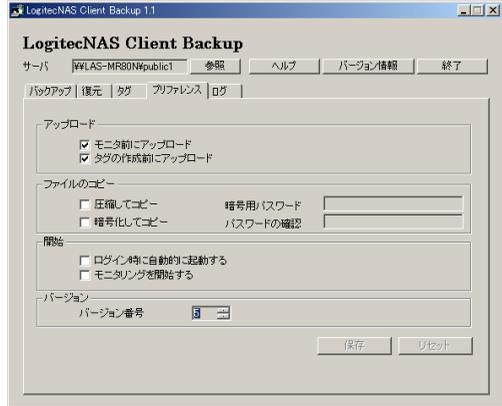
[タグ名]と[コメント]に入力したら、[タグ]パネルを選択し、[作成]ボタンをクリックし、[OK]をクリックします。NASのバックアップディレクトリに保存されている最新バージョンのファイルごとにタグが作成されます。[プリファレンス]タグのアップロードで[タグの作成前にアップロード]にチェックを入れると、変更が加えられたファイルがサーバにアップロードされ、アップロードが終わるとタグが作成されます。これは、作成されるすべてのタグがクライアントステーションに保存された最新版のファイルを表すようにするために行います。(特にモニタ機能をはじめて起動する場合に行います。)



プリファレンス

LogitecNAS Client Backup ツールの初期値の設定を行うことができます。

アップロード



1. モニタ前にアップロード

このオプションをクリックすると、モニタリングのたびに、バックアップされていないファイルがないかを確認します。そうしたファイルが存在する場合は、自動的にアップロードします。この方法は、ネットワークが切り離されたり、初回のバックアップ実行直後にモニタリングが実行されなかった場合に、クライアントのコンピュータによってファイルが変更されることがないようにするために行います。

2. タグの作成前にアップロード

このオプションをクリックすると、タグが新たに作成される前に、変更が加えられたファイルがクライアントからサーバにアップロードされ、アップロードが終わるとタグが作成されます。これは、作成されるすべてのタグがクライアントステーションに保存された最新版のファイルを表すようにするために行います。これは、特にモニタ機能をはじめて起動する場合に行います。

ファイルのコピー

1. 圧縮してコピー

記憶容量を節約するために、このオプションにチェックが入っていると、NAS サーバに保存されているすべてのバックアップファイルが圧縮されます。

2. 暗号化してコピー

データのセキュリティを確保し、データ不正な流出を防ぐために、このオプションによって、サーバに保存されているファイルをパスワードで保護することができます。

注意：

データをリストアする際に、このパスワードが必要になりますので、忘れないように注意してください。

初期化設定

1. ログイン時に自動起動

クライアントの電源を投入してから LogitecNAS Client Backup を実行します。

2. 起動時にモニタ開始

LogitecNAS Client Backup を起動してからモニタリングを実行します。
[モニタ前にアップロード] にもチェックを入れておくと、ログインした時点でモニタ機能実行前にアップロードされていなかったすべてのファイルがあらかじめアップロードされます。

世代管理

LogitecNAS Client Backup は最大20世代まで対応しています。バックアップするファイルのバージョン数を選択することができます。

20 世代をバックアップする場合は、バックアップファイルの拡張子がバージョン番号を表します（例: 最初のバージョンのバックアップファイルの拡張子が “v00 ” になります）。この番号は新しいバージョンのファイルがバックアップされるたびに増分します。20 バージョンすべてを使い切ると、ファイル拡張子が “v20 ” になり、拡張子 “0 ” のファイルが削除されます。拡張子のこの付け方にならってファイル拡張子が増分し、“v99 ” まで増分すると “0 ” に初期化され、新しいサイクルが始まります。

付録 1 : RAID とは

RAID は "Redundant Array of Independent Drives" の略語です。RAID は、少容量低コストの多数のディスク装置を結合して"ディスクアレイ"を構成し、同等容量の1台の大型ディスク装置に勝る性能を可能にすると共に、個別のディスク装置のメリットを活かしてシステムを効率化する技術です。RAID では、読み書きを個々のディスク装置に分散することによりデータアクセスを高速化します。これにより、大型のディスク装置1台の場合と比べて、アクセス要求待機時のボトルネックを解消します。言い換えれば、ディスクアレイにデータを書き込む際に多数のブロックに分割し、複数のディスク装置に記憶します。同様に、データを読み取る際には、複数のディスク装置から同時に読み出すことにより、ディスクアレイのアクセス速度を高速化します。これに加えて、RAID によっては記憶領域の一部をデータのミラーリングに利用する仕様のものがあります。つまり冗長なデータを記憶します。これにより、ディスクアレイにしたディスク装置の1台が故障してもシステムの整合性が損なわれることはありません。

この項目は次ページへ続きます。

付録 1 : RAID とは

RAIDレベル	特徴
RAID 0	ストライピング: 複数のディスク装置を使用して1台の大型仮想ディスク装置の働きをします。冗長性は備えていません。
RAID 1	ディスクの半数をミラーリングに使用します。すなわち、ディスク A の内容とディスク B の内容を重複させることで、データの整合性を保ちます。実際にデータ記録に使用できるのはディスク装置の総記憶容量の半分に なります。
RAID 5	RAID 5 ではバックアップオプションが用意されています。複数ディスクを1台の仮想ディスクとして取り扱い、アクセス速度を高速化します。パリティモードにより1台のディスク装置のサイズに匹敵する記憶領域に冗長なデータを記憶します。4台のディスクで実際にデータ記録に使用できる容量は3台分となります。
ホットスペア搭載 RAID 5	ホットスペア搭載RAID 5は、RAID 5のディスクアレイに1台のスペアディスクを追加し、1台目を冗長記憶に使用し、2台目をスペアに使用します。4台のディスク装置のシステムで実際にデータ記録に使用できる記憶領域は、2台分となります。

RAID 0 (ストライピング)

RAID 0 では、データを分割し、別々の場所に記録します。ただし、フォールトトレラントではありません。RAID 0 では、ディスクアレイは1台の大型ディスク装置として取り扱われます。そのサイズは、個々のディスク装置をすべて結合したサイズとほぼ同じです。複数ディスク装置への並列アクセスにより、読み書きの高速化が可能となり、個別にディスク装置を使用する場合より動作が高速化されます。そのため、RAID 0 は大量のストリーミングデータを効率的に転送することが必要とされる用途に最適です。

RAID 0 では冗長性を備えていません。従ってディスクアレイのうち1台のディスク装置に障害が起きると、ディスクアレイ全体が使用不能になります。

RAID 1 (ミラーリング)

RAID 1 では、ディスク装置がペア配列されます。データは常に両方のディスク装置にペアで書き込まれます。RAID 1 は比較的障害に対しての安全性が考慮されています。他の方法より費用がかさみますが、それは実際には2倍の物理的記憶容量を搭載する必要があるからです。RAID 1 は、安全性が重視される複数ユーザーの環境で使用することが多いといえます。

この項目は次ページへ続きます。

RAID 5

RAID 5 は、RAID 0 と同じく、複数のディスク装置を使用して1台の大型仮想ディスクの働きをさせます。ただし、パリティデータ (Parity) 形式によって冗長なデータを記録します。データの書込み中にデータをスキャンし、冗長な (redundancy) データをディスクアレイ内の別のディスク装置に記録します。そのパリティ情報を分割して別々のディスクに記録します。記録は実際のデータと一緒に行います。ディスクアレイ内の1台のディスク装置が使用不能になっても、データ保護用のディスクに保存されているパリティデータを使用して情報全体を復元することができます。

ホットスペア対応 RAID5

ホットスペア搭載 RAID 5 は、RAID 5 にさらに1台のスペアディスクを装備した構成です。アレイ内のディスク装置がどれか1台使用不能になると、スペアディスクが自動的にオンラインになり、損傷したデータを復元します。

注意 :

RAID はシステムの可用性のレベルを大幅に引き上げますが、データの安全を保障するものではありません。定期的にデータをバックアップすることは習慣にしておいてください。不意な電源切断などで、RAID でもデータを復元できない場合があります。RAID 5 は1台のディスクで起きる使用不能を補償する手段にすぎません。2台のディスクが同時に使用不能になると、データは消失してしまいます。

付録 2 : トラブルシューティング

パスワードを忘れた場合

一般アカウントのパスワードを忘れたら、システム管理者に個人設定を設定し直してもらいます。ただし、システム管理者のパスワードを忘れた場合、設定の変更やバックアップなどを行うことは一切できなくなりますのでご注意ください。

Assistant ツールで NAS が認識されない

以下の点をご確認ください。

1. 本製品が LAN に接続しているかを確認する。
2. 本製品が電源に接続され、電源が入っているかを確認する。
3. 本製品の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複していないか確認する。
4. 使用しているクライアントコンピュータとセットアップする NAS サーバが同じサブネット上(ネットワークアドレス上)に存在していることを確認する。
5. 常駐プログラム(アンチウィルスソフト等)を外す。
6. 別のクライアントでためしてみる。
7. ハブを変えてみる。
8. ハブのポートを変えてみる。

ハードディスクエラー

Non-RAID のシステムはデータの冗長性がありません。したがって、ハードディスクが損傷すると、そこに保存されているすべてのデータが失われます。データのバックアップは必ず定期的に行ってください。

RAID 5 のシステムでは、どれか 1 台のハードディスクで障害が起きた場合もデータは保持されています。障害が起きたディスクを、新品と交換してください。

新しいハードディスクに自動的にデータが復元されます。復元中もクライアントのアクセスは行えます。次ページにあげる事項にご注意ください。

1. RAID 5 であってもバックアップは必ず行ってください。
2. RAID 5 の場合、復旧が可能なのは 1 台のハードディスクが破損した場合 だけです。複数のハードディスクが同時に使用不能になった場合はシステム自体も完全に使用不能になり、システムに保存されているすべてのデータが失われます。

ハードディスクリビルドエラー

ハードディスクのリビルドが失敗する原因として考えられるものを以下に記します。

1. 交換したハードディスクも損傷している。
2. リビルドするハードディスクとは別に残りのハードディスクも損傷している。

高速設定の日付 / 時刻ページにボタンが表示されない

アンチウィルスソフトウェアのファイアウォール機能によっては、高速環境設定の日付/時刻ページが表示されない状態になるものがあります。ファイアウォールを無効にし、再度試みるか、または他のクライアントからセットアップを行ってください。

ストレージマネージャとクライアント PC との 接続が失われる

ネットワークトラフィックが重いためにセットアップ実行中にストレージマネージャが応答しなかったり、フリーズする場合は、別の箇所をクリックしてから元の箇所を再度クリックしてみてください。これでうまくいかない場合は、ブラウザのウィンドウを閉じ、ストレージマネージャを再度開きます。ネットワーク環境設定を変更したら、NAS に接続できないネットワークの環境設定を修正し(サーバアドレス、ドメイン、DNS データ、等を含みます) ネットワーク設定を再度確認し、必要に応じて変更します。ブラウザを閉じ、ストレージマネージャに再度接続を試みてください。サーバから電子メールで通知されない場合は、ストレージマネージャで「サーバ情報」「システムログ」へ移動し、ログに記録されているメッセージを確認します。電子メール通知の未配達に関するエラーメッセージを以下に示します。

1. Cannot resolve the host address(ホストのアドレスを解明できません):
xxxxxx,rcode:xxx.

このメッセージは、SMTP サーバの名前としてつけられた名前を DNS サーバが確認できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

- DNS データエラー
- DNS サーバの電源障害
- ドメイン名間違い
- SMTP サーバ間違い

上記のオプションを確認し、再度試みてください。

2. Cannot connect to host (ホストに接続できません):

xxxxxx(xxx.xxx.xxx.xxx)

このメッセージは、SMTP サーバに接続できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

ネットワーク接続が切れた。ネットワーク接続を確認し、再度試みます。

SMTP サーバが使用不能。サーバが正しく動作しているかを確認します。

SMTP サーバがメッセージを拒絶した。SMTP サーバがジャンクメッセージを区別していないことを確認します。

システム管理者に問い合わせるか、または他のSMTP サーバを使用してみます。

3. Mail server connection failed (メールサーバが接続できませんでした。)

このメッセージはSMTP サーバがタイムアウトし、30 秒間以内に応答しなかったことを表します。SMTP サーバが正しく動作しているかを確認します。

4. Send email error (電子メール送信エラー):xxx.

このメッセージは不明な電子メールエラーを表します。エラーコードをメモし、メールサーバなどのシステム管理者に問い合わせてください。

5. Cannot create socket resource.(ソケット資源を作成できません)

このメッセージは、電子メールを送信するだけの資源がないことを表します。サーバを再起動して障害を解消してください。

クライアント PC から本製品にアクセスできない

Windows/Macintosh/Linux クライアントがサーバにアクセスできない場合は、以下を確認してください。

1. クライアント PC に正しく IP アドレスが設定されているかを確認します。
2. ストレージマネージャの「ネットワーク設定」が正しく設定されているかを確認します。
3. 本製品を Windows ドメインに加えてある場合は、Windows PDC が正しく動作しており、本製品のアカウントが依然としてその PDC 上に存在することを確認してください。NAS サーバのアカウントを PDC 上に作り直し、サーバをストレージマネージャの Windows ドメインに追加してみます。また、NAS サーバにアクセスできなかったクライアントが Windows の同じドメインに正しくログオンしているかも確認してください。
4. 本製品を UNIX NIS ドメインに加えてある場合は、UNIX NIS サーバが正しく機能しているかを確認します。
5. 本製品と同じ IP またはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、競合ないように IP アドレスとサーバ名を変更してください。
6. LogitecNAS では、同時にネットワークにログオンできるクライアントは最大 256 (注1) です。しばらく待ってから再度接続を試みる必要がある場合があります。
7. Windows 2000 クライアントが不意にアクセス権限フォルダにアクセスできなくなった場合は、NAS サーバにログインする際にサーバから一度ログアウトし、再度ログインし直してみてください。
8. 上記の設定がすべて正しい場合は、NAS サーバを再起動してください。

(注1) LAS-1UMR、1Uxxx、MRN、MR シリーズ、LHD-NAS シリーズの場合。その他の機種では最大 512 です。

ローカルユーザーがストレージマネージャにアクセスできない

ローカルマシンに設定したユーザーのアカウントがストレージマネージャに接続できない原因として以下のものが考えられます。

1. 元々ユーザーのアカウントがWindows PDC アカウントだった。ローカルアカウントに追加するときにパスワードを設定しなかった。
2. ストレージマネージャで使用している言語とクライアントが使用している言語とが異なる場合は、ストレージマネージャ使用時にクライアントがランダムコードを読み込んでいる可能性があります。
ストレージマネージャに設定されている言語をリセットして、クライアントから読めるようにする必要があります（「設定について」の「ステップ3：NASサーバの詳しい設定」内の「言語の設定」をご参照ください）。

本製品に保存されているデータをバックアップ/ リストアできない

本製品へのデータバックアップ/リストアが失敗すると、「設定について」の「ステップ 3 : NAS サーバの詳しい設定」内「エラー通知用メールアドレス設定」で設定したあて先に電子メールが到着します。エラーコードによってデータバックアップ/リストアの失敗内容がわかります。ストレージマネージャの「システムログ」タブでログファイルに記録されているエラーコードを検索することもできます。電子メールで通知されるエラーコードの説明を以下に記します。

エラーコード 1

システムエラーが起きました。

本製品の再起動を試みます。再起動できない場合は弊社テクニカルサポートに問い合わせください。

エラーコード 2

データのリストア中は Windows ドメインに統合できません。バックアップ中に本製品を Windows ドメインに統合すると、Windows のドメイン情報も同時にバックアップされます。

Windows のドメイン情報は、本製品へのデータリストアと同時に、後でリストアできます。

リストア中に Windows のドメインが存在しない場合は、ドメインが断路しているか、または PDC がダウンし始めているおそれがあります。その場合は Windows のドメイン情報を正しくリストアできません。

エラーコード 3

データのリストア時にすでに NAS が別の Windows ドメインに統合されていました。そのため、元の Windows ドメインに再統合する際にエラーが起きることになります。バックアップ中に NAS サーバを Windows ドメインに統合すると、Windows のドメイン情報も同時にバックアップされます。Windows のドメイン情報は、NAS へのデータリストアと同時に、後でリストアできます。データリストア時に NAS サーバがすでに別の Windows ドメインに統合されていた場合は、元の Windows ドメインに再統合することができません。

エラーコード 4

NAS の記憶領域がデータ復元に不十分です。ファイルのリストアを中止しました。

エラーコード 5

データのバックアップまたはリストア中にネットワークが突然切断されたか、または、ユーザーが [キャンセル] をクリックしたため処理を停止しました。

Macintosh クライアントで本製品が見つからない。

以下の事項を確認してください。

1. 本製品の電源が入っていて、LAN に接続されていることを確認します。
2. Macintosh クライアントが他の AppleTalk サーバに接続できるかを確認します。接続できない場合、この Macintosh クライアントのネットワーク設定が正しくない可能性があります。
3. 管理者 (root) が、「ネットワーク設定」 - 「アップルネットワーク」内の Apple Talk または TCP/IP プロトコル上で Apple ネットワーキング接続を有効にしていることを確認します。

Macintosh クライアント経由で、本製品上にある特定の共有フォルダのファイルにアクセスできない

1. 本製品にそのような共有フォルダがあるか確認します。
2. フォルダ名ファイル名に 31 文字を越える文字列を使用していないか確認します。
3. 管理者(root)が、AppleTalk または TCP/IP プロトコル上で Apple ネットワーキング接続を有効にしていることを確認します。
4. このアカウントが、共有フォルダに対するアクセス権があるか確認します。
5. ユーザーが guest としてログインする場合に、システムアドミニストレータが guest アカウントにパスワードを設定していないことを確認します。
6. 本製品と同じ IP またはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、極力早期に状態を正します。
7. 本製品では、同時にネットワークにログオンできるクライアントは最大 256 (注 1) です。しばらく待ってから再度接続を試みる必要がある場合があります。
8. 上記の設定がすべて正しい場合は、NAS サーバを再起動してください。

(注 1) LAS-1UMR、1Uxxx、MRN、MR シリーズ、LHD-NAS シリーズの場合。その他の機種では最大 512 です。

Windows クライアントがNAS サーバに直接保存したファイルを Macintosh クライアントが実行できない

Macintosh クライアントおよび Windows クライアントは同じフォルダを共有できます。しかし、Macintosh のシステムおよび Windows のシステムは異なる方法でファイルの関連を処理するため、pdf や html などの Macintosh システムおよび Windows システムの両方がサポートするファイルへのアクセスは制限されることがあります。

たとえば、Windows クライアントが html ファイルを NAS サーバに保存する場合、Macintosh クライアントは、ウェブブラウザを自動的に起動させてファイルを開くためにこのファイルをサーバ上でダブルクリックすることができません。Windows システムが「関連するファイルの種類」を保存する方法が Macintosh システムの方法と異なっているため、Macintosh システムは、Windows システムで作成された html ファイルをどのプログラムで開くことができるか判断できません。2 つの解決方法があります。

1. このファイルの関連を Macintosh クライアント上で設定し直します。
2. Macintosh クライアントでそのファイルを実行するために使用するプログラムを最初に起動します。この場合、Internet Explorer を起動し、次にそのブラウザでファイルを開きます。もう一つの方法として、新規ファイルを Macintosh の形式で保存するために、[別名で保存]を使用してそのファイルを Macintosh クライアントで保存します。ファイルを開く場合は、それをダブルクリックします。

Macintosh クライアントが NAS サーバに保存したファイルを Windows クライアントが直接開くことができない場合にも同じ方法で解決することができます。

Macintosh クライアントが 4GB を超える単一ファイルを NAS サーバに保存できない。

これは Macintosh クライアントのシステムの制限によるためです。
「付録 6 : 設定制限表」を参照

Macintosh クライアントが NAS サーバに保存したファイルを Windows クライアントが削除できない

Macintosh システムでは、ファイル名の最後の桁をスペースにすることができますが、Windows システムではこの形式を使用することはできません。したがって、Macintosh クライアントがこの形式のファイルを NAS サーバ上に保存する場合、Windows クライアントはそれを認識できないためファイルを削除することができません。NAS サーバ上で Windows クライアントとファイルを共有する必要がある場合、Macintosh ユーザーはファイル名の最後をスペースとして保存しないようにすることをお勧めします。

機種依存文字って何？

機種依存文字とは、OS により異なる文字コードを持った文字のことです。したがって、異なる OS でファイルを共有する際には機種依存文字に気をつけなければなりません。ファイル名に機種依存文字を使用しないようにしてください。

< 機種依存文字の例 >

株 など

ネットワーク環境設定を変更したら NAS サーバに 接続できない

ネットワークの環境設定を修正し(サーバアドレス、ドメイン、DNS データ、等を含みます) ネットワーク設定を再度確認し、必要に応じて変更します。ブラウザを閉じ、ストレージマネージャ に再度接続を試みてください。

複数の NAS サーバがネットワーク上に存在する ときに、同じサーバ名前を設定すると NAS サーバが 見えない

それぞれの NAS サーバ名を重複しない別の名前に変更してください。

電子メール通知が到着しない

サーバから電子メールで通知されない場合は、ストレージマネージャで「サーバ情報」「システムログ」へ移動し、ログに記録されているメッセージを確認します。電子メール通知の未配達に関するエラーメッセージを以下に示します。

1. Cannot resolve the host address (ホストのアドレスを解明できません):xxxxxx, errcode:xxx.

このメッセージは、SMTP サーバの名前としてつけられた名前を DNS サーバが確認できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

- DNS データエラー
- DNS サーバの障害
- TCP/IP ドメイン名の間違い
- SMTP サーバの間違い

上記のオプションを確認し、再度試みてください。

2. Cannot connect to host (ホストに接続できません):xxxxxx (xxx.xxx.xxx.xxx).

このメッセージは、SMTP サーバに接続できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

ネットワーク接続が切れた。ネットワーク接続を確認し、再度試みます。

SMTP サーバが使用不能。サーバが正しく動作しているかを確認します。

SMTP サーバがメッセージを拒絶した。SMTP サーバがジャンクメッセージを区別していないことを確認します。システム管理者に問い合わせるか、または他のSMTPサーバを使用してみます。

3. Mail server connection failed (メールサーバが接続できませんでした。)

このメッセージは SMTP サーバがタイムアウトし、30 秒間以内に応答しなかったことを表します。SMTP サーバが正しく動作しているかを確認します。

4. Send email error (電子メール送信エラー):xxx.

このメッセージは不明な電子メールエラーを表します。エラーコードをメモし、システム管理者に問い合わせます。

5. Cannot create socket resource.(ソケット資源を作成できません)

このメッセージは、電子メールを送信するだけの資源がないことを表します。本製品を再起動して障害を解消してください。

付録 3 : 電子メール通知一覧

ここで使用する略式記号について :

%H = ホスト名 (NAS の名称) をあらわします。また、その他の「%+アルファベット」は、表示される名称が実際の環境により異なる可能性のあるものです。
(例えばユーザー名であったり、インターネットアドレスなどです。)

受信者	Subject	電子メールの内容	対応機種	
			LAS-RAN	LAS-MRN LHD-NAS
システム管理者	%H からお送りするテストメッセージ	お知らせ %H からお送りするテストメッセージです。 ご使用のブラウザで http://%// へ接続し、他の環境設定をお続けください。 アカウント名は以下をご利用ください。 'root'		
システム管理者	サーバ %H の温度が上昇しています	お知らせ サーバ%Hの温度が上昇しています。 CPU ファンが正常に作動していないおそれがあります。ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。		×
システム管理者	サーバ %H が過熱しています	お知らせ サーバ%Hが極度に高熱です。 CPU ファンが正常に作動していないおそれがあります。ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。		×
システム管理者	%H の温度が臨界に達しました	サーバ%Hの温度が臨界点に達したため、自動的にシャットダウンします。 標準温度に復帰したら、サーバを再起動し、原因を調べてください。		×
システム管理者	サーバ %H の温度が標準温度に復帰しました	お知らせ サーバ%Hの温度が標準に復帰しました。以下のサイトの「ツールキット/LED 管理」でLED をリセットしてください。 http://%//		×
システム管理者	%H でメモリエラーが起きました。	お知らせ %H でメモリエラーが起きました。 メモリチップに不具合があるおそれがあります。 ただちに修理してください。		×
システム管理者	%H : システムファンが故障しました	お知らせ %H のシステムファンが故障しました。 できる限り速やかにシステムファンを交換してください		×
システム管理者	IP リセットが完了しました	お知らせ %H のIP アドレスリセットが成功しました。 %H のIP アドレスを設定できます。		×

受信者	Subject	電子メールの内容	LAS- RAN	LAS-MRN LHD- NAS
システム管理者	%Hのディスク%Dが削除されました。	お知らせ %Hのディスク%Dが削除されました。 ディスクを確認し、新しいディスクと交換してください。以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%/		
システム管理者	%Hのディスク%Dを初期化しています	お知らせ %Hのディスク%Dを初期化しています。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 Http://%/		
システム管理者	%Hのディスク%Dをリビルドしています	お知らせ %Hのディスク%Dをリビルドしています。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%/		
システム管理者	%Hのディスク%Dをリビルドしました	お知らせ %Hのディスク%Dをリビルドしました。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%/		
システム管理者	%Hのディスク%Dをリビルドできませんでした	お知らせ %Hのディスク%Dをリビルドできませんでした。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。http://%/		
システム管理者	%Hのディスク%Dに損傷が起きました。スペアディスクをオンラインにしました	お知らせ %Hのディスク%Dに損傷が起きました。 スペアディスクをオンラインにしました。リビルド中です。 トラブル原因を見つけ、損傷したディスクを交換してください。		×
システム管理者	%Hのディスク%Dに不具合があります。	お知らせ %Hのディスク%Dに不具合があります。 トラブルの原因を調べ、ディスクを交換してください。		
システム管理者	新たに増設されたハードディスクの容量が少なすぎます。	新たに増設されたハードディスクの容量が、現在システムに使用されているハードディスクの容量より少ないです。Raid0、Raid1、Raid5、Raid5+spareのディスク構成で利用することができません。大容量のハードディスクと交換してください。	×	×
システム管理者	%Hの%DでI/Oエラーが発生しました。	お知らせ %Hの%DでI/Oエラーが発生しました。ハードディスク交換のタイミングを選んでください。		
システム管理者	%HのVolume %Vの空き容量が限界に達します	お知らせ %HのVolume %Vの空き容量が限界に達します。 不要なファイルを削除するか、または空き容量を増やしてください。 Volume 1に少なくとも10MBの空き容量がないとシステムの動作に支障がでます。 Volume %Vの総空き容量：%G ギガバイト残り容量：%R ギガバイト(%U%)		

受信者	Subject	電子メールの内容	LAS-RAN	LAS-MRN LHD-NAS
システム管理者	%N へのメールが未配達です	お知らせ ユーザ%N へのメールが未配達です。 ユーザ%N の電子メールアドレスを確認してください。		
システム管理者	%H がシステムを更新しています。アクセスを一時拒絶します。	お知らせ %H が現在システムファイルを更新中です。 10 分ほどで完了します。 更新中は、サーバへのアクセスを一時停止します。 よろしく願いたします。		
システム管理者	%H の更新完了	お知らせ %T の%t で%H がシステム更新に成功しました。 サーバが正常動作を回復しました。 最新バージョンのオペレーティングシステムは%B %Vです。 よろしく願いたします。		
システム管理者	%H の更新失敗 お知らせ	お知らせ %H 更新の試みが失敗しました。以下のどれか1 つが原因として考えられます。 1. 無効な更新ファイルが指定されたか、またはファイルが破損している。 2. 現在の更新ファイルより古いファイルが指定された。3. 複数のディスクが更新に失敗した。確認し、再度試みてください。		
システム管理者	%H のハードディスク設定変更が成功しましたアクセスを一時停止します。	お知らせ %H のハードディスク設定は現在以下のとおりです。 %L更新中は、アクセスを一時停止しました。		
システム管理者	%H のハードディスク設定変更が成功しました	お知らせ %H のハードディスク設定変更が成功しました。 すべてのハードディスクに保存されていたすべてのデータが消去されました。 サーバが現在使用している環境設定を以下に示します。 %L		
システム管理者	%H のローカル/リモートUPS 設定が完了していません	お知らせ [UPS 管理] ページの設定が完了していません。 設定が完了しないとUPS モニタデーモンが動作しません。		×
システム管理者	%H がローカルUPS を検出できません	お知らせ UPS モニタデーモンがローカルUPS を検出できません。以下の原因が考えられます。 1. シリアルケーブルのゆるみ。 2. シリアルケーブルの種類が間違っている。 3. UPS モニタデーモンがご使用のUPS タイプを認識できない。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。		×
システム管理者	%H がローカル/リモートUPS 電源の異常状態を検出しました	お知らせ UPS モニタデーモンがローカル/リモートUPS 電源の異常状態を検出しました。 ローカルUPS の交流電源が消失し、バッテリー電源で動作している可能性があります。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。		×

受信者	Subject	電子メールの内容	LAS-RAN	LAS-MRN LHD- NAS
システム管理者	%H がローカルUPS の異常状態を検出しました	お知らせ UPS モニタデーモンがローカルUPS の不明な異常状態を検出しました。 障害を解消し、[UPS 管理] ページでUPS モニタデーモンを再起動してください。		×
システム管理者	%H がリモートUPS を検出できません	お知らせ UPS モニタデーモンがリモートUPS を検出できません。以下の原因が考えられます。 1. リモートUPS のIP アドレスに間違いがある。 2. リモートUPS へのアクセス権限が許可されていないcommunity が設定された。 3. リモートUPS のエンタープライズOID に間違いがある。 4. リモートUPS がSNMP に対応していない。UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。		×
システム管理者	%H がリモートUPS 電源の異常状態を検出しました	お知らせ UPS モニタデーモンがリモートUPS 電源の異常状態を検出しました。 リモートUPS の交流電源が消失し、バッテリー電源で動作している可能性があります。 UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。		×
システム管理者	%H のリモートUPS の設定に間違いがあります	お知らせ [UPS 管理] ページで設定された[ステータスOID] をリモートUPS が認識できません。 以下の原因が考えられます。 1. [ステータスOID] 設定に間違いがある。 2. リモートUPS がSNMP に対応していない。UPS のモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS 管理] ページで再起動します。		×
システム管理者	%H に電源障害があり、UPS で稼働していません。シャットダウンします。	お知らせ 交流電源障害またはローカル/リモートUPS のバッテリー放電のため、このメール送付直後にサーバ%H がシャットダウンしました。		×
システム管理者	%H サーバ復元エラー、エラーコード%E	お知らせ 復元処理が失敗しました。エラーコードをご確認ください。エラーコードは%E です。		
システム管理者	%H に電源障害があり、UPS で稼働していません。シャットダウンします。	お知らせ 交流電源障害により、一時的にUPS から電源を供給しています。 [ツールキット/UPS 管理] の指定時間内に交流電源が復旧しない場合は、サーバ%H をシャットダウンします。		×
システム管理者	サーバ%H の交流電源が復旧しました。	お知らせ サーバ%H の交流電源が復旧しました。シャットダウン手順がキャンセルされました。		×
システム管理者	サーバ%H：ローカルUPS のバッテリー消耗	お知らせ ローカルUPS のバッテリーがなくなり、ただちにサーバ%H をシャットダウンします。		×
システム管理者	サーバ%H のローカル/リモートUPS が過負荷です	お知らせ サーバ%H のローカル/リモートUPS が過負荷ですこの状態が解消しない場合は、[ツールキット/UPS 管理] で指定した時間が経過した時点でサーバ%H をシャットダウンします。		×

受信者	Subject	電子メールの内容	LAS- RAN	LAS-MRN LHD- NAS
システム管理者	新たに増設されたハードディスクの容量が少なすぎます	お知らせ 新たに増設されたハードディスクの容量が、現在システムに使用されているハードディスクの容量より少ないです。Raid0、Raid1、Raid5、Raid5+spare のディスク構成で利用することができません。大容量のハードディスクと交換してください。(注意: 本製品ではRAID1は未サポートです。)	×	×
システム管理者	%H サーバのバックアップが成功しました	お知らせ バックアップ処理が成功しました。		
システム管理者	%H サーバの復元が成功しました	お知らせ 復元処理が成功しました。		
システム管理者	%H サーババックアップエラー、エラーコード%E	お知らせ バックアップ中にエラーが起きました。ただちにバックアップファイルを削除してください。エラーコードは%E です。		

受信者	Subject	電子メールの内容	LAS- RAN	LAS-MRN LHD- NAS
一般ユーザ	サーバ%H からようこそ%N 様	%N 様 ようこそ%H へ！ Network Neighborhood で¥ ¥ %H にアクセスするか、またはご使用のブラウザで > http://%/ /へ移動して個人プロフィールを修正してください。 ご使用のアカウント'%N' 氏名: '%F' パスワード: '%P' ディスク割当: %Q		
一般ユーザ	%H の%n のプロフィールが修正されました	%n 様 %H の個人プロフィールを以下のごとくに修正いたしました。 ご使用のアカウント'%N' 氏名: '%F' パスワード: '%P' ディスク割当: %Q		
一般ユーザ	%h をリネームしました	%N 様 元%h と称していたサーバを%H にリネームしました。 Network Neighborhood で¥ ¥ %H にアクセスしてください。 パーソナルプロフィールを変更したいときは、ご使用のブラウザで > http://%/ /へ移動します。		
一般ユーザ	%H のIP アドレスを変更しました	%N 様 %H のIP アドレスを以下のごとくに変更しました。 %N パーソナルプロフィールを変更したいときは、ご使用のブラウザで > http://%/ /へ移動します。		

付録 4 : 本製品のデフォルト値

サーバのプロパティ		
サーバ名	LogitecNAS	
サーバ日付/時刻	日本標準時間	
サーバ障害通知	未設定	
使用言語	日本語	
コードページ	Japanese SJIS(Code Page 932)	
システム管理者パスワード	password	
ネットワーク設定		
TCP/IP	DHCPサーバからTCP/IP設定を取得	オン
Microsoft Networking	Windowsネットワークを有効にする	オン
	ワークグループとドメインの設定	ワークグループをオン
Apple Networking	TCP/IP接続を有効にする	オン
	AppleTalk接続を有効にする	オン
UNIX NFS	NFSネットワークを有効にする	オン

この項目は次ページへ続きます。

付録 4 : 本製品のデフォルト値

セキュリティ設定		
ユーザー	root	定義済み管理ユーザ;ADMINS グループのメンバー;パスワード指定なし。rootのデフォルトディスクの割当は無制限。
	guest	パスワード指定なし。認証失敗したすべてのユーザにデフォルトIDを規定。(この機能を無効にするには、パスワードを指定。)guest のデフォルトディスクの割当は無制限。
新たに作成したアカウントのデフォルト設定	デフォルトグループ	users
	デフォルトディスク割当	無制限
最大アカウント	付録 6 を参照	
最大同時接続	Windows クライアント (CIFS / SMB) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照 UNIX クライアント (NFS) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照 Novell クライアント (NCP) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照 Apple クライアント (AFP) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照	
ユーザーグループ	admins	特殊アクセス権限を持つ定義済みグループ;サーバを環境設定できるのはADMINS メンバーのみ。root はこのグループのデフォルトのメンバーです。
	users	このグループのメンバーには、自分のアカウントにちなんだ名付けられたフォルダおよびその他、アクセス権限を有するフォルダが表示されます。Root はこのグループのデフォルトのメンバーです。
	guests	users グループのメンバーとは異なり、guests には Windows Network Neighborhood のフォルダは表示されません。NASサーバに保存されているパブリックフォルダにアクセスすることができます。guest というアカウントはこのグループのデフォルトのメンバーです。
最大グループ	付録 6 を参照	
SharedFolders	public 1	この共有フォルダは/sharen/public 1 フォルダに存在。LAN 上のすべてのユーザはこの共有フォルダを使用できます。フル書込み読取りアクセス権限を持ちます。
新たに作成したフォルダのデフォルト設定	NFS エクスポート設定	読取り書込み
	everyone に権限	読取り書込み
最大共有フォルダ	付録 6 を参照	
外部ユーザー認証	Microsoft Network ユーザドメインコントローラ認証を有効にする。	オフ
	UNIX NIS ネットワークを有効にする。	オフ

この項目は次ページへ続きます。

付録 5 : 用語集

A

Apple Talk

Macintoshで通信を行うためのネットワークプロトコル。最近のMacintosh マシンは、この他にTCP/IP による通信も可能となっています。

C

CIFS (SMB) 共有

CIFS は Windows OS と通信を行うためのプロトコルです。これを使用して、Windows パソコンで共有できるネットワーク・ストレージなどを実現するのが「CIFS (SMB) 共有」です。

D

DHCP

ネットワークに接続したクライアントコンピュータに対して、IP アドレスを自動的に割り当てるプロトコルです。また、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバなどの情報も自動的に取得できるため、このプロトコルを使用すると、クライアントコンピュータの設定が非常に容易になります。

DNS (Domain Name System)

クライアントから送られたホスト名を、IPアドレスに変換して返す分散型データベースシステムです。TCP/IPを使用したネットワークでは、他のコンピュータなどをアクセスするためにIPアドレスが必要になりますが、IPアドレスは単なる数字の羅列に過ぎないため人間には非常にわかりにくいという欠点があります。DNSがあれば、この欠点を補って人間にわかりやすいホスト名で他のパソコンにアクセスすることができます。

IP address (IP アドレス)

TCP/IPを使用したネットワーク（例えばインターネット）で、個々のコンピュータを識別するために使用される32ビット数値です。通常、「192.168.1.1」のように8ビットずつ（10～255）ピリオドで区切った4個の10進数で表記します。

IPアドレスはコンピュータの識別に使用されるため、同じIPアドレスを持つコンピュータがネットワーク上に複数存在してはいけません。

M

MAC Address (マックアドレス)

Ethernetなどで使用されるネットワークインターフェース固有の識別番号です。48ビットの数値ですが、通常「00-A1-CD-65-C4-75」のように8ビットずつハイフンで区切った6個の16進数で表記します。

Ethernetではこの識別番号がネットワークインターフェース製造時に与えられ、これを消去したり、変更することはできません。そのため、あるMACアドレスを持つネットワークインターフェースは世界中で1つしかありません。MACアドレスがわかれば使用しているネットワークインターフェースが特定されます。

N

NFS (Network File System)

UNIX 系のマシンで使用するファイル共有システムです。NFS に対応したネットワーク・ストレージは、Linux などの UNIX 系 OS を搭載したコンピュータで共有することができます。

NIS (Network Information System)

UNIX 系のマシンでアカウントを管理するシステム。本製品を NIS ドメインに参加させると、ユーザーアカウントなどの情報を参照する事が可能になります。

NIS ドメイン

NIS で管理されたネットワーク内のコンピュータグループ。

NTP (Network Time Protocol)

ネットワーク内の時刻調整を特定のサーバに合わせるプロトコル。他のコンピュータはそのサーバを参照して時刻を決定するのでネットワーク内では常に同じ時刻が設定されます。通信の状況等により多少のずれはありえます。

R

root

本製品では、デフォルトでシステムの管理を行うユーザー名にこのアカウントが設定されている。もともとは UNIX 系のシステムで管理を行うユーザーに設定されていました。

S

SMB (CIFS) 共有

Server Message Block の略

Windows OS と通信を行うためのプロトコルでファイルサービスなどを実現します。

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)

E-mail を送信するためのプロトコルです。

SMTP サーバは E-mail を送信するためのサーバとなります。

SNMP (Simple Network Management Protocol)

TCP/IP ネットワークにおいて、コンピュータや、ルータなど、ネットワークに接続された機器を監視・制御するためのプロトコルです。

T

TCP/IP

(Transmission Control Protocol / Internet Protocol) インターネットの標準プロトコルであり、現在最も普及しているプロトコルです。

U

UNIX NIS

NIS の項を参照

W

Windows PDC (Primary Domain Controller)

Windows ドメインに属するコンピュータの各種情報を一元管理するサービスもしくはそのサービスを搭載したサーバ。

WINS (Windows Internet Name Services)

Windows 環境でネットワーク環境内の装置 (パソコンやプリンタなど) を IP アドレスではなくわかりやすい名前へ置き換えるサービス。このサービスを使用すると、端末のコンピュータからはその名前を参照すれば特定の装置へアクセスすることができるようになる。もちろん、端末のコンピュータもわかりやすい名前に設定できる。Windows NT 4.0 以降の Windows 系サーバには WINS サーバ機能がある。

あ行

アクセス権

ファイルやフォルダに対してアクセスするための権利です。アクセス権には、アクセス不可(アクセス拒否)や、読み取り専用(リードオンリー)、無制限(フルアクセス)などのレベルがあります。アクセス権を設定する事により、特定のファイル(フォルダ)に対してアクセス出来ないようにしたり、重要なファイルを書き換えられたり、削除されるのを防ぐ事ができます。

なお、弊社 NAS 製品 (Windows PowerNAS 除く) では共有フォルダのみアクセス権を設定する事ができます。

インターネットプロトコル (IP)

(Internet Protocol) ネットワーク上でのデータ転送のための1つの階層であり、上位に存在するTCPというデータ転送を保存するプロトコルとまとめてTCP/IP といいます。

オートリビルド

RAID 装置で内蔵ドライブに障害が発生した場合、ドライブ交換を行います。交換した新しいドライブに対して自動的にデータを再構築(復旧)してくれる機能がオートリビルドです。

か行

クォータ管理機能

ネットワークストレージに対して、管理者がユーザーごとに本製品の使用容量を決定し、管理することを「クォータ管理」と呼びます。

クォータ管理機能を持つNASサーバを使用すれば、無計画なユーザーがNASサーバの容量をムダ使いすることを防止し、ストレージを有効に使用することができます。

クライアント

ネットワーク上でサービスやデータを受け取るコンピュータを「クライアント」と呼びます。これに対してサービスやデータを提供するコンピュータがサーバです。

「クライアント」はクライアントコンピュータ、クライアントパソコンなどと呼ばれる場合もあります。

ゲートウェイ (Gateway)

ゲートウェイは複数のネットワーク同士の入口/出口です。同一ネットワーク上に存在しないコンピュータにデータを転送するような場合、ゲートウェイ経由でデータは転送されます。

デフォルトゲートウェイは転送先へのルートがわかっていないときに使用されるゲートウェイです。通常、コンピュータにはデフォルトゲートウェイのIPアドレスだけを設定しておけば、あとはそのデフォルトゲートウェイが適切な接続を行います。

さ行

サブネットマスク (subnet mask)

大規模や中規模のLANで、管理を容易にするためにネットワークをさらに細かく分割したものを「サブネット」と呼びます。同一のサブネットに属するパソコンは、同じサブネットアドレス（IPアドレスの一部）を持っていなければなりません。

IPアドレスのうち、どの部分をサブネットアドレスとして使用するかを指定する数値が「サブネットマスク」で、IPアドレスと同じように8ビットの数字（0～255）をピリオドで区切って4つ並べた形（例えば「255.255.255.0」）で表記されます。サブネットアドレスはIPアドレスとサブネットマスクをAND処理することによって求められます。

例えばIPアドレスが「192.168.1.10」でサブネットマスクが「255.255.255.0」の場合、この2つの32ビット値をAND処理して、求められる「192.168.1.0」がサブネットアドレスになります。下表のような3台のパソコンがあった場合、パソコン1とパソコン2は同じサブネットに属していますが、パソコン3は異なるサブネットに属しています。

	パソコン 1	パソコン 2	パソコン 3
IP アドレス	192.168.1.10	192.168.1.15	192.168.2.10
サブ ネット マスク	255.255.255.0		
サブ ネット アドレス	192.168.1.0		192.168.2.0

た行

ドメイン

ネットワーク内のコンピュータグループを「ドメイン」と呼びます。

ドメインはWindows ドメイン、NIS ドメイン等のように管理単位ごとに様々なタイプがあります。

は行

フェイルオーバー (Fail over)

システムや機器の一部が二重化され、片方に障害が発生しても、もう片方が自動的に代替え処理を行うように設計されている場合、このような自動代替え処理を「フェイルオーバー」と呼びます。例えばLANポートを2個実装したNASで、片方に障害が発生しても、自動的にもう片方のLANポートを経由して正常にアクセスできる機能です。

プロトコル (Protocol)

コンピュータが通信を行う際の手順や決まりごと。

ホットスワップ

複数のドライブを内蔵したRAID装置などで、システムの稼働中のままでもドライブを交換できる機能を「ホットスワップ」と呼びます。

ホットスワップ機能を持ったRAID装置は、1台のドライブに故障が発生しても電源をOFFにする必要がないため、可用性が高くなります。

ら行

ルータ

セグメントが異なる複数のネットワークを接続するための装置です。ルータがあれば、異なるセグメント間でもデータの転送を行うことができます。

付録6：設定制限表

		本製品推奨値	WindowsXP	WindowsMe	Windows98	Windows2000	WindowsNT4.0	MacOS 9	MacOS X	Linux	
サーバ名	最大文字数	半角14文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別なし)、数字、下線、マイナス									
	その他制限事項	先頭を英字にすること									
アカウント名	最大文字数 (半角)	OSに依存 2	20/64文字	20文字	20文字	20/64文字	20文字	31文字	63文字	1	
	使用可能文字	英(大文字小文字区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語									
	その他制限事項	全角文字は機種依存文字を使用しないこと									
パスワード	最大文字数	12文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別あり)、数字、記号、スペース									
	その他制限事項	全角文字使用不可、rootのパスワードは省略不可									
コメント	最大文字数	半角128文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字区別あり)、数字、ドット、下線、マイナス、スペース、全角日本語									
	その他制限事項	全角文字は機種依存文字を使用しないこと									
グループ名	最大文字数	半角15文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語									
	その他制限事項	先頭を英字、数字、ドット、下線、全角日本語にすること									
共有フォルダ名	文字数 (半角)	OSに依存 2	15文字	12文字	12文字	15文字	12文字	15文字	15文字	15文字	
	使用可能文字	英字(大文字小文字区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語								英字(大文字小文字区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス	
	その他制限事項										
フォルダ名	文字数	OSに依存 2	フルパスで半角245文字以内					半角31文字		半角255文字	
	使用可能文字	OSに依存 2	英字(大文字小文字区別なし)、数字、一部記号スペース、全角日本語					英字(大文字小文字区別あり)、数字、下線		英字(大文字小文字区別あり)、数字、下線	
	その他制限事項	OSに依存 2	機種依存文字使用不可、半角記号「¥/,:;*"?<> 」使用不可					機種依存文字使用不可		全角未対応	
ファイル名	文字数	OSに依存 2	フルパスで半角256文字以内					半角31文字		半角255文字	
	使用可能文字	OSに依存 2	英字(大文字小文字区別なし)、数字、一部記号スペース、全角日本語					英字(大文字小文字区別あり)、数字、下線		英字(大文字小文字区別あり)、数字、下線	
	その他制限事項	OSに依存 2	機種依存文字使用不可、半角記号「¥/,:;*"?<> 」使用不可					機種依存文字使用不可		全角未対応	
1ファイル容量上限		OSに依存 2	1TB未満	500GB	2GB未満	1TB未満	1TB未満	4GB未満	4GB未満	2GB未満	
フォルダ階層数		OSに依存 2	フルパスで256文字以内								
登録可能共有フォルダ数		32フォルダ(LAS-RAXXN/Hのみ64フォルダ可能) 3									
登録可能アカウント数		***	256アカウント(LAS-RAXXN/Hのみ2048アカウント可能) 4					30ホスト(NFS共有)			
登録可能グループ数		***	64グループ(LAS-RAXXN/Hのみ512グループ可能) 5					***			

1：Linux での共有はアカウント名/パスワードで管理しないので対象外です。 2：複数の OS で共存するときは一番厳しい条件に合わせてください。
 3：Public1 フォルダも含む。 4：root、guest アカウントも含む。 5：admins、users、guests グループも含む
 : 本仕様については予告無く変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

付録7 : LogitecNAS Backup バックアップ項目一覧

		システム情報 のバックアップ	ユーザアカウントと グループのバックアップ	ユーザアカウントと グループ及びデータの バックアップ	システム情報、 ユーザアカウント、 グループ及びデータの バックアップ
基本設定	サーバ名		-	-	
	ドメイン名		-	-	
	DNSサーバ		-	-	
	IPアドレス(LAN1、LAN2)		-	-	
	サブネットマスク		-	-	
	デフォルトゲートウェイ		-	-	
日付設定		-	-		
言語設定		-	-		
通知設定(電子メールアドレス)		-	-		
共有フォルダ設定		-	-		
ユーザ権限		-	-		
NFS 権限		-	-		
アカウント設定		-	-		
グループ設定		-	-		
ディスク割当の設定		(*1)	(*1)	(*1)	(*1)
セキュリティオプション			-	-	
Windowsドメイン	Windows ネットワークを有効にする	(*2)			
	ワークグループ	-			
	ドメイン	-			
	NT PDCサーバ名	-			
	WINSサーバ	-			
Unixネットワーク		-			
Apple Networking		-	-		
Novel Networking		-	-		
インターネットネットワーク		-	-		
ホームフォルダ		-			
ホームフォルダ内データ		-			
共有フォルダ		-			
共有フォルダ内データ		-			
リソースフォーク		-			
隠しファイル		-			
書込み禁止属性ファイル		-			
SNMP管理		-	-		
UPS管理		-	-		

- 1 バックアップできませんので個別に控えておいてください。
- 2 WINS サーバの設定はバックアップできません。

付録 8 : LogitecNAS Backup 復元 (リストア) 項目一覧

基本設定	サーバ名	
	ドメイン名	
	DNSサーバ	
	IPアドレス(LAN1、LAN2)	
	サブネットマスク	
	デフォルトゲートウェイ	
日付設定		
言語設定		
通知設定 (電子メールアドレス)		
共有フォルダ設定		
ユーザ権限		
rootパスワード		
NFS 権限		
アカウント設定		
グループ設定		
ディスク割当の設定		(*1)
セキュリティオプション		
Windowsドメイン	Windows ネットワークを有効に	
	ワークグループ	
	ドメイン	
	NT PDCサーバ名	
	WINSサーバ	(*2)
Unixネットワーク		
Apple Networking		
Novel Networking		
インターネットネットワーク		
すべてのファイルおよびディレクトリ		(*3)
SNMP管理		
UPS管理		

: デフォルトでは選択されておりません、データを復元 (リストア) する際は、チェックを入れてください。

*1 復元 (リストア) できませんので個別に設定してください。

*2 WINS サーバの設定は復元 (リストア) できません。

*3 すべてのファイルおよびディレクトリ はホームフォルダ、ホームフォルダ内データ、共有フォルダ、共有フォルダ内データ、リソースフォーク隠しファイル、書込み禁止属性ファイルを含みます。

ソフトウェアマニュアル LAS-SFB V05

2004年 11月改訂

 **ロジテック株式会社**
<http://www.logitec.co.jp/>
